

# 鳥取短期大学 自己点検・評価報告書

令和元年 6 月

# 鳥取短期大学

## 自己点検・評価報告書

令和元年 6 月

## 目次

自己点検・評価報告書 .....	1
1. 自己点検・評価の基礎資料 .....	2
2. 自己点検・評価の組織と活動 .....	13
<b>【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】</b>	
[テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神] .....	22
[テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果] .....	26
[テーマ 基準Ⅰ-C 内部質保証] .....	34
<b>【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】</b>	
[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程] .....	40
[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援] .....	58
<b>【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】</b>	
[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源] .....	71
[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源] .....	80
[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源] .....	84
[テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源] .....	85
<b>【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】</b>	
[テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ] .....	94
[テーマ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ] .....	96
[テーマ 基準Ⅳ-C ガバナンス] .....	99
<b>【資料】</b>	
[様式 9] 提出資料一覧	
[様式 10] 備付資料一覧	
[様式 11～17] 基礎データ	

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、一般財団法人短期大学基準協会の認証評価を受けるために、鳥取短期大学の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和元年 6 月 28 日

理事長

山田 修平

学長

松本 典子

ALO

野津 伸治

様 式 4

自己点検・評価の基礎資料

## 様式 4—自己点検・評価の基礎資料

## 1. 自己点検・評価の基礎資料

## (1) 学校法人及び短期大学の沿革

## ＜学校法人の沿革＞

昭和 46 年 4 月	鳥取女子短期大学を開学 大学敷地内に別法人の鳥取女子短期大学附属幼稚園を開園
平成 4 年 4 月	学校法人鳥取女子短期大学から学校法人藤田学院へ法人名称変更
平成 13 年 4 月	鳥取女子短期大学を男女共学とし、大学名称を鳥取短期大学に変更 (鳥取女子短期大学附属幼稚園を鳥取短期大学附属幼稚園に名称変更)
平成 22 年 4 月	学校法人鳥取短期大学附属幼稚園を学校法人藤田学院に統合
平成 23 年 4 月	認定こども園鳥取短期大学附属幼稚園(幼稚園型)に移行
平成 24 年 4 月	認定こども園鳥取短期大学附属幼稚園・鳥取短期大学附属保育園(幼保連携型)に移行
平成 27 年 4 月	鳥取看護大学看護学部看護学科を開学 認定こども園鳥取短期大学附属幼稚園・鳥取短期大学附属保育園(幼保連携型)を新たな幼保連携型の認定こども園に移行
平成 28 年 4 月	認定こども園鳥取短期大学附属こども園に名称変更
平成 31 年 4 月	鳥取看護大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置

## ＜短期大学の沿革＞

昭和 46 年 4 月	鳥取女子短期大学(英語科・家政科・幼児教育科)を開学
昭和 48 年 4 月	英語学科・家政学科・幼児教育学科に名称変更 家政学科を家政専攻・食物栄養専攻に分離 栄養士養成、保母養成指定施設となる
昭和 49 年 4 月	図書館司書講習認定の指定校となる
昭和 52 年 4 月	専攻科(英語専攻・家政学専攻・幼児教育学専攻)を設置
昭和 54 年 4 月	家政学科家政専攻を家政学科生活科学専攻に名称変更
平成 元年 4 月	専攻科幼児教育学専攻が介護福祉士養成の指定施設となる
平成 3 年 4 月	専攻科幼児教育学専攻を福祉専攻に名称変更
平成 4 年 4 月	英語学科・家政学科を英語英文学科・生活学科に名称変更 専攻科福祉専攻が学位授与機構の認定校となる
平成 6 年 4 月	日本文化学科を設置
平成 8 年 4 月	学位授与機構認定の専攻科日本文化専攻を設置
平成 9 年 4 月	専攻科家政学専攻を廃止し、専攻科生活科学専攻を設置
平成 10 年 4 月	学位授与機構認定の専攻科食物栄養専攻を設置

平成 12 年 4 月	生活科学専攻を分離し、生活経済専攻と住居・デザイン専攻を設置 日本文化学科と英語英文学科を統廃合し、国際文化交流学科を設置
平成 14 年 4 月	専攻科生活科学専攻を廃止し、専攻科住居専攻を設置
平成 15 年 4 月	大学評価・学位授与機構認定の専攻科国際文化専攻を設置 専攻科経営情報専攻を設置
平成 17 年 4 月	生活学科生活経済専攻を生活学科情報・経営専攻に名称変更
平成 18 年 3 月	(財)短期大学基準協会より「第三者評価」で「適格」と認定される
平成 18 年 4 月	幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更
平成 21 年 4 月	専攻科福祉専攻が大学評価・学位授与機構の認定を取り下げる
平成 22 年 4 月	専攻科住居専攻を専攻科住居・デザイン専攻に名称変更
平成 25 年 3 月	(財)短期大学基準協会より「第三者評価」で「適格」と認定される
平成 31 年 4 月	専攻科福祉専攻を廃止し、専攻科幼児教育専攻を設置

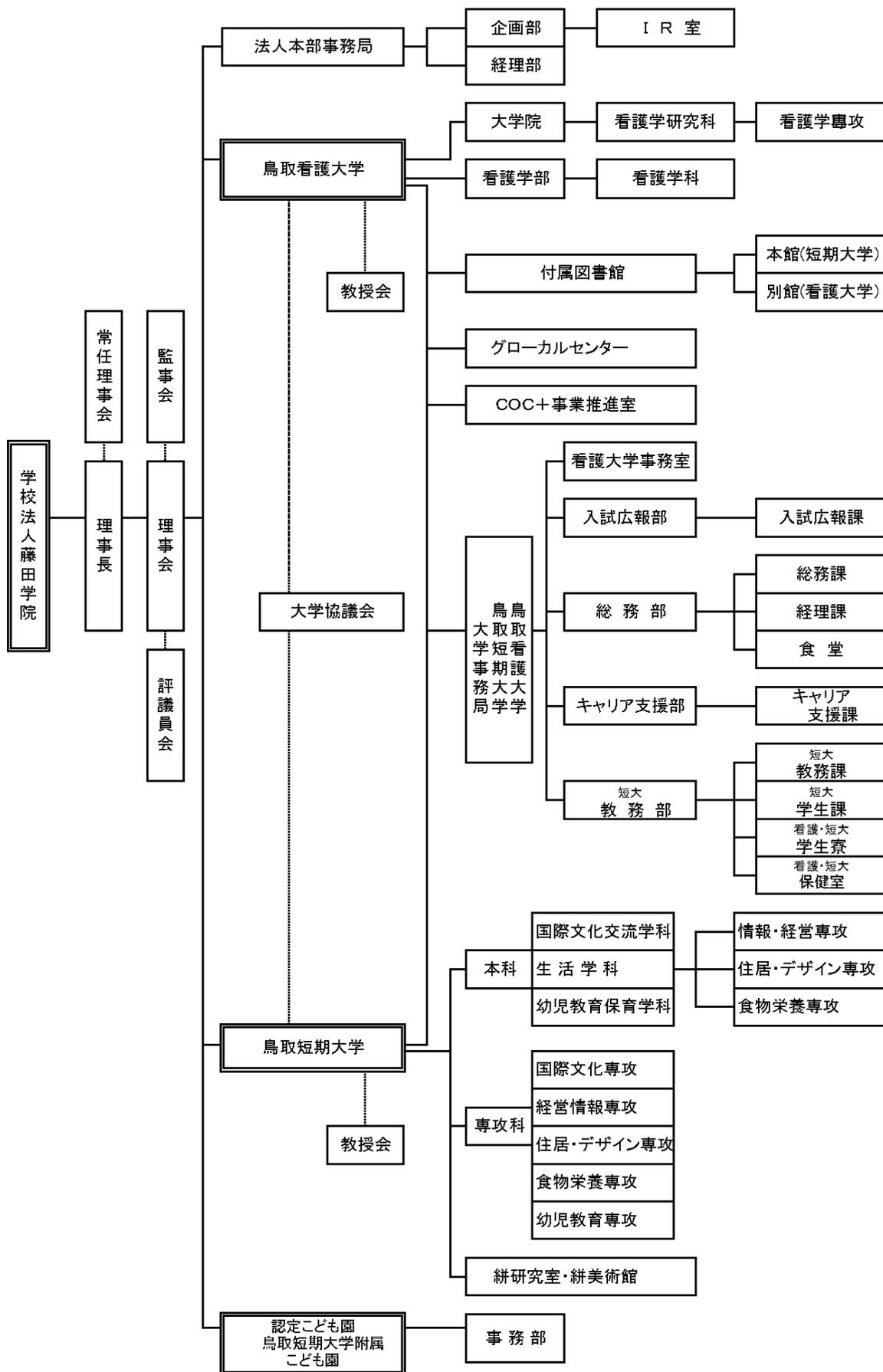
## (2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 令和元年 5 月 1 日現在

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
鳥取看護大学	鳥取県倉吉市福庭 854 番地	80	320	322
鳥取短期大学	同上	300	600	545
認定こども園 鳥取短期大学 附属こども園	同上		160	152

## (3) 学校法人・短期大学の組織図

- 組織図
- 令和元年 5 月 1 日現在



※ 必要に応じて委員会を置くことができる。

## (4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

## ■ 立地地域の人口動態（短期大学の立地する周辺地域の趨勢）

鳥取県の人口は 57 万人足らずで、全国 47 都道府県の中でもっとも少ない。県内に開設されている大学は、本学および鳥取看護大学（本法人）のほか鳥取大学（国立大学法人）、公立鳥取環境大学（公立大学法人）があり、本学は山陰地方に立地する唯一の私立短期大学である。

下の表は、過去 5 年間の鳥取県・島根県の人口動態である。平成 30 年は前年と比べて、鳥取県では 4,700 人余り、島根県では 5,000 人余り、合計約 9,700 人が減少している。

（単位：人）	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
鳥取県	576,626	573,441	569,579	565,233	560,517
島根県	697,015	694,352	689,817	684,668	679,626

（出典）鳥取県統計課（<http://www.pref.tottori.lg.jp/128501.htm>）「鳥取県の人口の推移」および島根県政策企画局統計調査課（<http://pref.shimane-toukei.jp/upload/user/00020606-ZRP4Mh.xls>）「島根の人口移動と推計人口」による。いずれも平成 30 年 10 月 1 日現在。

## ■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

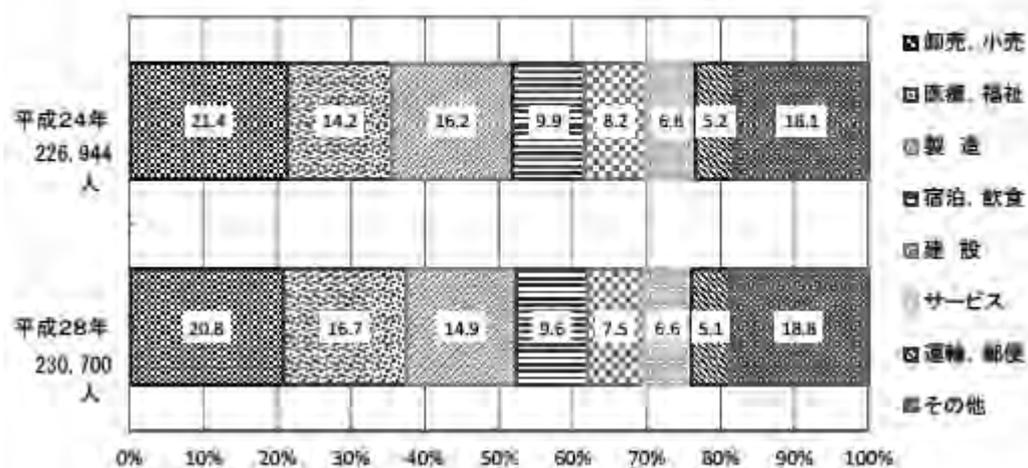
(5 月 1 日現在の入学者)

地域	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	人数 (人)	割合 (%)								
鳥取県	445	77.8%	408	77.4%	411	78.6%	435	78.5%	480	84.7%
東部	210	36.7%	189	35.9%	185	35.4%	187	33.8%	203	35.8%
中部	111	19.4%	105	19.9%	104	19.9%	104	18.8%	118	20.8%
西部	124	21.7%	114	21.6%	122	23.3%	144	26.0%	159	28.0%
島根県	112	19.6%	106	20.1%	96	18.4%	98	17.7%	77	13.6%
その他	15	2.6%	13	2.5%	16	3.1%	21	3.8%	10	1.8%
合 計	572		527		523		554		567	

## ■ 地域社会のニーズ

鳥取県の統計データによると平成 28 年度では、産業大分類別の従事者数の上位 3 位までが「卸売・小売」、「医療・福祉」、「製造」である。

図2 産業大分類別従業者数の構成比（表2のグラフ）



引用) 鳥取県地域振興部統計課の「平成28年経済センサス活動調査」より抜粋

そして、本学の平成30年度卒業生の職種別就職の状況は次の表の通りである。保育士・幼稚園教諭および栄養士、建築・土木・測量技術者等の学科・専攻の特性を活かした専門職に就く割合がおおよそ6割を超えており、続いて、一般事務職やサービス接遇、販売従事者の割合が3割弱である。県のデータに示されている医療・福祉分野の人材育成には本学としても貢献しているといえる。

平成30年度の就職（職種別）	人数	割合
保育士	103人	42%
保安職業従事者	3人	1%
事務従事者	30人	12%
栄養士	21人	9%
サービス接遇	15人	6%
販売従事者	26人	10%
建築・土木・測量技術者	9人	3%
幼稚園教諭	10人	4%
介護・生活支援員	5人	2%
調理員	1人	1%
生産工程従事者	7人	3%
機械・電気技術者	1人	1%
情報処理・通信技術者	8人	3%
運輸・清掃従事者	2人	1%
図書館司書	1人	1%
その他	2人	1%

## ■ 地域社会の産業の状況

鳥取県は、北は日本海、南は中国山地にかこまれ、豊かな自然に恵まれた地域である。こうした豊かな自然を背景として、海の幸、山の幸が豊富にある。

山陰の冬の味覚を代表する松葉がにをはじめ、アジ、ブリ、マグロ、イカ、ハタハタ等、獲れる魚は豊富である。

海岸部では砂丘農業が営まれ、砂丘らっきょうや長いものが生産されている。小高い丘陵地域では二十世紀梨が生産され、国内はもちろん、東南アジアやアメリカ等、海外へ輸出されている。

平成 27 年国勢調査における産業別 15 歳以上就業者の割合は、鳥取県は第 1 次産業 9.1%（全国 4.0%）、第 2 次産業 22.0%（25.0%）、第 3 次産業（含む公務員）68.9%（71.0%）である。全国と比べて漁業・農業といった第 1 次産業の比率が高いことは、地域社会の産業構成とも関係しているといえよう。

## ■ 短期大学所在の市区町村の全体図

倉吉市は人口約 5 万人で、鳥取県東部の鳥取市、西部の米子市に次ぐ、中部の中核都市である。周囲を温泉（三朝温泉・羽合温泉・東郷温泉・関金温泉）に囲まれた緑豊かな町である。

農業を主要な産業としており、梨・スイカ・メロン等が、鳥取県中部の代表的な農産物であり、鳥取県産の二十世紀梨の主要な産地はこの中部（特に東郷産）である。

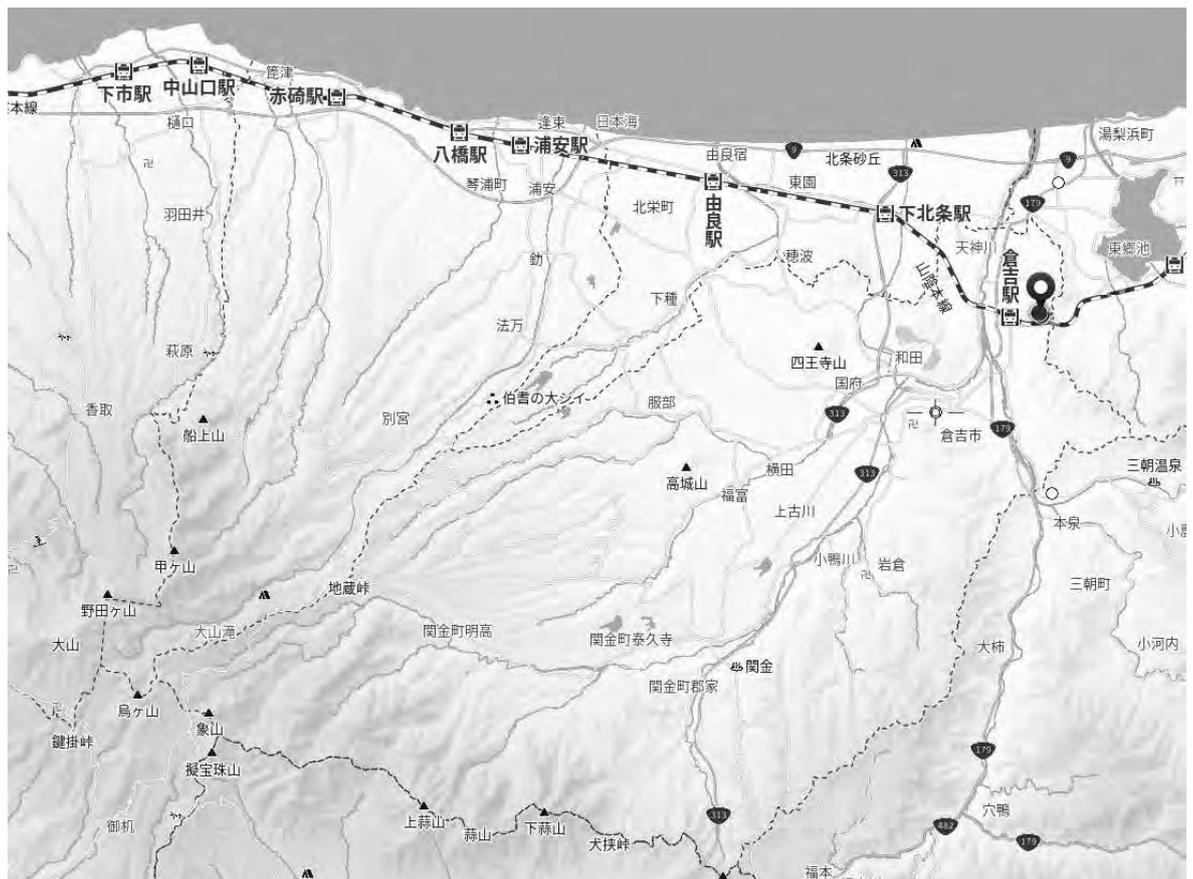
歴史は古く、奈良・平安時代には伯耆国の国府が現在の倉吉市西部にあり、豊かな穀倉地帯であった。南北朝時代には、現在の倉吉市の中心に位置する打吹山（うつぶきやま）に城が築かれ、城下町として発展し、その面影はいまでも玉川沿いの白壁土蔵群や商家の町並に見ることができる。

本学は、JR 山陰本線の倉吉駅から約 2 km の小高い大平山の中腹にあり、緑に覆われた静かな環境である。構内からは、中国一を誇る大山（だいせん）、隣の岡山県との県境にある蒜山（ひるぜん）、さらには日本海をも見ることができる豊かな景観に恵まれた場所に位置している。

(鳥取県の全体図)



(倉吉市の全体図)



(鳥取短期大学および JR 倉吉駅周辺の地図)



本学は、倉吉市の北東、湯梨浜町との境界近くに位置し、JR 倉吉駅からはスクールバス（無料）で約 5 分、徒歩では約 20 分のところにある。

(地図出典：「とりネット」<https://www.pref.tottori.lg.jp/9577.htm>

「Mapfan」<https://mapfan.com/>)

(5) 課題等に対する向上・充実の状況

① 前回の評価結果における三つの意見の「向上・充実のための課題」で指摘された事項への対応について（基準別評価票における指摘への対応は任意）

(a) 改善を要する事項（向上・充実のための課題）

基準 I 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

○ 建学の精神、めざす学生像、教育理念等は学生便覧や本学ホームページでも公表しているが、短期大学案内にも記載し、志願者への資料提供を図られたい。

<p>基準Ⅱ 教育課程と学生支援</p> <p>[テーマB 学生支援]</p> <p>○ 国際文化交流学科においては、教員同士の授業見学の機会が設けられているが、その他の学科では機会は少なく、全学的にも制度化された授業参観や授業公開の機会はないので、FD 活動の中で検討されたい。</p>
(b) 対策
<p>基準Ⅰ-A</p> <p>本学ホームページ、鳥取短期大学カレッジガイド（以下、カレッジガイド）等の各種媒体において継続的な記載を実施している。</p> <p>基準Ⅱ-B</p> <p>平成27年度より前期・後期各1回授業公開・見学を実施している。公開期間は2週間である。専任教員は原則すべての授業を公開するが、受講者数が5名以下の場合は、可能な場合に授業担当者が申し出る。また、了解を得られた非常勤講師の授業も公開している。事務職員を含む全教職員が見学を行い、「授業の良いところ」「提案したいこと」等のコメントを提出し、授業担当者が授業改善に役立てられるようにしている。</p>
(c) 成果
<p>基準Ⅰ-A</p> <p>本学を志願する者からは、その動機の一つとして教育理念等をあげる場合があり、その情報収集媒体として本学ホームページやカレッジガイドが利用されている。また、藤田学院ガイドブック（以下、法人ガイド）については、主として高等学校長との懇談会、地域交流の場において活用されている。</p> <p>基準Ⅱ-B</p> <p>教職員は、授業見学を通して大学全体の教育の実態および学生の様子をより広範に把握している。教員は見学した内容を自身の授業への参考とするとともに、見学者より提出されたコメントを踏まえて授業改善を図っている。改善内容は見学ポイントに記載して授業公開前に示すことにより、PDCAサイクルを回し授業公開・見学の成果の向上を図っている。また事務職員は、大学の教育内容を理解し、学生の様子を把握することにより、教務課、学生課、キャリア支援課等の本務に活かしている。</p>

## ② 上記以外で、改善を図った事項について

(a) 改善を要する事項
①特定の学期に学生が過大な受講登録を行う可能性がある。 ②学生の学習成果を把握する一般性のある指標を設定する。 ③授業評価アンケートの結果をFD活動に積極的に利用する。
(b) 対策
①各学期に学生が受講の登録を行うことができる単位数の上限を定める制度を設けた（CAP制）。 ②成績の総合的な基準として、GPA（Grade Point Average）制度を取り入れた。 ③授業評価アンケートに基づいたティーチング・アワード表彰を設けた。
(c) 成果
①各期、年次にわたって学生は適切にバランスよく授業科目を履修することをめざした。 ②学習成果の達成度を把握できるようになった。 ③顕著な成果をあげた教員の教育実践を全学に広め、教育改善を図ることができた。

## ③ 前回の評価結果における三つの意見の「早急に改善を要すると判断される事項」で指摘された事項の改善後の状況等について

(a) 指摘事項及び指摘された時点での対応（「早急に改善を要すると判断される事項」）
該当なし
(b) 改善後の状況等
該当なし

## ④ 評価を受ける前年度に、文部科学省の設置計画履行状況等調査において改善意見等が付された短期大学は、改善意見等及びその履行状況を記述してください。

(a) 改善意見等
該当なし
(b) 履行状況
該当なし

## (6) 短期大学の情報の公表について

■ 令和元年5月1日現在

## ① 教育情報の公表について

No.	事 項	公 表 方 法 等
1	大学の教育研究上の目的に関すること	本学ホームページ上の「情報公開」のコンテンツの中に「教育情報の公開」として公開している。 ( <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878</a> )
2	卒業認定・学位授与の方針	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧にも記載している。
3	教育課程編成・実施の方針	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧にも記載している。
4	入学者受入れの方針	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧と学生募集要項にも記載している。
5	教育研究上の基本組織に関すること	上記ホームページを通して公開している。
6	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	上記ホームページを通して公開している。
7	入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	上記ホームページを通して公開している。
8	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	上記ホームページを通して公開している。
9	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧にも記載している。
10	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	上記ホームページを通して公開している。

11	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧と学生募集要項にも記載している。
12	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事	上記ホームページを通して公開している。 また、学生便覧とキャリアガイドブックにも記載している。

## ② 学校法人の財務情報の公開について

事 項	公 開 方 法 等
財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書	本法人ホームページ上の「情報公開」のコンテンツの中に「財務情報」として公開している。 ( <a href="https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5931">https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5931</a> )

## (7) 公的資金の適正管理の状況（平成30年度）

文部科学省および他府省が所管する競争的資金制度に基づく公的研究費補助金に関しては「鳥取短期大学研究費管理規程」に定めている。また研究活動における不正行為を防止するため「鳥取短期大学研究活動の不正行為への対応等に関する規程」を定め事務局各部署が連携をとっている。

## 2. 自己点検・評価の組織と活動

## ■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

担当者	構成員
松本典子	学長（委員長）
渡邊太	国際文化交流学科学科長
岩井和由	生活学科情報・経営専攻学科長
清水文人	生活学科住居・デザイン専攻学科長
亀崎幸子	生活学科食物栄養専攻学科長
國本真吾	幼児教育保育学科学科長
近藤剛	教務委員長
前田夏樹	学生委員長
松島文子	学術委員（委員長代理）
河村壮一郎	図書館長、FD委員長
森田輝雄	事務局長、企画部長、SD委員長
山本勝康	総務部長
岩本彰	経理部長、IR室長
岡野幸夫	教務部長、学習成果部会長

三沢英貴	入試広報副部長（部長代理）
羽根田真弓	キャリア支援部長（短期大学担当）
岡本達也	グローバルセンター副センター長（センター長代理）
野津伸治	報告書作成部会長、IR 部会長、ALO
高橋千恵子	教務部次長（事務局）

※専攻も学科とみなし学科長をおいている（鳥取看護大学・鳥取短期大学職制規程）

#### 実施部会（担当者）

- ・報告書作成部会

野津伸治（部会長）、岡野幸夫、藤本直子、尾崎せい子、野津あきこ、南潮、山田彩、前田千絵、吉田恵（事務局）

- ・学習成果部会

岡野幸夫（部会長）、渡邊太、岩井和由、清水文人、亀崎幸子、國本真吾、高橋千恵子（事務局）

- ・IR 部会

野津伸治（部会長）、野津あきこ、南潮、吉田恵、山田彩、前田千絵（事務局）

#### ■自己点検・評価の組織図

##### 理事長

↑ 報告

##### 自己点検・評価運営委員会

委員長：学長

委員：各学科長、教務委員長、学生委員長、学術委員長、FD 委員長、SD 委員長、図書館長、事務局長、各部長、グローバルセンター長、各実施部会長

- ・規程や中期計画に則り点検・評価項目を設定し、必要に応じて実施部会を設置する。
- ・実施部会の報告を基に協議、総括し評価する。
- ・年度末に自己点検・評価の結果を理事長に報告し、公表する。

↑ 報告

##### 実施部会

構成員：自己点検・評価運営委員会および全学から委員長が選任

- ・設定された項目について調査・分析・検討する。
- ・その結果を自己点検・評価運営委員会に報告する。

平成 30 年度実施部会：

報告書作成部会      学習成果部会      IR 部会

#### ■組織が機能していることの記述

自己点検・評価運営委員会は、全学科・専攻、教授会専門委員会および FD、SD 委員会、事務局各部署、附属機関（併研究室・併美術館除く）の代表より構成され、必要に応じて実施部会を設置する。平成 30 年度以降は、学習成果部会、IR 部会、報告書作成部会の 3 部会を設置している。実施部会は学科・専攻と専門性の視点から選任された教職員で構成され、設定された調査項目を調査・分析・検討する。その結果は各部会長が適宜自己点検・評価運営委員会に報告する。各委員会においても年度ごとに関連する課題を設定し、計画に基づいて活動し、年度途中で中間報告、年度末に年間の活動報告を行うこととしている。自己点検・評価運営委員会では、それぞれの報告に基づいて協議して総括し、評価を行い、必要な場合は見直しを図りながら次の行動計画の策定に反映させている。このように自己点検・評価運営委員会は、自己点検・評価の核であり、本学の教育改善、教育の質保証のための重要な役割を果たしている。

#### ■自己点検・評価報告書完成までの活動記録

本自己点検・評価報告書の作成に当たっては、報告書作成部会長でもある ALO が責任者となり、まず自己点検・評価運営委員会において各観点についての検討を行い、作成方針を決定した。中核となる学習成果については、教務部長を部会長として各学科長より構成される学習成果部会において各学科のデータおよび IR 部会の分析結果等を含めて協議を重ね、根拠資料との整合性等の細部にわたるチェックは報告書作成部会が担い、最終的に自己点検・評価運営委員会でとりまとめた。

平成 30 年度の自己点検・評価運営委員会、報告書作成部会および学習成果部会の活動は以下の通りである。

#### ◆自己点検・評価運営委員会

【平成 30 年度】

第 1 回

日時：平成 30 年 5 月 2 日（水）16：10～17：40

議題： 1. 平成 30 年度の取り組み方針について  
2. 平成 31 年度認証評価について

第 2 回

日時：平成 30 年 5 月 29 日（火）16：30～18：20

- 議題： 1. 平成 29 年度自己点検・評価報告書について  
2. 平成 31 年度認証評価について

### 第 3 回

日時：平成 30 年 6 月 19 日（火）16：30～18：30

- 議題： 1. 平成 29 年度自己点検・評価報告書（最終版）について  
2. 平成 30 年度 PDCA サイクルについて  
3. 平成 31 年度自己点検・評価報告書について

### 第 4 回

日時：平成 30 年 7 月 31 日（火）16：30～16：50

- 議題： 1. 認証評価の観点に基づいた規程のチェックについて  
2. 報告書根拠資料の書き直しについて  
3. 報告書の再チェックについて  
4. 平成 31 年度認証評価 ALO 対象説明会について  
5. その他

①平成 31 年度認証評価のスケジュール

### 第 5 回

日時：平成 30 年 8 月 28 日（火）16：30～17：45

- 議題： 1. 平成 31 年度認証評価 ALO 対象説明会報告  
2. 各学科 PDCA サイクルのチェック  
3. 認証評価スケジュールの確認  
4. IR 部会  
5. アセスメントポリシーについて  
6. 学生代表を含めた 3 つのポリシーの点検について  
7. 学生代表を含めた授業評価アンケート FD について

### 第 6 回

日時：平成 30 年 9 月 25 日（火）16：30～17：45

- 議題： 1. 平成 31 年度認証評価について  
2. 4 つのアンケートについて  
3. IR 部会  
4. 今年度の取り組み状況について（中間報告）  
5. 学習成果部会に関する内規について  
6. その他

①アセスメントポリシーについて

### 第 7 回

日時：平成 30 年 10 月 30 日（火）16：30～18：00

- 議題： 1. 平成 31 年度認証評価スケジュールの確認  
2. 役割分担の確認  
3. 平成 31 年度自己点検・評価報告書について

4. 大所高所からのチェックによる修正の指示について
5. 例規集に基づいた規程のチェックについて
6. 提出・備付資料について
7. 各学科 PDCA サイクルについて
8. 雇用主アンケートについて
9. 学生代表を含めた3つのポリシーの適切性に関する点検・評価
10. 学生代表を含めた授業評価に関わる FD
11. その他
  - ①タイプ1について

#### 第8回

日時：平成30年11月27日（火）16：30～17：15

- 議題： 1. 平成31年度自己点検・評価報告書について
2. 平成31年度認証評価スケジュールの確認
  3. 平成31年度予算について
  4. 規程の一括改定について

#### 第9回

日時：平成30年12月25日（火）16：30～17：15

- 議題： 1. 認証評価スケジュールの確認
2. 平成31年度自己点検・評価報告書について
  3. 備付資料、提出資料の確認
  4. 規程の確認
  5. 平成30年度「前期」授業評価アンケート結果について

#### 第10回

日時：平成31年1月29日（火）16：30～16：45

- 議題： 1. 認証評価スケジュールの確認
2. 平成31年度自己点検・評価報告書について
  3. 規程の確認
  4. その他
    - ①今後の予定の確認

#### 第11回

日時：平成31年2月27日（水）16：30～17：30

- 議題： 1. 私立大学研究ブランディング事業評価票について
2. 認証評価スケジュールの確認
  3. 平成31年度自己点検・評価報告書について
  4. 規程の整備状況について
  5. 報告書根拠資料（提出資料、備付資料）
  6. その他
    - ①今年度のまとめについて

#### 第12回

日時：平成 31 年 3 月 27 日（水）13：00～14：45

- 議題： 1. 私立大学研究ブランディング事業評価票について  
2. 平成 31 年度認証評価について  
3. 今年度の自己点検・評価のまとめ  
4. その他  
①学生の取得単位数について

◆報告書作成部会

報告書作成部会は、自己点検・評価運営委員会の下に令和元年度認証評価の報告書を作成・編集するため平成 29 年度に設けられた。本メンバーは各学科・専攻所属の教員および事務職員で構成している。具体的な活動内容は以下の通りである。

【平成 30 年度】

第 1 回

日時：平成 30 年 5 月 15 日（火）16：30～18：00

- 議題： 1. メンバー  
2. 報告書作成部会のミッション  
3. スケジュール  
4. 共有フォルダでデータ等のファイルの管理  
5. 作業担当  
6. 「9 月 26 日版の報告書」を 12 月 13 日までにチェックした課題  
7. 平成 31 年度事業のスケジュール  
8. 執筆担当者の交代  
9. その他

第 2 回

日時：平成 30 年 6 月 12 日（火）16：30～17：05

- 議題： 1. 平成 30 年度 PDCA サイクルの HP 公開について  
2. 平成 29 年度簡易報告書（○△×）の HP 公開について  
3. 5 月 2 日ベース自己点検・評価報告書の根拠資料と引用の書き直しについて  
4. 提出資料・根拠資料の整備状況について  
5. その他

第 3 回

日時：平成 30 年 7 月 10 日（火）16：30～17：05

- 議題： 1. 平成 30 年度 PDCA サイクルの HP 公開について  
2. 平成 29 年度簡易報告書（○△×）の HP 公開について  
3. 6 月 13 日ベース自己点検・評価報告書の根拠資料と引用の書き直しについて  
4. 提出資料・根拠資料の整備状況について（報告）  
5. 平成 31 年度認証評価 ALO 対象説明会（8 月 24 日）の質問項目の募集に

ついて

6. その他

第4回

日時：平成30年8月21日（火）13：00～13：35

- 議題：
1. 各委員会の規程の平成31年度認証評価への対応状況
  2. 平成31年度認証評価の提出資料と備付資料の作成進捗状況
  3. 平成31年度認証評価と平成24年度第三者評価（学長室からの移管）の物理的な資料をC301室内ロッカーへ。保管体制（鍵の手配）。
  4. 7分野の平成30年度PDCAサイクル（HP公開済み）とそれに基づく各学科のPDCAサイクルの進捗状況（食物のみ提出、他学科の作成は？）
  5. 平成31年度認証評価AL0対象説明会（8月24日）への参加
  6. 平成31年度認証評価の報告書（8月7日版をベースに）の大所高所からのチェック（学長・教務部長・新旧AL0・経理部長）
  7. 平成31年度認証評価の受審申請（7月31日）の受理と平成31年度の訂正
  8. その他

第5回

日時：平成30年9月11日（火）13：00～14：10

- 議題：
1. AL0説明会（平成30年8月24日）の報告
  2. 今後のスケジュール（全体/部会）の確認
  3. 大所高所のチェック（学長）からの指示伝達
  4. 自己点検・評価運営委員会（8月28日）の報告
  5. IR部会の報告
  6. 規程のチェックの進捗状況
  7. 各種資料の集まり具合
  8. 自己点検・評価運営委員会の次回（9月25日）へ前期の活動報告
  9. その他

第6回

日時：平成30年10月16日（火）16：30～17：15

- 議題：
1. 平成30年度学科別PDCAサイクルの提出状況について
  2. 雇用主アンケート分析結果の各学科・委員会での活用状況について
  3. 自己点検・評価報告書の大所高所チェックの提出状況について
  4. 大所高所チェックの結果に基づく自己点検・評価報告書の修正状況について
  5. 規程のチェックの進捗状況について
  6. 提出資料・根拠資料の整備状況について
  7. 今後のスケジュールについて
  8. 平成30年度予算執行状況と平成31年度予算要求について
  9. その他

第7回

日時：平成 30 年 11 月 13 日（火）16：30～17：25

- 議題： 1. 平成 31 年度予算要求について  
2. 報告書のチェック（執筆用語の正式名称、書式フォームの統一、引用資料番号のナンバリング、その他）について  
3. 自己点検・評価運営委員会（11 月 27 日、12 月 25 日）について  
4. 大所高所の読み合わせチェックについて  
5. 全規程の進捗状況について  
6. PDCA サイクルの進捗状況について  
7. 資料（提出、備付）の進捗状況について  
8. その他

#### 第 8 回

日時：平成 30 年 12 月 11 日（火）16：30～17：30

- 議題： 1. 11 月 27 日の 自己点検・評価運営委員会の報告  
2. 資料（提出・備付）の正式名称・短縮名称の回収状況  
3. 報告書本文について（11 月 27 日が最新版）  
4. 規程改定の進捗状況について  
5. 今後のスケジュール

#### 第 9 回

日時：平成 31 年 1 月 15 日（火）16：30～16：50

- 議題： 1. 自己点検・評価運営委員会（12 月 25 日）の報告  
2. 大所高所チェック（1 月 7 日～1 月 10 日）の報告  
3. 自己点検・評価報告書（1 月 13 日版）について  
4. 提出資料・備付資料一覧（1 月 10 日版）について  
5. 今後のスケジュールについて  
6. 短期大学基準協会への問合せ事項と回答について  
7. 報告書作成部会平成 30 年度活動報告について  
8. その他

#### 第 10 回

日時：平成 31 年 2 月 12 日（火）16：25～16：50

- 議題： 1. 報告書について  
2. スケジュールについて  
3. 自己点検・評価運営委員会（2 月 27 日）への報告書作成部会の平成 30 年度後半の活動報告  
4. その他

#### ◆学習成果部会

【平成 30 年度】

#### 第 1 回

日時：平成 30 年 4 月 11 日（水）15：45～16：00

議題： 1. 平成 30 年度学習成果部会の取り組みについて

第 2 回

日時：平成 30 年 5 月 9 日（水）16：10～16：20

議題： 1. ティーチング・アワード表彰について

第 3 回

日時：平成 30 年 6 月 21 日（木）16：30～17：50

議題： 1. GPA 制度について  
2. 学習成果報告書について

第 4 回

日時：平成 30 年 9 月 12 日（水）13：10～14：20

議題： 1. 情報・経営専攻、住居・デザイン専攻の学習成果報告書について  
2. GPA 制度について  
3. 学習成果部会の規程について  
4. 前期活動状況報告

第 5 回

日時：平成 30 年 10 月 10 日（水）15：55～17：10

議題： 1. ティーチング・アワード表彰について  
2. 食物栄養専攻、幼児教育保育学科の学習成果報告書について  
3. 認証評価報告書について

第 6 回

日時：平成 31 年 2 月 20 日（水）16：25～16：55

議題： 1. 学習成果報告書について  
2. 認証評価への対応について

第 7 回

日時：平成 31 年 3 月 25 日（月）13：00～13：35

議題： 1. 学習成果報告書について  
2. 平成 30 年度学習成果部会取組みのまとめ

様 式 5

基準 I

建学の精神と教育の効果

## 【基準 I 建学の精神と教育の効果】

## [テーマ 基準 I-A 建学の精神]

## &lt;根拠資料&gt;

## 提出資料

- 001 平成 30(2018)年度学生便覧
- 002 鳥取短期大学学則
- 003 ホームページ「理念・ごあいさつ」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5649>
- 004 ホームページ「3つのポリシー」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652>
- 005 鳥取短期大学カレッジガイド 2018
- 006 鳥取短期大学カレッジガイド 2019
- 007 学校法人藤田学院ガイドブック
- 008 2019 年度事業計画書
- 009 平成 30 年度事業報告書
- 010 平成 30 年度シラバス

## 備付資料

- 001 第 4 次中期計画の基本骨格（骨太の方針）
- 002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画
- 003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
- 004 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンターだより第 3 号、第 4 号
- 005 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター年報第 2 号
- 006 平成 30 年度鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座実績報告及び資料
- 007 鳥取看護大学・鳥取短期大学高齢者向け生涯学習事業報告書（平成 28 年度～平成 30 年度）
- 008 科目等履修生・聴講生一覧（平成 26 年度～平成 30 年度）
- 009 暮らしの経済・法律講座受講生一覧（平成 26 年度～平成 30 年度）
- 010 鳥取短期大学絃美術館 20 周年・絃研究室 30 周年記念事業チラシ
- 011 鳥取看護大学・鳥取短期大学ボランティア関係綴（平成 28 年度～平成 30 年度）

## 備付資料-規程集

- 001 鳥取短期大学科目等履修生及び聴講生細則

## [区分 基準 I-A-1 建学の精神を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 建学の精神は短期大学の教育理念・理想を明確に示している。
- (2) 建学の精神は教育基本法及び私立学校法に基づいた公共性を有している。

- (3) 建学の精神を学内外に表明している。
- (4) 建学の精神を学内において共有している。
- (5) 建学の精神を定期的に確認している。

#### <区分 基準 I-A-1 の現状>

本学の建学の精神は、「地域の発展に貢献する人材を育成する」(提出-001)であり、主に鳥取県と島根県を中心とする山陰圏域で期待される人材の養成を行うことが本学の使命と考えている。これは、地域に必要な良質の中堅的職業人の育成をミッションとする短期大学の教育理念を明確に示すものである。

本学のこの建学の精神は、それに基づいて学則に定める「(前略)深く専門の学芸を研究教授し、豊かな教養と専門学術、職業および實際生活に必要な能力を修得させ、学生が自らの人格を培うことを援助し、よりよい社会の形成者を育成することを目的とする」(提出-002)にも示される通り、主体的に地域社会の形成に参画し、地域の発展に寄与する態度を養うことを端的に表しており、教育基本法および私立学校法に基づく公共性を有するものである。

本学では、建学の精神を学生便覧(提出-001)、本学ホームページ(提出-003、004)、カレッジガイド(提出-005、006)、法人ガイド(提出-007)、事業計画書・事業報告書(提出-008、009)等に掲載し、学生はもとより、各種の大学説明会や学外者との懇談会等で配布し学外への周知に努めている。

学内において、学生へは、建学の精神を学生便覧に掲載するとともに、前後期オリエンテーション等の機会に学長および学科長より講話をする時間を設けている。教職員は、毎年4月と9月に全教職員が集う「法人教職員全体会」において、中期計画(理事会、各学科・専攻および事務局各部・各付属施設が3か年計画で策定)(備付-001、002)および事業計画書・事業報告書を点検することにより、建学の精神等本学の教育理念について改めて確認することで共有している。

建学の精神は、自己点検・評価運営委員会等の教育方針や学生支援のあり方に関する協議の場において定期的に確認し、全教職員は年に2回行う前述の「法人教職員全体会」において確認している。

#### [区分 基準 I-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放(リカレント教育を含む)等を実施している。
- (2) 地域・社会の地方公共団体、企業(等)、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。
- (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。

#### <区分 基準 I-A-2 の現状>

地域・社会に向け開かれた大学をめざす本学は、グローバルセンター(グローバルと

ローカルを合わせた造語で国際貢献と地域貢献を司る機関）を設置してその任務を遂行している。グローバルセンターは鳥取看護大学と鳥取短期大学の共通の組織であり、短期大学に関する業務は、主として公開講座、高齢者生涯学習事業、研研究室・研美術館の運営である。また、平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業タイプ 5 の選定に伴う「とっとりプラットフォーム 5 +  $\alpha$ 」の包括連携協定（備付-003）を締結し、事務局を担っている。

本学の地域社会における情報発信として、「グローバルセンターだより」（備付-004）を年 2 回発行し、自治体、大学、企業等との連携協定および高齢者向け生涯学習事業等の取り組みを広報している。また「グローバルセンター年報」（備付-005）を年 1 回発行し、平成 30 年度は本学教員 5 名が研究成果を掲載する等、広報をしている。

また、正課授業では多くの科目で科目等履修生や聴講生の受け入れを可能とし、シラバス（提出-010）に明記をしている。

### **公開講座**

本学は、生涯学習社会における高等教育機関の役割を果たし、市民の学習ニーズに応えるため、公開講座を実施している。公開講座は、本学と倉吉市の共催により、一般市民を対象として平成 5 年より毎年開催をしている。年度ごとにテーマとねらいを設定し、講師の選定を行っている。本学専任教員が中心となって講師を務め、学外講師も招聘し実施している。講師はそれぞれの専門の学識や経験に裏付けられた講演内容の中で、具体的なヒントの提起や助言も行い、受講生が自分自身の日常生活の中で考え、取り組むことができる機会になるように努めている。受講生のアンケート結果からも、受講生の興味や関心を新たに引き出したり、共感や共鳴を呼び起こしたり、受講生のニーズに沿ったものであることが示されている。また、平成 29 年度から鳥取県内の 5 つの高等教育機関が協働で実施している「とっとり県民カレッジ講座」特別講座の 1 つを担当している（備付-006）。

### **高齢者生涯学習事業**

本学は、平成 28 年度から「高齢者向け生涯学習事業」として、高齢者講座を開催している。原則 65 歳以上の高齢者を対象に、学び直しの観点から、大学の知的資源を活用し、地域の方々に学習の機会を提供している。年度内に鳥取県内の市町村 1～2 か所を設定し、6 月から 2 月にかけて全 2～3 回実施をしている。実施市町村の教育委員会を後援とし、主に「健康」をテーマとした講座を実施している。受講生の興味・関心は高く、受講生のアンケート結果では概ね好評であった（備付-007）。

### **正課授業の開放**

「科目等履修生及び聴講生細則」（備付-規程集 001）に基づき、本学は地域の方々（本学卒業生を含む）を対象に、実験・実習科目を除くほとんどの授業科目において、科目等履修生ならびに聴講生の受け入れを可能としている。科目等履修生の年度別受入状況は、平成 26 年度は 19 科目（延べ受講者数 8 名）、平成 27 年度は 13 科目（同 9 名）、平成 28 年度は 5 科目（同 2 名）、平成 29 年度は 17 科目（同 8 名）、平成 30 年度は 29 科目（同 10 名）であった。なお、科目等履修生の受け入れ科目には各年度とも図書館司書科目を含んでいる。また聴講生の年度別受入状況は、平成 29 年度に 2 科目（同 2

名)、平成 30 年度に 3 科目 (同 3 名) であった (備付-008)。

### **くらしの経済・法律講座**

くらしの経済・法律講座は、鳥取県消費生活センターと鳥取県内の高等教育機関の連携により開講している。本学は平成 18 年度から担当しており、平成 30 年度は 13 年目となり、外部講師を招聘し計 14 回の講座を実施した。そして外部より延べ 310 名の受講者があった。

本講座は、生活学科情報・経営専攻の専門教育科目「生活管理概論」(平成 28 年度までは「生活経済学」としても位置付けられ、学生と地域の方々が一緒に受講する形態としている。主な講義内容は、消費生活トラブルの対処法、税金、金融、年金等を、経済や法律の視点から解説するものである。講義担当者は、生活学科情報・経営専攻の教員に加え、弁護士、金融広報アドバイザー、消費生活相談員等、学外の各分野の専門家により構成されている。過去 5 年の地域からの登録者数は、20 名、27 名、47 名、56 名、60 名と推移している。暮らしに直結する、身近で具体的な内容が大半であり、毎回質問が出るほどの熱心な取り組みが見受けられ、高い評価を得ている (備付-009)。

### **絣研究室・絣美術館**

本学は、「地域に開かれた大学」という理念に基づき、倉吉絣の保存と伝承、さらに発展・創造を目的とし、後継者養成を行う絣研究室・絣美術館を設置している。

研究生は、倉吉絣の専門家である館長兼講師の講義を受け、地域から寄贈を受けた機織り機を使用しながら学んでいる。1 年目の研究生、2 年目以降の特別研究生が在籍し、年齢も 20 代～60 代と幅広い。毎年、修了時には倉吉博物館で修了作品展を行っている。現在 100 名を超える修了生が地元で絣の伝承者、指導者として活躍している。

平成 29 年度に絣研究室が 30 周年、絣美術館が 20 周年を迎えたことから、平成 30 年度に記念イベントを実施した (備付-010)。

### **産官学連携**

自治体、大学等と積極的に協定を締結し、広く交流、連携を行うとともに、教職員・学生の研究を地元企業に活用する協定も企業と締結している。

具体的には、平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業タイプ 5 の選定により、本学が取りまとめ校となり、鳥取県内の高等教育機関、自治体および経済・医療福祉団体が連携・協力して鳥取県の高等教育および地域のさらなる活性化の推進に寄与することを目的とした「とっとりプラットフォーム 5 +  $\alpha$ 」の包括連携協定を締結した。また、平成 27 年度には倉吉市との包括連携協定、平成 28 年度には鳥取県との包括連携協定を締結している。さらに、平成 29 年度には、企業との協定として株式会社サンセキと墓石デザイン制作に関する協定を締結した (備付-003)。

その他、香川短期大学との相互評価協定 (平成 27 年度) および大学間連携協定 (平成 28 年度) を締結。平成 28 年度には、京都産業大学、鳥取看護大学、鳥取短期大学及び鳥取県の連携に関する協定を締結し、鳥取県内だけでなく、広く他大学との連携・交流にも力を入れている。

平成 27 年度に鳥取大学が主幹校となる「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」(平成 27 年度～平成 31 年度) に参加校として採択され、鳥取県内の高等

教育機関、鳥取県と「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に関する協定を締結した（備付-003）。

### ボランティア活動

地域社会からの要請に応じてさまざまなイベントやフェスティバル等へ学生がボランティア参加することを推進している。主な活動としては、平成 15 年度から鳥取県国際交流財団が主催し、年 1 回開催する「くらよし国際交流フェスティバル」、平成 25 年度から中部発！食のみやこフェスティバル実行委員会が主催し、年 1 回開催の「中部発！食のみやこフェスティバル」に毎年参加している。また、平成 28 年度には鳥取県で開催された WTC（ワールドトレイルズカンファレンス）の世界のウォーキングイベントに学生・教職員が積極的に参加をした。そして、平成 30 年度についても幼児教育保育学科特別研究における「実技部門」の学生が、学外公演を鳥取県内中心に各地で行った（備付-011）。

### ＜テーマ 基準 I -A 建学の精神の課題＞

地域、地方公共団体、企業、高等教育機関との連携を課題として積極的に協定を締結してきた。今後は協定に基づき具体的な成果を拡大していく必要がある。また、高等学校や文化団体等との連携を検討することが課題と認識している。

学生のボランティア活動については、授業・実習等で空き時間が少ないのが現状であり、ボランティア活動を希望しても時間的制約がある状況下にある。今後は学生と地域との積極的な関わりをいかに提供するのが課題であるとともに、近隣の他大学等と学生間交流の機会の提供も必要と思われる。

### ＜テーマ 基準 I -A 建学の精神の特記事項＞

本学では、年 2 回「法人教職員全体会」を開催している。本会では、中期計画や事業計画書・事業報告書等を点検することにより、建学の精神をはじめとする本学の教育理念、教育方針を確認し共通理解を図り、教職員全員が同じ認識の下に教育にあたることができるよう努めている。

平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業タイプ 5「とっとりプラットフォーム 5 + α」の選定により、鳥取県内の高等教育機関、自治体および経済・医療福祉団体が連携し（備付-003）、本学が基幹校となって高等教育と地域の活性化をめざした事業を推進している。本学の教職員はそれぞれの専門性を活かしながらさまざまな機関との共同研究、共同事業を進めており、大学として地域社会への貢献度は大きい。

## [テーマ 基準 I -B 教育の効果]

### ＜根拠資料＞

#### 提出資料

001 平成 30(2018)年度学生便覧

- 002 鳥取短期大学学則
- 004 ホームページ「3つのポリシー」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652>
- 007 学校法人藤田学院ガイドブック
- 008 2019年度事業計画書
- 009 平成30年度事業報告書
- 011 カリキュラムマップ
- 012 カリキュラムツリー
- 013 学習成果一覧
- 014 平成30年度学習成果報告書
- 015 ディプロマ・ポリシー一覧
- 016 カリキュラム・ポリシー一覧
- 017 アドミッション・ポリシー一覧
- 018 2018(平成30)年度学生募集要項
- 019 2019年度学生募集要項
- 備付資料
- 002 ステップ50～選ばれ続ける短大をめざして～第5次中期計画
- 012 ホームページ「教育目的と教育目標」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5653>
- 013 平成30年度卒業生 就職状況アンケート集計結果
- 014 平成30年度キャリア形成支援教育に関する調査 雇用主アンケート集計結果
- 015 「有識者会議」議事録
- 016 PDCAサイクル確認シート
- 017 非常勤講師連絡会資料
- 018 ホームページ「学習成果」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6993>
- 019 学習成果部会の議事録（平成28～30年度）
- 020 理事会議事録（平成28～30年度）
- 021 評議員会議事録（平成28～30年度）
- 022 平成30年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成30年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成30年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
- (2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。

- (3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応じて定期的な点検している。（学習成果の点検については、基準Ⅱ-A-6）

#### ＜区分 基準Ⅰ-B-1の現状＞

建学の精神は、「地域の発展に貢献する人材を育成する」ことである。これを具現化するために、めざす学生像を示している。さらに、このような学生を育てるための教育の方針・理念も定めている（提出-001、002）。

#### 国際文化交流学科

教育目的は、文化とコミュニケーションの研究と教育を行い、豊かなコミュニケーション力を備え、国際化が進展する地域社会に貢献できる人材を育成することである。教育目標は以下の3つである：①人とのかかわり方を理論的・実践的に学び、円滑な人間関係をきずく力を育む、②日本や世界の文化・言語を学び、視野を広げる、③社会で役立つコミュニケーション力を身につける。

#### 生活学科 情報・経営専攻

教育目的は、生活者の視点から経済を学び、生活設計等のライフスキルを身につけた社会人の育成を図るとともに、情報処理とビジネス実務の専門知識と技能を習得した職業人を養成することである。教育目標は以下の3つである：①主体的に調べ、考え、まとめ、表現する力を養う、②授業で学び、習得した技能を資格取得に結びつける、③キャリアプランニングの視点を身につける。

#### 生活学科 住居・デザイン専攻

教育目的は、建築とデザインの分野での研究と教育を行い、豊かな住居環境の創造や独創的・実用的な造形活動を行うことができる人材を育成することである。教育目標は以下の3つである：①理論と実践による教育に基づく高い実務能力を養う、②地域の伝統文化等を積極的に教育に取り込み、社会のニーズに対応できる人材を育成する、③住居分野とデザイン分野による教育の幅と深さから、個性と創造性を養う。

#### 生活学科 食物栄養専攻

教育目的は、食と健康に関する専門知識、確かな技術と研究的態度を備え、食の分野から、地域社会で人々の健康づくりに貢献できる人材を育成することである。教育目標は以下の3つである：①食と栄養のスペシャリストを育成する、②幅広い実践力やマネジメントができる能力を養う、③ライフスタイルに合った食生活を創造できる力と感性を養う。

#### 幼児教育保育学科

教育目的は、「教育」と「福祉」の研究と教育を行い、地域社会や家庭において、人と人のかかわりを支援できる人材を育成することである。教育目標は以下の3つである：①思いやりや優しさ、人を大切にするところを育む、②人間形成の基礎を培う立場の自覚を促し、広い視野と豊かな感性を育み、確かな専門的能力を養う、③個性をいかし、実践力・応用力を高める。

各学科・専攻とも、教育目的・目標を確立している。学生・教職員には学則（提出-002）や学生便覧（提出-001）、カリキュラムマップ（提出-011）およびカリキュラムツリー（提出-012）で、学外のステークホルダーに対しては法人ガイド（提出-007）、ホームページ（備付-012）でそれぞれ表明している。

地域・社会の要請に応えた人材養成については毎年実施している卒業生就職状況アンケート集計結果（備付-013）と雇用主アンケート集計結果（備付-014）で在学期間中に備えるべき能力や態度を確認し、報告書として学内公開をしている。また、学外の有識者の方々と毎年意見交換会（備付-015）を行って職業人や地域活動で求められる能力を確認している。また、点検については、大学の運営に関する第5次中期計画（備付-002）を半年ごとにチェックすることで、達成状況についての情報を学内で共有し、年度ごとに計画を見直すことによってPDCAサイクル（備付-016）を回している。

#### [区分 基準 I-B-2 学習成果 (Student Learning Outcomes) を定めている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
- (2) 学科・専攻課程の学習成果を学科・専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
- (3) 学習成果を学内外に表明している。
- (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

#### <区分 基準 I-B-2 の現状>

本学の学習成果は、建学の精神である「地域の発展に貢献する人材を育成する」ことに基づくとともに本学のめざす学生像、および基準 I-B-1 に示した教育目的・目標に向けた教育方針を前提とし、「協調性」、「ルール・マナーの遵守」、「コミュニケーション力」、「主体性」、「実践力」を重視して規定している（提出-002、013）。本学の学習成果は、①他人の意見を理解し、自分の考えを伝える力を備えている、②職業および實際生活に必要な専門的・実践的能力を備えている、③社会の一員としてルール・マナーを守り、積極的に行動する態度を身につけている、の3点である。

各学科・専攻の学習成果は下記のようにそれぞれの教育目的・目標に基づいて定めている。

#### **国際文化交流学科**

学習成果は、①自文化を知り、異文化を理解しようとする意欲・態度を備えている、②自分の知識や考えを分かりやすく表現する力を身につけている、の2点である。これらの知識・技能・態度を活かして地域に貢献できる人材の育成をめざしている。この学習成果は教育目的・目標を達成するために必要な「文化理解」、「表現力」を明確に示すものである。

#### **生活学科 情報・経営専攻**

学習成果は、①情報活用能力を身につけている、②ビジネス実務能力を身につけて

いる、③社会人としての基礎力を備えている、の3点である。これらの能力および基礎力を活かして地域に貢献できる人材の育成をめざしている。この学習成果は教育目的・目標に基づくもので、「情報処理とビジネス実務の知識・技能の修得」と「社会人力の養成」を明確に示すものである。

#### **生活学科 住居・デザイン専攻**

学習成果は、①住居を設計する実務能力を身につけている、②デザイン作品を企画し、表現する力を備えている、の2点である。それぞれ、住居とデザインの分野から地域に貢献できる人材の育成をめざしている。この学習成果は教育目的・目標に基づいており、建築・住環境や、デザイン・造形活動に関する人材育成、実務能力の養成、社会のニーズに対応した人材の育成、個性と創造性の養成を明確に示すものである。

#### **生活学科 食物栄養専攻**

学習成果は、①栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解している、②個人および集団の健康増進・維持に関する栄養教育ができる、③食事計画や給食運営ができる、の3点である。これらの知識・技能を活かして地域に貢献できる栄養士の人材育成をめざしている。この学習成果は、教育目的・目標に基づいており、「食と健康に関する専門知識」、「給食管理・運営」の修得を明確に示している。

#### **幼児教育保育学科**

学習成果は、①保育活動で活かせる表現力を身につけている、②保育者にふさわしい意欲・態度を備えている、の2点である。「表現力」、「意欲」、「態度」は教育目的・目標を明確に示している。これらの能力・態度を活かして、建学の精神に基づく、「教育」と「福祉」の分野で活躍する保育者の人材養成をめざしている。

学習成果の表明について、学内に対しては年度ごとの学習成果報告書を配布している（提出-014）。学外に対しては、各年度の非常勤講師連絡会（備付-017）、経済・行政・教育分野から選定した委員による有識者会議（備付-015）、ホームページ（備付-018）等を通じて表明している。

学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、学習成果部会を中心に定期的に点検している。関係法令については、事務局の担当部署と該当学科・専攻とが密に連携し、適宜確認しながら法令遵守に努めている。

**[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。
- (2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。
- (3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。
- (4) 三つの方針を学内外に表明している。

**<区分 基準 I-B-3 の現状>**

本学は三つの方針を以下のように定め、三つの方針を関連付けている（提出-015～017）。

全学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針、以下、ディプロマ・ポリシー）では、以下の3点を定めている。①人間関係を大切にし、幅広い視野をもって社会生活を送ることができる、②職業および実際生活における専門的・実践的能力をそなえている、③社会の構成員として、よりよい地域社会を形成しようとする。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針、以下、カリキュラム・ポリシー）を作成している。①幅広い視野を育成するため、語学および体育を含めた多様な分野から構成される全学共通の教養科目を編成し、バランスよく受講されるよう実施する、②職業および実際生活で求められる専門知識・技能を段階的に修得できるよう、各学科・専攻の特性に応じた初年次教育を導入し、専門教育科目を系統的に配置する、③協調性をもって社会に貢献する人材を育成するため、地域と関連した科目を配置し、生涯を見据えたキャリア教育を行う、④全学で統一的に策定された成績評価基準に基づいて学生の到達度を評価するとともに、アセスメント・テスト、学生による学習履歴、学習行動調査等の方法を用いることによって、学習成果を総合的に把握する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針、以下、アドミッション・ポリシー）は、本学のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに従って以下のように定めている。①本学で学ぶために必要な基礎学力のある人、②自分の考えを主体的に表現することができる人、③ひととのつながりや地域社会を大切にしようとする人。

各学科・専攻課程においても以下のように三つの方針を関連づけて作成している（提出-015～017）。

### **国際文化交流学科**

ディプロマ・ポリシーは、全学のディプロマ・ポリシーを学科の内容に関連付け、以下の通り定めている。①言語、文化、交流に関して主体的に課題を見つけて取り組むことができる、②社会で役立つコミュニケーション力を身につけている、③地域社会の一員としての自覚をもち、多文化共生的視点をもって貢献する態度を身につけている。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めている。①学びの基礎となる科目を初年次に配置し、能動的学修により、学生が主体的な学びを実践できるよう体系的に編成する、②日本・世界の文化や言語に関する知識と技能、円滑な人間関係を築く力、自分の考え等を発信する力を理論的・実践的に学び、社会で役立つコミュニケーション力を総合的に育成するよう編成する、③生涯にわたり主体的に社会に貢献しようとする態度を育成するため、さまざまな科目や活動を有機的に連携させ、キャリア形成を支援する。

アドミッション・ポリシーは、学科の学習成果を獲得するために必要な基礎的な資質として、以下のように規定している。①言語、文化、交流に関心をもち、自律的に学習する意欲をもつ人、②ひととのかかわりについて主体的に学び将来に活かそうとする人、③コミュニケーションの大切さを自覚し、その力を高めたい人。

### **生活学科 情報・経営専攻**

本専攻のディプロマ・ポリシーは、以下の 3 点である。①情報処理とビジネス実務の専門知識と技能を修得している、②主体的に調べ、考え、まとめ、表現する力を獲得している、③情報活用能力を活かし、地域社会に貢献しうる力を身につけている。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のカリキュラム・ポリシーの下に教育課程を編成している。①学びの基礎から応用までを、順を追って学び修得できる順序で編成する、②情報処理とビジネス実務の専門知識と技術を理解させ、習得した技能が資格取得に結びつくように実践力を養成することを可能にする、③基礎から応用までの特別演習科目を設け、問題発見や問題解決能力および表現能力を育成する、④基礎能力を養い、専門性を高め、キャリア形成をはかることを可能にする。

アドミッション・ポリシーは、学科の学習成果を獲得するために必要な基礎的な資質として、以下のように規定している。①情報と経営に関する専門知識と技術を学ぶことを望む人、②情報とビジネスに関するスペシャリストとして活躍したいと望む人、③情報とビジネスに関する合理的判断力と論理性を身につけたいと望む人。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

ディプロマ・ポリシーは、以下の 3 点である。①住居・デザイン分野での専門知識と技能を身につけている、②幅広い分野で活躍できる豊かな発想力とクリエイティブな力をそなえている、③地域社会の形成、文化の創造に貢献できる企画力と表現力をもっている。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めている。①建築、インテリアおよびデザイン、アートに関する 2 つの分野から成る専門科目を編成するとともに両分野で共通して求められる基礎能力を育成する科目を配置し、主として少人数での授業を編成する、②建築、インテリア分野では、建築士受験資格の取得に関する科目を基礎から実践へと段階的に学習が深まるように設置して、建築士にふさわしい能力を育てる、③デザイン、アート分野では、グラフィック、プロダクト、クラフト等に関する多様な専門科目を設置し、演習科目での授業を中心に問題解決能力や表現能力を育成する、④地域社会を形成する能力を育成するために、学外での実習科目を配置するとともに専門科目において地域での授業を積極的に展開する。

アドミッション・ポリシーは、学科の学習成果を獲得するために必要な基礎的な資質として、以下のように定めている。①建築あるいはデザイン分野を学ぶための基本的な能力をもつ人、②住宅の設計やデザイン制作に興味や意欲をもつ人、③建築士あるいはデザイナーとして活躍したい人。

### **生活学科 食物栄養専攻**

ディプロマ・ポリシーは、以下の 3 点である。①食と栄養に関する確かな専門知識と技能を身につけている、②食を通して健康の維持・増進を図り、生活習慣病の予防を実践できる能力を修得している、③専門の知識・技能を活かし、社会人として地域社会に貢献できる能力をそなえている。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のカリキュラム・ポリシーを定めている。①栄養士に必要な食と栄養についての専門知識を身につけるため、科目の開講時期を基礎から応用へと段階的に発展させ、より理解を深めるように専門科目を編成する、

②実践力、リーダー性および協調性を育成するために、食品学実験、調理学実習、給食管理実習などの実験・実習・演習科目において、グループ活動を積極的に取り入れる、③学外実習や各種分野の授業をとおして、人々の健康維持に貢献できる実践力を備えた栄養士を育成する。

アドミッション・ポリシーは、学科の学習成果を獲得するために必要な基礎的な資質として、以下のように定めている。①食と健康に興味があり、学習意欲のある人、②栄養士の仕事に関心があり、栄養士をめざす人、③食の立場から他のひとを思いやる心をもつ人。

### 幼児教育保育学科

ディプロマ・ポリシーは、以下の3点を定めている。①保育・幼児教育に関わる広い視野と、専門知識・技能をそなえている、②子どもやひととのかかわりを大切にし、保育・幼児教育の学びを活かすことができる、③学び続ける意欲と自覚をもち、子どもや地域社会に貢献しようとする、である。

このディプロマ・ポリシーに従って、以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めている。①保育者として必要な専門知識・技能を養うために、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に必要な科目を設置する、②保育者としての実践力・応用力を高めるために、学習成果の形成的評価の視点から各学期に実習関係科目を配置して学外実習を実施する、③個性あふれる保育者をめざして、能動的な学修が展開できる少人数制の演習科目・個別指導によるレッスンの設定、資格に関連した幅広い選択科目や保育実践を豊かにする関連資格科目を設置する、④職業人としての保育者として、卒業後も学び続ける意欲を持ち、主体的に個人・集団・社会の発展に寄与することができるよう、キャリア形成に関する科目を設置してキャリア発達を支援する。

アドミッション・ポリシーは、学科の学習成果を獲得するために必要な基礎的な資質として、以下のように定めている。①保育・幼児教育を学ぶ意志が明確な人、②集団の中で学び、身につけた知識や技能を活かす努力のできる人、③子どもと接する責任感や感性の豊かな人。

三つの方針については、学習成果部会を中心として議論を行っている。平成28年度には各学科・専攻の三つの方針を改訂する協議を進めた（備付-019）。各学科会議においてそれぞれの案を作成した後、学習成果部会において整合性や妥当性について相互に検討した。作成された三つの方針の改定案は平成28年度の教授会において協議された後承認された。同様の手続きをとって、平成29年度には国際文化交流学科の三つの方針が取得資格の変更に伴って一部修正がなされた。三つの方針については、事業計画書・事業報告書に盛り込み、理事会および評議員会においても協議している（提出-008、009、備付-020、021）。

募集要項にアドミッション・ポリシーを明記し、入学志願者が理解できるようにしている（提出-018、019）。学生に対しては三つの方針を学生便覧に記載し、確認できるようにしている（提出-001）。

教育課程は三つの方針、特にカリキュラム・ポリシーに基づいて作成している。ま

た、三つの方針をカリキュラムマップ（提出-011）およびカリキュラムツリー（提出-012）として表現して、学生にオリエンテーションを通じて説明している。

三つの方針は学外にはホームページにおいて示しており、保護者や高校教員、雇用主が閲覧できるようにしている（提出-004）。

#### <テーマ 基準 I-B 教育の効果の課題>

三つの方針について、PDCA サイクルに従い時代の変化を見定めつつ検討を継続していく必要がある。

#### <テーマ 基準 I-B 教育の効果の特記事項>

本学の教育理念は地域からの要請に応えた人材を養成することであり、この目的をどのように達成しているかを点検するため、各種アンケート結果（備付-013、014）の分析や学外関係者との意見交換等（備付-015、022）を実施している。

令和元年度より教育課程にナンバリングを導入し、各科目の位置付けがより明確になるように取り組んでいる（提出-012）。

#### [テーマ 基準 I-C 内部質保証]

##### <根拠資料>

##### 提出資料

- 001 平成 30(2018)年度学生便覧
- 014 平成 30 年度学習成果報告書
- 020 鳥取短期大学自己点検・評価規程

##### 備付資料

- 001 第 4 次中期計画の基本骨格（骨太の方針）
- 002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画
- 003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
- 007 鳥取看護大学・鳥取短期大学高齢者向け生涯学習事業報告書（平成 28 年度～平成 30 年度）
- 013 平成 30 年度卒業生 就職状況アンケート集計結果
- 014 平成 30 年度キャリア形成支援教育に関する調査 雇用主アンケート集計結果
- 015 「有識者会議」議事録
- 017 非常勤講師連絡会資料
- 019 学習成果部会の議事録（平成 28～30 年度）
- 022 平成 30 年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成 30 年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成 30 年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録

- 023 自己点検・評価運営委員会議事録
- 024 ホームページ「平成 27 年度短期大学間相互評価 鳥取短期大学・香川短期大学  
相互評価報告書 平成 28 年 3 月」  
[http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3\\_chiikisogokagakuka/  
sogohyoka/h28/h28\\_tottori\\_kagawa.pdf](http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf)
- 025 平成 27 年度鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書
- 026 平成 30 年度入学時アンケート
- 027 平成 30 年度卒業前アンケート
- 028 ホームページ「学生アンケート」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6223>
- 029 ホームページ「2017 年度認証評価簡易報告書」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5658>
- 030 授業評価アンケート結果(3 年分)
- 031 国際文化交流学科科会議事録
- 032 情報・経営専攻科会議事録
- 033 住居・デザイン専攻科会議事録
- 034 食物栄養専攻科会議事録
- 035 幼児教育保育学科科会議事録
- 036 教務委員会議事録
- 037 学科長会議事録
- 038 本学の教育に関する点検評価活動
- 039 鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会資料
- 040 文部科学省大学間連携共同教育推進事業大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソー  
シャルラーニング最終報告書
- 備付資料-規程集
- 002 鳥取短期大学 GPA(グレードポイントアベレージ)に関する規程
- 003 鳥取短期大学 IR 部会に関する内規
- 004 鳥取短期大学カリキュラム検討会に関する規程

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り  
組んでいる。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
- (2) 日常的に自己点検・評価を行っている。
- (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
- (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
- (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
- (6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。

### <区分 基準 I-C-1 の現状>

本学では、平成4年8月に「自己点検・評価規程」(提出-020)を定め、教育理念・目標、教育活動、研究活動、教員組織、施設設備、図書館、管理運営・財政、社会との連携、FD、SDを自己点検・評価項目とし、自己点検・評価運営委員会において実施することとしている。この運営委員会は、学長、各学科長、教務委員長、学生委員長、学術委員長、FD委員長、SD委員長、図書館長、事務局長、各部長、グローバルセンター長、実施部会長で構成し、年度の自己点検・評価項目により必要に応じて部会を設けることとしている。

自己点検・評価運営委員会において各年度初めに評価項目を定め、部会および委員会を中心に活動を行い、年度途中の中間報告を基に年度後半の運営について協議し、年度末の年間報告を基に評価を行い次年度の方針について協議を行っている(備付-023)。また本学では、理事会、学科・専攻、事務部門、附属機関ごとに運営に関する3か年の中期計画(備付-001、002)を策定、半年ごとに点検し「法人教職員全体会」において報告している。従って、かなり細部にわたる内容まで日常的に点検を行い評価している。

本学では、認証評価受審の間の時期に香川短期大学と過去2回(平成20年度、27年度)相互評価を行い、いずれの報告書も短期大学基準協会に提出し、同協会の本学ホームページにて公表されている(備付-024、025)。また、前述の中期計画、および全学生の入学時と卒業前に実施する「入学時アンケート」(備付-026)「卒業前アンケート」(備付-027)の結果を、すべて本学ホームページ(備付-028)で公開している。この学生アンケートが、本学学生全体の学習面および学生生活の状況を把握する上で要となるデータである。運営委員会部会、委員会の年度ごとの自己点検・評価内容については、報告書を作成し学内で共有してきた。平成29年度においては、運営委員会において本認証評価の項目に従って自己点検・評価を行い、その結果を本学ホームページで公開している(備付-029)。

本学で最も大学全体にわたる細部に至るまでの実質的な自己点検となるのは、中期計画である(備付-001、002)。中期計画の半年ごとの自己点検・評価については、各学科・専攻および事務局各部門、附属機関ごとに全員で行い、見直しを行って「法人教職員全体会」において報告している。なお、自己点検・評価運営委員会の部会および委員会活動を中心とする自己点検・評価は、各学科・専攻および事務局からの構成メンバーが中心となって実施するが、常に学科会議および委員会等で協議を行っている。

本学では、20年以上前より毎年1回鳥取県中部の高等学校(現在は県立5校、私立2校)校長および進路指導部長との意見交換会を実施し、本学教育や入試への意見を聴取してきている。平成29年度からは鳥取県東部(県立10校、私立3校)および西部(県立9校、私立3校)の校長会とも同様の会議を開催(備付-022)しており、貴重な意見交換の場となっている。さらに、平成28年からは有識者会議を開催(備付-015)し、企業、行政、教育等の分野の有識者から本学教育への提言を行ってもらっている。本学では、これらで聴取した意見や提言を学科長会および各委員会等で検討し、教育へ還元できるよう努めている。

自己点検・評価運営委員会では、前述の学生アンケートの結果等から、学生の全学的な状況や大学に対する要望を把握し、その対策を自己点検・評価の重点項目として定め、前述の通り年度の間と年度末に点検・評価を行い、次年度の改革・改善策へとつなげている（備付-023）。同様に中期計画においても、半年ごとの点検により PDCA サイクルを継続的に用いながら運用している。

**[区分 基準 I-C-2 教育の質を保証している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
- (2) 査定の手法を定期的に点検している。
- (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
- (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

**<区分 基準 I-C-2 の現状>**

学習成果の査定については、全学共通部分では各学生の GPA、各学科・専攻の学位取得率、各開講科目の単位取得率（提出-014）および授業評価アンケート（備付-030）、学習成果を含めた本学教育全体に対する在学生アンケート（備付-026、027）および卒業生、雇用主アンケート（備付-013、014）を毎年度査定している。また、学科・専攻ごとに専門分野の特性に適合するよう資格取得率、事前・事後テスト、学習成果の自己評価、ルーブリック、ポートフォリオ等の手法で査定を行っている（提出-014）。

査定の方法については、各学科・専攻の会議において定期的に点検を行っている（備付-031～035）。また、学習成果部会において全学および各学科・専攻の査定の方法を平成 28 年度、平成 29 年度と吟味してきた。これらの査定の結果および内容については自己点検・評価運営委員会において協議している（備付-023）。

全学および各学科・専攻の学習成果達成の目標を年度当初の自己点検・評価運営委員会に示し、この目標に従って教育を行っている（備付-023）。学習成果の査定結果および次年度の目標を毎年度末に学習成果報告書（提出-014）としてまとめている。また、中期計画（備付-001、002）において半期ごとに各学科・専攻の取り組み方針、取り組み成果、次期の目標を作成し、年 2 回行われる「法人教職員全体会」において報告している。これらの過程において、教育の向上・充実を図るべく、各学科・専攻（備付-031～035）、教務委員会（備付-036）、学科長会（備付-037）、学習成果部会（備付-019）等において協議し、授業改善やカリキュラム改定を行っている。

平成 29 年度には PDCA サイクル確認シートを作成し、短期大学基準協会の内部質保証ルーブリックに基づいて自己点検を行った。平成 30 年度は雇用主アンケートを令和元年度教育課程の編成に利用し、PDCA サイクルをまわしている（備付-023）。

学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更等は教務部において確認している。教務課の担当者および教務委員会の委員は毎年日本私立短期大学協会主催の教務担当者研修会に参加し、変化の動向の把握に努めている。これらの変更を把握した上

で法令を遵守し、必要な場合は学内の規則等を変更している。

#### <テーマ 基準 I -C 内部質保証の課題>

本学では自己点検・評価活動について組織的に取り組んでいるが、その結果の公表にさらなる充実を図っていくことが課題である。学習成果のアセスメント手法（PDCA サイクル確認シートと内部質保証ルーブリック、雇用主アンケート）についてはさらに検討を深め、よりの確に把握する必要がある。

#### <テーマ 基準 I -C 内部質保証の特記事項>

本学の自己点検・評価の特徴は、重点項目を策定して自己点検・評価運営委員会を中心に実施する自己点検・評価活動と併行し、全員参画で策定、点検・評価する中期計画の運用である。これらにより、教職員全員がさまざまな自己点検・評価の取り組みに関わることになり、大学全体、また各学科・専攻、各付属機関、事務局部署等の現状を把握し、課題意識をもって改善、改革に取り組み、その結果を次のステップにつなげる仕組みができていく（備付-023、002）。

平成 30 年度にカリキュラム・ポリシーや授業評価アンケートについて各学科・専攻の教員と学生代表者が意見交換する機会を設け、自己点検・評価活動に学生の視点を導入した（備付-038）。

#### <基準 I 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画>

##### (a) 前回の認証（第三者）評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計画の実行状況

###### (1) 建学の精神、教育理念、めざす学生像および教育内容等の周知について

本学には本学の教育・運営を支援する「鳥取短期大学と地域の発展を推進する会」（現「鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会」）がある。近年その会員が減少傾向にあるため、改めて多方面へ会員を呼びかけることが本学周知につながると考え、平成 27 年度より個人会費を減額し、県内中部地区のみならず東部地区および西部地区の商工会議所等に協力を求めた。その結果会員数を大幅に増やすことができ、現在に至っている（備付-039）。

また、地域住民の見学者の拡大と教育目的・目標等の周知を行うため、平成 27 年度より本学を会場として高齢者対象の公開講座（備付-007）を開講している。さらに「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング」事業（平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組、平成 24 年度～平成 28 年度）（備付-040）の展開による地域企業、住民等との意見交換の活動を取り入れ、本学教育理念の周知に努めている。

さらに本学教育内容の理解と意見をいただくため、平成 28 年度に経済、行政、教育分野から委員を選定し有識者会議（備付-015）を設置した。以降定期的に開催し、貴重

な知見を得て本学の教育へ反映させている。

(2) 学習成果および教育の質保証に向けた取組みについて

平成 29 年度より CAP 制（提出-001）および GPA 制度（備付-規程集 002）を導入し、学生が学習の達成度を客観的に評価し、主体的にかつ充実した学習効果をあげられるよう体制を整えた。

同年自己点検・評価運営委員会のアンケート部会を IR 部会（備付-規程集 003）に改め、教学に関する情報収集やアンケート等の分析機能を強化させている。

さらに同年、各種のアンケート結果や教育実践の効果検証に基づいて改善点を協議する場が少なかった反省に基づき、教養、専門、およびキャリアにわたる本学教育全体のあり方を検討するカリキュラム検討会（備付-規程集 004）を立ち上げ、教養科目等の見直しを行っている。

(3) 自己点検・評価の改善に向けた取組みについて

平成 29 年度に「自己点検・評価規程」（提出-020）の見直しを行い、FD、SD に関する内容を改め整備した。

非常勤講師連絡会（備付-017）を従来は全学同一日の開催としていたが、平成 30 年度は学科・専攻ごとに行うこととし、他学科の兼担教員を含むより多くの出席者が得られるようにして意見収集を行った。

**(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画**

(1) 協定等に基づく各機関との連携の成果拡大に向けた取組みについて

私立大学等改革総合支援事業タイプ 5「とっとりプラットフォーム 5 +  $\alpha$ 」（備付-003）では、鳥取県内の高等教育機関、自治体および経済・医療福祉団体と包括連携協定を締結し、各機関がさまざまな形で共同して 32 の取り組み項目を進めている。本事業を本学がとりまとめ校として着実に推進することにより、さまざまな分野で成果をあげ、教育に反映させるとともに地域貢献につなげていくことができると考えている。

(2) 三つの方針についての継続的な検討について

三つの方針については、自己点検・評価運営委員会の学習成果部会を中心に議論してきている（備付-019）。今後も、学生の学習成果の検証を行い、さらに雇用主アンケートの結果等も考慮しながら継続的に検討していく。

(3) 学習成果のアセスメント手法の検討について

学生の能力や気質が年々変化しているため、学習方法の見直しが必要と考えている。また、特に各学科の学習成果のアセスメントについては、その妥当性を上げるためにも、さらにアセスメントの手法について検討していく必要がある。

様 式 6

基準Ⅱ

教育課程と学生支援

## 【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

## [テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

## &lt;根拠資料&gt;

## 提出資料

- 001 平成 30(2018)年度学生便覧
- 002 鳥取短期大学学則
- 004 ホームページ「3つのポリシー」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652>
- 010 平成 30 年度シラバス
- 011 カリキュラムマップ
- 012 カリキュラムツリー
- 013 学習成果一覧
- 014 平成 30 年度学習成果報告書
- 015 ディプロマ・ポリシー一覧
- 016 カリキュラム・ポリシー一覧
- 018 2018(平成 30)年度学生募集要項
- 019 2019 年度学生募集要項

## 備付資料

- 014 平成 30 年度キャリア形成支援教育に関する調査 雇用主アンケート集計結果
- 015 「有識者会議」議事録
- 016 PDCA サイクル確認シート
- 017 非常勤講師連絡会資料
- 019 学習成果部会の議事録（平成 28～30 年度）
- 022 平成 30 年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成 30 年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成 30 年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録
- 023 自己点検・評価運営委員会議事録
- 024 ホームページ「平成 27 年度短期大学間相互評価 鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書 平成 28 年 3 月」  
[http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3\\_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28\\_tottori\\_kagawa.pdf](http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf)
- 025 平成 27 年度鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書
- 027 平成 30 年度卒業前アンケート
- 030 授業評価アンケート結果(3 年分)
- 031 国際文化交流学科科会議事録

- 032 情報・経営専攻科会議事録
  - 033 住居・デザイン専攻科会議事録
  - 034 食物栄養専攻科会議事録
  - 035 幼児教育保育学科科会議事録
  - 036 教務委員会議事録
  - 038 本学の教育に関する点検評価活動
  - 041 教授会議事録(平成 28～30 年度)
  - 042 教員一覧
  - 043 教育課程表
  - 044 研究・教育活動計画書
  - 045 カリキュラム検討会議事録
  - 046 COC+事業報告書
  - 047 鳥取短期大学アセスメントポリシー
  - 048 調査書審査(行動点一覧)
  - 049 入学者選考委員会議事録
  - 050 高校訪問記録
  - 051 学生募集マニュアル
  - 052 GPA 分布
  - 053 (平成 28～29 年度)雇用主アンケート(業種別)による卒業生が備えるべき力や態度のクロス集計と各学科と全学の(平成 31 年度)教育課程等での対応表
  - 054 ホームページ「学生による授業評価アンケート」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6224>
  - 055 ティーチング・ポートフォリオ
- 備付資料-規程集
- 004 鳥取短期大学カリキュラム検討会に関する規程
  - 005 鳥取短期大学科目の履修及び定期試験の受験に関する細則
  - 006 鳥取短期大学教員資格審査規程
  - 007 鳥取短期大学教員資格審査規程細則
  - 008 鳥取短期大学教員資格審査基準
  - 009 鳥取短期大学入学者選考委員会規程
  - 010 鳥取短期大学入学者選考委員会規程細則

[区分 基準Ⅱ-A-1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

(1) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。

① 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。

- (2) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- (3) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
- (4) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。

### <区分 基準Ⅱ-A-1の現状>

学科・専攻課程のディプロマ・ポリシーは基準Ⅰ-B-2に示したそれぞれの学習成果に対応して設定されており、全学共通に卒業の要件、成績評価の基準を示すとともに、各学科・専攻ごとに資格取得の要件を明確に示している（提出-015）。

学科・専攻課程のディプロマ・ポリシーは、学生便覧および基準Ⅰ-B-3に記載している。

学科・専攻課程のディプロマ・ポリシーは、以下のように定めており、それぞれ社会的・国際的に通用性がある。社会的通用性に関しては卒業前アンケートにおいて確認を行っている（備付-027）。

#### **国際文化交流学科**

本学科のディプロマ・ポリシーは、他者との交流を理論と実践の両面から学び、自文化と異文化を理解する姿勢や、自分の意見を分かりやすく表現できる力を身につけ、その能力を活用することによって国際化が進展する地域社会に貢献することをめざしたものである。

#### **生活学科 情報・経営専攻**

本専攻のディプロマ・ポリシーは、ビジネスの専門知識に加え情報活用のスキルと社会人基礎力を取得することである。これらの能力を用いて、ビジネスの現場でビジネスコンピューティングスキルを活用できる人材を育成することをめざしている。

#### **生活学科 住居・デザイン専攻**

本専攻のディプロマ・ポリシーは、住居あるいはデザインの専門家として専門知識や技能、豊かな発想力とクリエイティブな力、そして、地域社会の形成、文化の創造に貢献できる企画力・表現力を身につけることを必須として、その資質を育成することを示している。

#### **生活学科 食物栄養専攻**

本専攻のディプロマ・ポリシーは、栄養士教育やその他各種資格に関連した必須のものである。学習成果の「栄養・食生活と健康との相互関係の理解」および「栄養教育・食事計画・給食運営を行う能力」を備え地域貢献できる専門職の人材育成は、社会的・国際的に通用性があるといえる。

#### **幼児教育保育学科**

本学科のディプロマ・ポリシーは、学習成果の「表現力」、「意欲・態度」に対応して、「教育」と「福祉」の分野の研究と教育を行い、広い視野と豊かな感性、個性を活かした実践力を備え、地域社会や家庭において人を大切にし、人との関わりを支援できる人材の育成を示している。

各学科・専攻とも、学科会議でディプロマ・ポリシーを毎年度定期的に点検している（備付-031～035）。必要な変更が生じた際には学習成果部会（備付-019）、自己点検・評価運営委員会において協議している（備付-023）。

**[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程を、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。
  - ① 学科・専攻課程の学習成果に対応した、授業科目を編成している。
  - ② 単位の実質化を図り、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。
  - ③ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。
  - ④ シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
  - ⑤ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
- (3) 学科・専攻課程の教員を、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。

**<区分 基準Ⅱ-A-2 の現状>**

学科・専攻課程の教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づいて作成されており、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応については平成 28 年度に三つの方針を変更した際に、自己点検・評価運営委員会において協議した（備付-023）。従って、学科・専攻課程の教育課程は、ディプロマ・ポリシーに対応している。

授業科目編成はカリキュラム・ポリシーに基づいて行っており、学科・専攻課程の学習成果と関連づけて各科目の位置付けを定めている。それらの関係をカリキュラムマップに示している（提出-011）。

単位の実質化を図るために、平成 29 年度に CAP 制を導入し（提出-001）、学則において各学期に履修できる単位数の上限を定めている（提出-002、備付-規程集 005）。この規則に沿って学生が履修登録するよう教務委員を中心として運用している。

授業科目の成績は学習成果の獲得に従って短期大学設置基準に則り評価している。各授業科目の成績評価の基準はシラバスに明記している（提出-010）。成績評価は秀（90

点以上)、優 (80 点以上 89 点以下)、良 (70 点以上 79 点以下)、可 (60 点以上 69 点以下) の 4 段階に設定し、この基準に到達しない場合は不可の評価となる。成績評価の基準は学則に定め (提出-002)、学生便覧に掲載している (提出-001)。

シラバスには各授業科目の年次配当、開講時期、担当者 (所属を含む)、単位数、授業形態および時間数、資格選択区分といった基本情報を明示している (提出-010)。また、授業概要、到達目標、授業計画 (授業各回の内容)、授業時間外の学習 (準備学習の内容)、教材 (教科書・参考書等を含む)、評価方法 (成績評価の方法・基準) をすべての科目で示している。到達目標はディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの関連を踏まえた当該科目の学習成果を記載している。各科目で必要な項目を明示しているかどうかを確認するため、担当教員以外の教職員がチェックをしている (備付-036)。

通信による教育を行う学科・専攻課程について、本学では該当する学科・専攻課程はない。

教員の採用および昇任は経歴・業績を基にする「教員資格審査規程」に従って行われ、短期大学設置基準の教員資格に則り適切に教員を配置している。専任教員については「教員資格審査規程細則」および「教員資格審査基準」に基づいて教員資格審査委員会において審議した後、教授会で諮っている。非常勤教員の審査にあたっては、「教員資格審査規程細則」を準用し、経歴、教育上の能力、研究業績、学会および社会における活動等の実績によって選考している (備付-規程集 006~008、備付-041)。

各学科・専攻課程の教員を以下のように配置している (備付-042)。

### **国際文化交流学科**

定員 40 名に対して 6 名の専任教員 (うち教授 2 名) を配置している。専任教員のうち 1 名は英語を母語とする教員である。専門教育科目は交流、文化、言語の 3 分野を軸とし、さらに専門基礎分野、資格関連分野 (ビジネス実務、プレゼンテーション、学校司書) の科目を置く構成としている。各教員は、各自の専門分野に応じた科目を担当するとともに、学際的な科目については、非常勤講師を含めて複数教員によるチーム・ティーチングを行っており、教育内容に厚みを持たせるようにしている。

### **生活学科 情報・経営専攻**

定員 35 名に対して 6 名の専任教員 (うち教授 2 名) を配置している。情報分野の教員が 3 名、経営・ビジネス分野の教員が 3 名である。情報分野はさらにシステムエンジニア系とメディアクリエイター系に分類され、それぞれに専門の教員を配置している。ビジネス分野では、経済・経営・法律について、それぞれを専門とする教員を配置している。教員は、それぞれの分野ごとにあるいは分野をまたがって連携しながら授業を行い、検定試験等の受験指導も行っている。またそれぞれの専門にまたがる科目については複数の教員で担当し、共同での指導を行っている。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

定員 30 名に対して 5 名の専任教員 (うち教授 3 名) と助手 1 名を配置している。住居分野とデザイン分野の教員が各 2 名であり、両分野にまたがる教員が 1 名である。住居分野の教員は設計の実務家として作品の制作業績や建築の研究業績が審査される。

デザイン分野では、主にデザイン、アート・クラフトの作品制作に関する業績を審査している。住居分野で建築に関する科目を担当する教員は、非常勤講師を含めて、一級建築士を取得しており、住居に関する高度な専門的能力を有している。デザイン分野では、各部門（例えば工業デザインや美術）の専門家が科目を担当しており、部門ごとに担当教員が異なっている。

### **生活学科 食物栄養専攻**

定員 50 名に対して 6 名の専任教員（うち教授 4 名）と助手 3 名を配置している。栄養士法施行規則、栄養士養成施設指導要領に基づいた、教育実績、研究業績を有する専任教員を十分な人数配置している。栄養士資格関連の非常勤講師は 10 名である。その他の栄養教諭、フードスペシャリスト、医療秘書実務士関連は合計 6 名の非常勤講師を配置している。また、非常勤講師についても、担当する授業が法令に基づく正規の授業である場合には、施行規則および指導要領に定める資格を具備していることを審査した上で依頼している。

### **幼児教育保育学科**

定員 145 名に対し、15 名の専任教員（うち教授 4 名）を配置している。従って、専任教員 10 名の基準は満たしている。それぞれが業績を有し、教員資格および業績を基にした教員配置である。また、幼稚園教諭免許状に関しては、「領域および保育内容の指導法に関する科目」において 5 名、「教育の基礎的理解に関する科目等」においては 6 名を配置している。保育士資格に関しては、10 名以上の専任教員を満たしており、必修 5 系列別に各専任教員を配置する基準を満たしている。

学科・専攻課程の教育課程はまず学科会議において検討し、見直し案は教務委員会での協議を経て、教授会において審議している（備付-041）。年度によって変更の度合いは異なるが、学則変更を伴う教育課程の変更を毎年行っている。

学科・専攻課程の授業科目の編成や教育課程の見直しについては以下の通りである（備付-043、041、036、031～035）。

### **国際文化交流学科**

教育課程はディプロマ・ポリシーに基づき、交流・文化・言語の科目群を中心に編成している。平成 28 年度～平成 29 年度にかけて教育課程を大きく見直し、教職課程を廃止することとした。これに伴い、英語に関する科目を 4 技能（話す、聞く、書く、読む）の伸長に焦点を当てて再編した。1 年次前期に初年次教育を行う科目を新設し、キャリアデザインの科目やプレゼンテーションの科目と併せて専門基礎の柱を立てた。また、学校司書のカリキュラムを導入し、司書教育課程の学びと併せてコミュニケーション力の向上を図ることとした。さらに、効果的に学習成果が獲得できるよう、科目間の連携を強化している。

### **生活学科 情報・経営専攻**

教育課程はディプロマ・ポリシーに基づき、情報処理系とビジネス実務系の科目群を中心に編成している。また、「基礎演習 A」、「基礎演習 B」および「特別研究」を必修科目として設置し、主体的な学びの姿勢を育成できる教育課程としている。これらを

総合して、実務能力を活かして地域社会で活躍できる人材育成をめざしている。

1年次を中心として基礎共通系の科目群を開講し、情報処理系、ビジネス実務系ともに基礎から応用へと学べるような教育課程とし、体系化を図っている。また課題解決型の学習にも力を入れ、基礎力から応用能力を培う演習科目を開講し、学びの柱としている。また、特にビジネス実務系については、学んだことを実地において確認するための「ビジネス実務実習」も組み入れている。

情報処理、ビジネス実務の分野の動向に目を配り、学科会議の協議を経て、最新の検定試験等にも対応した教育課程編成に努めている。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

専門教育課程はディプロマ・ポリシーに基づき、住居系とデザイン系の両分野で専門的知識と技能を習得できるよう取得資格、検定資格関連科目を編成している。また、住居系、デザイン系の業界は新材料や工法、IT技術の変化が激しくこれらに対応するよう現地見学等を心掛けている。

専門教育課程の1年、2年次においては住居系、デザイン系の両分野で共通する基礎分野である「デザイン概論」、「色彩学」、「建築史」、「デザイン史」等を必修科目として開講している。専門教育課程の検討は毎年行っており、時代に即した科目を検討し専門分野の充実を進めている。令和元年度から「3Dモデリング」を取り入れた。

### **生活学科 食物栄養専攻**

教育課程は栄養士養成を主軸として編成しており、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」の専門基礎分野で食品成分や人体の構造等について理解し、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」の専門分野で現場に即した内容について学ぶよう体系づけている。

法改正や社会の変化に伴い教育課程を定期的に見直していくことが求められ、教育課程の見直しは毎年行っている。平成29年度入学生から「コミュニケーション論」を栄養士資格必修科目として導入し学習成果の向上をめざした。また平成30年には平成31年度教職課程再課程認定の申請に伴う教職課程（栄養教諭）の見直しを行い「特別支援教育」の新設等、教職課程コアカリキュラムに基づく科目や単位数の変更を行った。

### **幼児教育保育学科**

本学科は幼稚園教諭二種免許状の課程認定と指定保育士養成施設の指定を受けており、幼稚園教諭免許状および保育士資格に必要な科目はすべて設置し、ディプロマ・ポリシーに規定する保育者として必要な知識・技能を養うための教育課程となっている。1年次前期には初年次教育の科目である「保育・教育入門」を置き、対応して2年次後期には出口管理の意味合いを持つ「保育・教職実践演習（幼稚園）」と「保育者論」を設置している。また、実習関係科目を各学期に配置して学外実習を実施し、実習経験を学習素材として反映させている。「保育活動で活かせる表現力」、「保育者にふさわしい意欲・態度」を育成できるよう、授業科目を編成、体系化し、学習内容の積み上げと発展的深化を図っている。

科目担当者や学生の質等に変化があるとき、また、プレースメントテストや履修カ

ルテ等の整理・検討により、学科会議において、毎年教育課程の見直しを行い、教育の質の向上に努めている。また、平成 29 年度～平成 30 年度にかけて、平成 31 年度教職課程再課程認定の申請、保育士養成課程改定によるカリキュラムの見直しにより、多くの科目を改変した。

**[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
- (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
- (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

#### ＜区分 基準Ⅱ-A-3 の現状＞

本学は、教養教育を全学共通開講の教養科目として実施している。全学のカリキュラム・ポリシー（提出-016）に基づき、教養科目として教養（人文、社会、自然の各分野をバランスよく）・語学・体育の科目群を設定している（提出-001、010、備付-043）。その上で、各学科・専攻のカリキュラムツリーにおいて、教養教育として実施する教養科目と専門教育として実施する専門教育科目を結びつけ、各学科・専攻単位で設けているカリキュラム・ポリシーとの関連で、その位置付けを整理している（提出-012）。

教養科目の内容に関しては、教養科目検討会を開催して検討を行ってきた。平成 29 年度からはカリキュラム全体を点検するために設置したカリキュラム検討会で中長期的な教養科目の在り方を検討している（備付-規程集 004）。

教養科目の効果測定・評価は、毎学期に実施している授業評価アンケート（全科目対象）を、専門教育科目とともにを行い、結果を集計して共有している（備付-030）。集計分析においては、教養科目全体としての学習成果の達成を検証している。これらの結果に基づいて、科目担当者は「研究・教育活動計画書」において、科目の現状認識と改善の工夫点を記入・提出している（備付-044）。また、有識者会議における本学の教育への意見も参考にし、前述のカリキュラム検討会等での議論を経て授業改善に反映させていくことが可能となっている（備付-015、045）。

**[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
- (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

### ＜区分 基準Ⅱ-A-4の現状＞

全学的には、教養科目の「キャリアデザイン入門」で職業教育を包含するキャリア教育科目を設定し、それを土台または併行の形で各学科・専攻の専門教育科目でキャリア教育科目を設けている（提出-010、備付-043）。また、本学の建学の精神で想定する「地域（社会）」を前提に、それぞれの学科・専攻の専門性を生かした職業への意識を高めるため、「現代鳥取学」「現代鳥取研究」の科目を設け、専門教育科目への橋渡しとなる教養教育を実施している（提出-010、備付-043、046）。

国際文化交流学科は広く一般職に向けたビジネス実務教育、コミュニケーション教育、学校司書に関わる内容に取り組んでいる。生活学科情報・経営専攻も、一般職に向けたビジネス実務教育に加え、情報処理や経営分野に特化する教育を行っている。生活学科住居・デザイン専攻では、建築・デザイン分野の実践的な専門教育に取り組んでいる（提出-010、備付-043）。

生活学科食物栄養専攻は主に栄養士を、幼児教育保育学科は保育士・幼稚園教諭を養成する専門課程としてそれぞれ厚生労働省の指定、文部科学省の認定を受けており、それぞれの学科・専攻で行われる教育全体がすなわち職業教育ということになる。専門職を養成する課程においては、キャリア形成をめざし、生活学科食物栄養専攻では「食生活論」、幼児教育保育学科では「保育・教育入門」を職業への導入科目および初年次科目に位置付け、2年間にわたる体系的な職業教育を実施している（提出-010、備付-043）。

こうした職業教育の効果の測定としては、アセスメントポリシーを定め、PDCA サイクル表に基づき実施している（備付-016、047）。加えて、本学または学科の職業教育の効果の測定としてはキャリア支援部が卒業生・雇用主を対象に実施しているアンケートがある（備付-014）。また有識者会議の意見交換における内容も質的評価としてくみ取り、各学科・専攻やカリキュラム検討会等での議論を経て、改善に資するようになっている（備付-015、045）。

### 〔区分 基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。
- (2) 学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。
- (3) 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。
- (4) 入学者選抜の方法（推薦、一般、A0選抜等）は、入学者受入れの方針に対応している。
- (5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定し

て、公正かつ適正に実施している。

- (6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。
- (7) アドミッション・オフィス等を整備している。
- (8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。
- (9) 入学者受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

### ＜区分 基準Ⅱ-A-5の現状＞

全学の学習成果である「他の人の意見を理解し、自分の考えを伝える力」、「職業および実際生活に必要な専門的・実践的能力」、「社会の一員としてルール・マナーを守り、積極的に行動する態度」は、全学のアドミッション・ポリシーにおける「本学で学ぶために必要な基礎学力のある人」、「自分の考えを主体的に表現することができる人」、「ひととのつながりや地域社会を大切にしようとする人」の3つと明確に対応している。また、各学科・専攻のアドミッション・ポリシー（基準Ⅰ-B-3）と学習成果（基準Ⅰ-B-2）には、次に示すような関連性がある。

#### 国際文化交流学科

アドミッション・ポリシーは、学習成果項目である「文化理解への意欲・態度」および「表現力」の前提として期待される能力・資質を示している。また、学科として、学習成果項目を測定する尺度として具体的な指標を設定して学習成果の査定にも活用しているが、それらの指標とも連動するものになっている。

#### 生活学科 情報・経営専攻

アドミッション・ポリシーは、学習成果項目に掲げている「情報活用能力、ビジネス実務能力を身につけ、社会人としての基礎力を備えている」という内容に対応している。すなわち情報処理とビジネスの専門知識とその活用能力を習得し、地域に貢献していくという大学での学びの最終目的に到達できる意欲と能力を求めている。

#### 生活学科 住居・デザイン専攻

アドミッション・ポリシーは、学習成果に掲げている「住居の設計力」および「デザインの企画・表現力」に対応し、それぞれの専門分野で製作活動を積極的に行う基本的な能力と意欲としている。

#### 生活学科 食物栄養専攻

アドミッション・ポリシーは、学習成果に掲げた「栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解する力」および「健康増進・維持を図る指導力」「食事計画や給食運営ができる力」に対応しており、食と栄養の専門家として活躍するために求められる実践力の向上をめざす内容としている。

#### 幼児教育保育学科

アドミッション・ポリシーは、学習成果項目の「保育活動で活かせる表現力」、「保育者にふさわしい意欲・態度」、に対応し、人と人との関りを大切にし、保育者として必要な知識や技術、感性を身につけ、保育現場や社会において、自己の役割を果たす努力をすることができることとしている。

本学では、全学のアドミッション・ポリシーおよび各学科・専攻のアドミッション・ポリシーを学生募集要項(提出-018、019)、ホームページ(3つのポリシー)(提出-004)等に明示している。

アドミッション・ポリシーは、主に基礎学力、勉学への意欲・向上心、人格を主軸としており、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示す内容である。入学者選抜の方法としては、推薦選考、試験選考、A0方式選考を行っており、いずれの選考も「面接」と「調査書」を重要な評価方法とし、志願者のこれまでの学習成果の状況の把握に努めるとともに、入学後の学習成果の獲得を予測している(備付-048)。

全学のアドミッション・ポリシーである、「本学で学ぶために必要な基礎学力のある人」は、調査書および学力試験で対応し、「自分の考えを主体的に表現することができる人」と「ひととのつながりや地域社会を大切にしようとする人」は「面接」を通して確認している。従って面接および調査書を重視した入学者選考の方法は、アドミッション・ポリシーに対応している。

高大接続の観点により5つの選考を実施している(提出-018、019)。

- ①推薦選考(指定校推薦選考および一般推薦選考):調査書60%、面接40%
- ②試験選考(A日程、B日程、C日程):学科試験または小論文60%、調査書20%、面接20%
- ③学業特待選考(1次~4次):学科試験80%、面接20%
- ④A0方式選考(体育特待選考[令和元年度以降廃止]、自己推薦選考、オープンキャンパス参加型選考、社会人選考、帰国生徒選考)
- ⑤外国人留学生選考(10月入学、4月入学)

このうち、④のA0方式選考では、相談者から提出された「A0方式選考相談票」に基づき、入試広報部と当該学科が、アドミッション・ポリシーに照らして審議し、書類審査をする。審査に合格すれば、出願手続きの上、面談を行う。また、A0方式選考内のオープンキャンパス参加型選考は、平成29年度入学生から実施している選考であり、主として高大接続の観点からオープンキャンパスの体験授業において学習した内容と入学後の学習成果との接続性から志願者の学習意欲を確認する選考である。⑤の外国人留学生選考では、入試広報課が出願資格(学歴、日本語能力、経済状況)および入国手続き書類一式の真偽を確認した上で、当該学科が「日本語による小論文」の審査を行う。いずれの入学試験においても、その選考方法や合否判定は、入学者選考委員会において協議している(備付-規程集009、010)。各学科・専攻で討議された合否案に基づいて、入学者選考委員会が厳正に合否案を討議する。その討議結果は教授会での承認を得た上で、合否発表を行っている(備付-049、041)。

授業料、その他入学に必要な経費は学生募集要項に明示している。

大学全体の入学者選抜においては、入試広報課長がアドミッション・オフィサーとして関わっている。高校訪問における高校教員との意見交換の集約、すべての選考における入学後の成績追跡調査データの分析等を基に意見を述べ、アドミッション・オフィスの機能を果たしている(備付-049、050)。

受験の問い合わせ等に対しては、入試広報課が、電話および窓口での問い合わせの対応を常時行っている（ただし土日祝日は留守番電話対応）。課内職員の学外出張時に際しては、最低 2 名体制を維持し対応するようにしている。またメールでの問い合わせに対しては、平日に受信したものは即日または翌日には返信している。そして想定される質問事項とその回答をマニュアル化（学生募集マニュアル）し、課内で共有している（備付-051）。

「鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会」および鳥取県教育委員会の協力を得て、県内の東部地区、中部地区、西部地区の高等学校長との懇談会を実施している（年 1 回）（備付-022）。主たる懇談内容としては、望まれる入試のあり方であり、高大連携の観点から入学者受入れの方針に繋がる議論を行っている。また、入試広報部が実施している高校訪問においても高校の進路担当者と密なる意見交換に努めている（備付-050）。

**[区分 基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果に具体性がある。
- (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
- (3) 学習成果は測定可能である。

**<区分 基準Ⅱ-A-6 の現状>**

学習成果は各専門分野で養成されるべき能力を具体的に示している（提出-013）。各学科・専攻の学習成果は主として教育目的やカリキュラム・ポリシーに基づいて作成しているが、各学科・専攻とも、より具体的な内容を盛り込んで規定している。

**国際文化交流学科**

学習成果は、交流、文化、言語を総合したコミュニケーション力を基盤とし、これを「文化理解」と「表現力」として具体的に規定したものである。

この学習成果は、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」や、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」で示された、社会で求められる能力とも深く関係し、実際的な価値が認められる。

**生活学科 情報・経営専攻**

学習成果は「社会人基礎力」を基礎に、経営と情報処理の基礎知識を備え、ビジネスコンピューティングの能力を身につけることを目標に設定している。

この学習成果は、本専攻の卒業生の進路となるビジネスの現場において必要不可欠とされる能力であり、実際的な価値が認められる。

**生活学科 住居・デザイン専攻**

学習成果は、住居系、デザイン系の分野ごとに教育目的および目標に定めた学習すべき内容と関連づけてより具体的に定めている。住居系では取得資格を主に、デザイン系では検定資格を主に目標としている。

この学習成果は社会で求められる資格取得や表現力と直結している。

### **生活学科 食物栄養専攻**

学習成果は、栄養士や栄養教諭、フードスペシャリスト、医療秘書実務士等の資格と関連づけて具体的に規定している。

この学習成果は、健康の維持増進を図る能力、食の分野から地域社会に貢献できる能力を身につけ、食と栄養の専門家として活躍するために必要である。実社会で求められる能力と深く関係し、実際的な価値が認められる。

### **幼児教育保育学科**

学習成果は、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得を前提とし、取得に必要な科目を基盤に、「表現力」「意欲・態度」として具体的に規定したものである。

保育・幼児教育に関わる広い視野、専門知識と子ども観を基盤とした保育実践力、応用力、さらには人との関わりを大切にすること等、保育者として社会や家庭で求められるスキルの獲得は、一般社会においても実際的な価値がある。

各学科・専攻の学習成果は2年間の在学期間において達成可能であるよう、教育課程を編成している（備付-043）。いずれの学科・専攻においても学習目標の達成あるいは資格の取得ができるよう、科目間を関連づけて教育課程を体系的に編成している（提出-011）。この体系に基づいて年次ごとに学習成果をどの程度獲得できるようにするかを設定している（提出-012）。学習成果が達成可能であることは、資格の取得者数等の実績からも認めることができる（提出-014）。修学期間内の達成可能性については教務委員会において教育課程を協議する際にも吟味している。各学科・専攻の状況は以下の通りである。

### **国際文化交流学科**

学習成果を測定する尺度として学生が達成すべき項目（40項目）を学科独自に定め、これらの指標を反映した教育課程を作成している。教員がこれらの項目を理解して授業を行えるよう、学科会議および年1回開かれる非常勤講師連絡会を通じて教員のベクトル合わせに努めている。

### **生活学科 情報・経営専攻**

基礎から応用へと学びの順序を考えた教育課程を踏まえ、教員による評価と取得した単位に応じた全国大学実務教育協会の認定資格の取得および日本商工会議所や独立行政法人情報処理推進機構（以下、IPA）などの検定資格の取得から学習成果の達成可能性を判断しており、より多く、レベルの高い資格取得ができるよう努力している。そのため、学生の資格取得状況を把握することに努め、学生の達成の度合いを確認している。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

専門教育課程で取得資格、検定資格が取得できるよう専門教育科目をカリキュラムツリーに表し、学生が取得目標を定めやすいよう編成している。1年次の単位取得一覧、成績一覧表から学生の目標としている取得資格、検定資格の種類等を教員も共有し取得できるよう支援している。

### 生活学科 食物栄養専攻

栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、医療秘書実務士等の資格取得のために厚生労働省、文部科学省および各協会のカリキュラムガイドラインを基に教育課程を編成している。学習成果の達成可能性について、1年次の成績評価を基に学科会議で協議し、2年次の資格取得に向けた指導や支援に努めている。

### 幼児教育保育学科

幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の両資格を取得できるように教育課程を編成している。保育者としての実践力、応用力を高めるために、実習関係科目を各学期に配置して学外実習を実施し、実習経験を学習素材として反映させている。また、能動的な学習ができるように「特別研究」に代表される少人数制の演習科目、さらには、幅広い選択科目の設定等により、「表現力」「意欲・態度」の育成に努めている。

各学科・専攻の学習成果は達成の程度や質を測定できるよう、主として学生の自己評価と成績評価、資格の取得状況を用いてより多面的、客観的に行なっている。

本学全体の学習成果をそれぞれ次のように測定している。①「他の人の意見を理解し、自分の考えを伝える力を備えている」の項目については、主として卒業前アンケートに基づいて評価している。②「職業および實際生活に必要な専門的・実践的能力を備えている」の項目については、GPA 分布および各学科・専攻の単位取得率等によって測定している。③「社会の一員としてルール・マナーを守り、積極的に行動する態度を身につけている」の項目については、入学時・卒業前アンケートでの結果によって評価を行っている。

各学科・専攻の状況は以下の通りである（提出-014）。

### 国際文化交流学科

学習成果の、①「自文化を知り、異文化を理解しようとする意欲・態度を備えている」については、学生による学習成果の自己評価（入学時、1年次末、卒業前）と文化理解度テスト（入学時、1年次末、卒業前）を実施し測定している。②「自分の知識や考えを分かりやすく表現する力を身につけている」については、学生による学習成果の自己評価（入学時、1年次末、卒業前）により測定している。また、プレゼンテーションを伴う複数の科目において、学生によるプレゼンテーション力の自己評価（各学期末）を実施し測定している。取得資格や検定資格の取得状況もデータとして利用している。

上記のいずれについても、学科会議で集計結果を検討し、特に学生の自己評価については、成績評価や教員による評価も加味して総合的に測定している。

### 生活学科 情報・経営専攻

本専攻の学習成果は次のように測定している。①「情報活用能力を身につけている」については、全国大学実務教育協会の認定資格の取得、日本商工会議所主催のPC検定、IPA 主催の情報処理技術者試験の合格状況で測定している。②「ビジネス実務能力を身につけている」については、学生によるビジネス関連科目の学習成果の自己評価シート、全国大学実務教育協会の認定資格の取得、日本商工会議所主催の簿記検定、コンピ

ユータ会計能力検定の資格取得状況で測定している。③「社会人としての基礎力を備えている」については、グループワークと PBL での自己評価・他者評価シート、卒業生と雇用主アンケート結果によって評価を行っている。

### 生活学科 住居・デザイン専攻

本専攻の学習成果は次のように測定している。①「住居を設計する実務能力を身につけている」については、ポートフォリオ、学生へのアンケート調査、建築士受験資格、単位取得率の結果によって評価を行っている。②「デザイン作品を企画し、表現する力を備えている」については、ポートフォリオ、学生へのアンケート調査、デザイン分野展覧会等受賞の結果によって評価を行っている。

### 生活学科 食物栄養専攻

生活学科食物栄養専攻の学習成果をそれぞれ次のように測定している。①「栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解している」については、実力模擬試験および栄養士実力認定試験の成績評価、栄養士資格・栄養教諭二種免許状・医療秘書実務士の資格取得者数、フードスペシャリスト資格認定試験合格率および履修カルテ（教職科目）の評価に基づいて測定している。②「個人および集団の健康増進・維持に関する栄養教育ができる」および③「食事計画や給食運営ができる」については、実力模擬試験および栄養士実力認定試験の成績評価、栄養士資格・栄養教諭二種免許状の取得者数、フードスペシャリスト資格認定試験合格率および履修カルテ（教職科目）の評価により測定している。

### 幼児教育保育学科

学習成果の、①「保育活動で活かせる表現力を身につけている」と②「保育者にふさわしい意欲・態度を備えている」は、毎学期実施する自己評価シートの分析および幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得率により測定している。入学時および卒業前に実施する IRT 診断テストから、本学科における 2 年間の学びの変化を測定している。

[区分 基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) GPA 分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
- (2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
- (3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。

### <区分 基準Ⅱ-A-7 の現状>

GPA 制度は平成 28 年度に学科長会を中心に協議を行い、教授会での審議を経て、平成 29 年度入学生から導入した。GPA 分布については、学習成果部会において平成 29 年

度および平成 30 年度に全学および各学科・専攻ごとの分布の算出を行い（備付-052）、自己点検・評価運営委員会に報告した（備付-023）。全学的にみると、平成 29 年度生については、1 年次の時よりも GPA が高くなったことから、2 年間の学びを通して一定の学習成果を収めたといえることが分かった。平成 30 年度生については、平成 29 年度生が 1 年次だった時の GPA よりも低くなった学科・専攻（情報・経営専攻、食物栄養専攻）があることが分かった。これらの学科・専攻に限らず、GPA が 1.5 未満の成績下位層の学生が約 1 割存在することが分かり、各学科・専攻でそうした学生に対する学習面での支援を行った。GPA 分布の活用については今後も継続予定である。学位取得率については学習成果部会において平成 28 年度に全学、各学科・専攻ごとに算出した。単位取得率については学習成果部会で把握している。また、学科の特性に応じて導入したテスト、専門分野と関連の深い資格試験の合格率、学生の自己評価、個々の達成度の集積（ポートフォリオ等）およびルーブリック評価等を組み合わせている（提出-014）。学科・専攻ごとに学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みを以下のようにもっている。

### **国際文化交流学科**

量的データでは、まず、入学時に英語と国語の習熟度テストを実施している。英語については 1 年次後期の開始時にも実施し、英語系科目のクラス分けの資料として活用している。国語については 1 年次後期の選択科目「資格日本語演習」における筆記試験の結果を入学時の結果と比較することによって、学生の成長を確認している。また、学生による学習成果の自己評価（入学時、1 年次末、卒業前）を実施して学生の成長を把握するとともに、これに教員側の成績評価を含めて総合的に評価している。そして、文化理解度テスト（入学時、1 年次末、卒業前）を実施し、文化に関連する科目の改善に役立てている。

質的データでは、主に交流に関連する科目において、学習ノートや振り返りシートを用いて学生の学習態度や状況を随時確認し、学習支援に役立てている。また、プレゼンテーション力について、学生による自己評価と教員による評価を比較検討し、学習成果の測定に役立てている。

検定試験である実用英語技能検定、日本語検定、コミュニケーション検定の可否結果は学科会議にて報告し、情報を共有している。取得資格であるビジネス実務士、プレゼンテーション実務士については、卒業判定の学科会議にて、各学生の資格取得状況を把握している。

### **生活学科 情報・経営専攻**

量的データでは、専門教育科目の学習成果を、シラバスの到達目標に基づき、小テスト、提出物、定期試験によって、成績評価基準に従い査定している。また、情報活用能力、ビジネス実務能力についての各種取得資格とコンピュータ会計や日本商工会議所主催の簿記検定、IT パスポート等の検定資格の合格者数の測定を行っており、その結果に基づいて学生の学習到達度を専攻教員間で共有し、学生への指導に活用している。

質的データでは、学生による「授業評価アンケート」と「ルーブリック評価」の結果を活用している。また「特別研究」や「プロジェクト演習」での外部の識者からのコメ

ントが貴重なデータとなっている。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

量的データでは、住居とデザインの両分野に関わる主要資格の資格取得率を測定している。また、専門分野別の教員の成績評価によって、専攻全体での授業の理解度や課題の達成度を測定している。そして、創造的な作品の企画や表現についての達成度はコンペ、展覧会への出品・入選数によって測定し、これを学外からの評価の指標としている。

質的データでは、学生を対象にしたアンケート調査結果があり、学習成果の自己評価を測定している。また、学生作品の質の評価によって、教員が学生の達成度を個別的に測定している。

### **生活学科 食物栄養専攻**

量的データでは、資格取得状況の把握を行うことや全国栄養士養成施設協会が行う栄養士実力認定試験の結果から測定を行っている。

質的データでは、教育内容（専門分野）の到達目標調査票の自己評価シートに、学生自身が学期ごとに記入して専門分野の理解度を把握し、専門分野の修得状況を試験の成績と併せて自己の学習を振り返る材料としている。

### **幼児教育保育学科**

量的データでは、学習成果を数値化することをめざしている。そのため、複数の科目において、より客観的な評価を可能とする自己評価シートを作成し、学習前後の測定を行い、学習成果の修得状況の把握に努めている。

質的データでは、授業レポート、実習自己評価および実習日誌等の記載内容の作成時期による変化に着目し、学びの質的变化として評価に活かしている。

「授業評価アンケート」はすべての科目担当者に学期ごとに依頼を行っており、その実施率は9割を超えている。学生の評価結果は科目ごとに集計されるとともに、学科・専攻別や科目区分別等に集計が行われており、それらの結果を全教員に配布している。その結果については教務委員会で検討している（備付-030）。

平成28年度までのアンケート部会および平成29年度以降のIR部会において、入学時および卒業時の学生による自己評価の集計を行っており、その結果について自己点検・評価運営委員会において報告している。卒業生についてもアンケート部会において調査を実施し、その結果を自己点検・評価運営委員会において協議している（備付-053）。また、学科・専攻ごとの就職率や他大学への編入学率およびインターンシップへの参加状況についてはキャリア支援部の教職員が把握し、月ごとに集計を行っており、学生の達成状況を大学協議会および教授会において報告している。なお、「入学時および卒業前アンケート」および、「卒業生および雇用主アンケート」は毎年、それぞれ実施している。在籍率、卒業率については学習成果部会で検討し、学習成果報告書に記載している（提出-014）。さらに、上記のさまざまなデータを活用して自己点検・評価運営委員会のほかカリキュラム検討会等で協議し、次年度のカリキュラム編成等に活かしている（備付-045）。

近年の学習成果の公表は以下の通りである。第一に平成 27 年に香川短期大学と第三者評価と同等の基準で量および質的データに基づいて相互評価を行った。その結果を報告書冊子としてまとめ、短期大学基準協会に報告し、その内容については同協会のホームページに掲載されている（備付-024、025）。

第二に学生の授業評価アンケートの結果は学内で共有するとともに非常勤講師連絡会および本学ホームページ（備付-054）で公表している。また、同連絡会においては各学科・専攻ごとに学習成果に関わる状況が報告、協議されている（備付-017）。

第三に学生の学習状況や進路の達成状況については毎年開催している県内高等学校の校長会との懇談会において報告している。平成 28 年度には鳥取県の東部、中部、西部の各地区で開催し、県内のほぼすべての高等学校の校長に対して学生の達成状況を公表した（備付-022）。

#### [区分 基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。
- (2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。

#### <区分 基準Ⅱ-A-8 の現状>

平成 27 年度から本学卒業生の採用実績がある事業所を対象に雇用主アンケートを実施している（備付-014）。実施年度から 5 年遡って就職実績のある企業約 400 社に調査票を郵送し、平成 27 年度は 141 事業所、平成 28 年度は 173 事業所、平成 29 年度は 166 事業所、平成 30 年度は 213 事業所から回答を得た。回収率は、平均 40%を上回っている。主な質問内容は、本学のディプロマ・ポリシーに準拠した評価項目と新規採用時に重要視すること、そして本学学生および本学のイメージについての調査である。

本学のディプロマ・ポリシーに準拠した評価項目では、企業は新卒者に対して「他人と協調して行動する力」、「社会のルール・マナーを守って行動する態度」、「他人の考えを理解しようとする態度」等の対人関係の構築に必要な能力に対する評価が比較的高く、これらの項目は採用時にも同様に重要視されていることが示されている。また、短期大学の卒業生が在学時に習得すべき力や態度として、平成 27 年度および平成 28 年度においては、「職業や社会生活に必要な専門的、実践的な力」が重要視されているが、平成 29 年度では「他人と協調して行動する力」「社会のルールを守って行動する態度」が求められていることがわかった。なお、専門的および実践的能力と社会のルール・マナーを守る態度は、本学全体の学習成果の項目でもある。これらの調査結果は冊子にして事業所と本学教職員に配付し、学内で情報共有している。また、調査結果については、平成 30 年度からは IR 部会で分析し、各学科・専攻および自己点検・評価運営委員会で協議し、カリキュラム編成および学生指導に有効に活用している。さらに、各学科・専攻においては、学習成果としての分析および点検を行っている。

＜テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の課題＞

GPA 制度は平成 29 年度入学生より導入している。今後データの蓄積を進め教育方法の改善に活用していく。

＜テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の特記事項＞

平成 30 年度からティーチング・ポートフォリオ（備付-055）を作成し、個々の教員が自分の授業改善に活かしている。

平成 30 年度のアセスメントポリシー（備付-047）の制定を通して、より明確に教育の改善に努めている。

アクティブラーニングの充実を図っており、シラバス（提出-010）に各科目での取り組みを明記し、学生が理解しやすいようにしている。

授業時間外の学習を通じて学習成果がより向上するように、各科目での課題等の内容をシラバスに明示している。

授業評価アンケートの取り組みについて平成 30 年度に学生代表者との意見交換を行った（備付-038）。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

＜根拠資料＞

提出資料

- 001 平成 30(2018)年度学生便覧
- 002 鳥取短期大学学則
- 004 ホームページ「3つのポリシー」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652>
- 005 鳥取短期大学カレッジガイド 2018
- 006 鳥取短期大学カレッジガイド 2019
- 010 平成 30 年度シラバス
- 012 カリキュラムツリー
- 014 平成 30 年度学習成果報告書
- 018 2018(平成 30)年度学生募集要項
- 019 2019 年度学生募集要項

備付資料

- 019 学習成果部会の議事録(平成 28～30 年度)
- 031 国際文化交流学科科会議事録
- 032 情報・経営専攻科会議事録
- 033 住居・デザイン専攻科会議事録
- 034 食物栄養専攻科会議事録
- 035 幼児教育保育学科科会議事録

- 044 研究・教育活動計画書
- 045 カリキュラム検討会議事録
- 051 学生募集マニュアル
- 055 ティーチング・ポートフォリオ
- 056 学科長・委員・担任等体制一覧
- 057 オリエンテーション日程
- 058 キャリアガイドブック 2018
- 059 キャリアガイドブック 2019
- 060 キャリアガイドブック 2020
- 061 図書館委員会議事録
- 062 平成 30 年度鳥取短期大学入学前ガイダンス日程表
- 063 オフィスアワー一覧
- 064 ホームページ「シラバス・課程表」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5902>
- 065 ちょこっとノート
- 066 学生相談室活動報告
- 067 国際交流委員会議事録
- 068 保健室利用状況
- 069 学生委員会議事録
- 070 FD 活動実績
- 071 シグナス寮入寮者数一覧
- 072 学科別ケース会議開催日一覧
- 備付資料-規程集
- 011 鳥取看護大学・鳥取短期大学文書規程
- 012 鳥取看護大学・鳥取短期大学付属図書館規程
- 013 鳥取看護大学・鳥取短期大学付属図書館業務規程
- 014 鳥取看護大学・鳥取短期大学付属図書館委員会規程
- 015 学校法人藤田学院における情報セキュリティポリシー
- 016 鳥取短期大学指定寄付奨学金規程
- 017 鳥取看護大学・鳥取短期大学学友会規約
- 018 鳥取看護大学・鳥取短期大学寮運営委員会規程
- 019 鳥取看護大学・鳥取短期大学学寮規程
- 020 学校法人藤田学院構内駐車場利用規程
- 021 鳥取看護大学・鳥取短期大学自動車等通学規程
- 022 鳥取短期大学学生相談室規程
- 023 鳥取短期大学国際交流委員会規程
- 024 鳥取短期大学社会人奨学金規程
- 025 鳥取短期大学における障害学生等の支援に関する規程
- 026 鳥取短期大学特別支援教育委員会規程

- 027 鳥取短期大学社会人入学者の長期履修規程
- 028 鳥取短期大学地域貢献賞の表彰に関する規程
- 029 鳥取短期大学とりたん同窓会奨励金施行細則
- 030 鳥取看護大学・鳥取短期大学キャリア支援委員会規程
- 031 鳥取短期大学ティーチング・アワード表彰に関する規程

[区分 基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
  - ① 教員は、シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。
  - ② 教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。
  - ③ 教員は、学生による授業評価を定期的を受けて、授業改善に活用している。
  - ④ 教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
  - ⑤ 教員は、教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
  - ⑥ 教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。
- (2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
  - ① 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得に貢献している。
  - ② 事務職員は、所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。
  - ③ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。
  - ④ 事務職員は、学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。
- (3) 教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。
  - ① 図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。
  - ② 教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。
  - ③ 教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。
  - ④ 教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。
  - ⑤ 教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

<区分 基準Ⅱ-B-1 の現状>

教員は以下のように学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

具体的な内容は、シラバスに示した成績評価基準および本学の成績評価基準に基づき、各教員が担当科目において評価を実施している。学習成果の獲得状況が成績評価基準に照らして十分でない場合は、再試験を設定して所定の期間までの到達具合を判断して評価する科目もある（提出-010）。

学習成果の獲得状況は各学科会議において協議され、所属する専任教員は共有している（備付-031～035）。また、非常勤講師は非常勤講師連絡会において公開される内容に基づいて適切に把握している。

毎年5月に各教員が提出する「研究・教育活動計画書」では、授業評価アンケートの結果を踏まえて、担当している科目の授業改善の計画を作成している。11月に提出される「研究・教育活動報告書」では計画書に示された改善点の報告と課題の検証を記入している（備付-044）。また、平成30年度にティーチング・ポートフォリオ（備付-055）の提出を義務づけた。

専任教員間では、各学科・専攻の学科会議や授業担当者間での打ち合わせ会等で意思の疎通を図っている。兼任教員とも、必要に応じて打ち合わせを実施し、授業担当者間で協力や調整を行っている。非常勤講師とは授業のある際に現状や意見を聞くほか、非常勤講師連絡会を開催している。

教員は学科会議、学習成果報告書、授業評価アンケート結果等において教育目的・目標の到達状況を把握・評価している。全学の状況についても中期計画の報告を行う「法人教職員全体会」を通して理解を深めている。

担任制を実施しており、学生ごとの詳細な状況を学科の教員全員で把握している（備付-056）。また、担任や学科の教員だけではなく、必要に応じて学科を超えた形でも学生の履修指導や卒業までのトータルな指導を展開している。学期ごとのオリエンテーションでは教員は学生に対して履修および卒業に至る指導を行っている（備付-057）。進路面はキャリア支援部と連携して教員が個々の学生に指導を行っている。

事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

「地域の発展に貢献する人材を育成する」という建学の精神の下、本学の各学科・専攻の教育目的・教育目標（提出-002）を理解し、学習環境の整備や助言・指導といった所属部署の職務を通じて学習成果の獲得に側面から貢献している。具体的には、総務課は教室等の施設整備に加え施設利用ルールの指導、教務課では科目の履修や資格取得に関するサポート、学生課は学生委員会と連携して学友会活動のサポートや学生のマナー面での指導、入試広報課はオープンキャンパス学生スタッフの育成指導、キャリア支援課ではガイダンス等を通じた社会人教育等、それぞれ所属部署を通じて学習成果の獲得に貢献している。

また、事務職員は、それぞれ所管部署の窓口業務、学生生活上のルール・マナーの指導、体育祭や大学祭等さまざまな大学行事での関わり等の職務を通じて、学生の社会人としての成長度をすべての事務職員が認識することによって、教育目的・目標の達成状況の把握をしている。

このほか、教務課や学生課、キャリア支援課を中心に学生の情報を共有し、学生に対して履修および卒業に至る支援を行っている。具体的には、教務課では履修方法の説明や資格取得等の相談に対応しているほか、学生相談室に非常勤カウンセラー2名を配置して学生相談を受け付けている。加えて、平成29年7月から学生支援室を開設し、専任の学生支援員を別途採用して支援体制を強化した（提出-001）。主に学び方の支援を行って成果をあげている。また、キャリア支援課では、個別面談を重ねる等学生一人ひとりと向き合った進路指導を行っている（備付-058～060）。

教務課では、「文書規程」（備付-規程集 011）に基づき、施錠可能なキャビネットで成績原簿（台帳）を永久保存しているほか、成績の採点表等試験に関する書類を5年間保存している。また、教務システム導入後は、システムデータとしても保存しており、パスワードをかけセキュリティ対策を講じている。

教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備および技術的資源を有効に活用している。

付属図書館本館の業務を担当する専門的職員（司書）は、レファレンスサービス等により学生の学習を支援している（備付-規程集 012、013）。資料の充実を図るため、付属図書館は図書館委員会（備付-規程集 014）および各学科・専攻と協働して、授業科目や専門分野に関連した図書の収集を重点的に行い、シラバス記載のテキストおよび参考図書のうち入手可能な資料はすべて購入するとともに、半期ごとに専任教員および非常勤講師等に推薦図書・参考図書を募り、選書後購入して配架している（備付-061）。また毎年各学科のブックリストを作成してオリエンテーション時に学生に配布し、学生の学習向上のために支援を行っている。

さらに教職員は、授業での推薦図書や参考図書をシラバス（提出-9）に挙げ積極的な利用指導、試験対策問題集等の利用、専門雑誌の活用、初年次に図書館見学等を行い、学生の図書館利用の利便性の向上に努めている。また本学には県内唯一の図書館司書養成課程がある。特に国際文化交流学科では教育課程に学校司書の科目（選択科目）を開設しており、受講する学生に対して図書館利用のスキルを高める教育を行っている。

コンピュータ等の授業での活用に関しては、所属ごとにネットワークを分離してその中でのファイルの共有、メールやメーリングリストでの双方向のリアルタイムの情報共有、オフィスソフトの利用、セキュリティ対策の理解、著作権の配慮等を行っている（提出-001）。特に生活学科情報・経営専攻ではスマートフォン・タブレットの利用を義務付けている。また生活学科住居・デザイン専攻では建築用CAD、パース、フォトレタッチ、イラストレーション等のアプリケーションを利用している。生活学科食物栄養専攻では栄養価計算ソフト等を利用している。幼児教育保育学科では「情報科学」が幼稚園教諭二種免許状資格必修科目である。また大学運営においてはグループウェアを活用し、スケジュール管理、備品・会議室等の予約管理を行っている。その他、業務の効率化を図るため、共有フォルダを活用している。さらに、クラウド型の例規集検索システムの活用を行っている。

全学生は有線・無線 LAN を常時利用可能であり、さまざまな情報を随時学生と教職

員間で双方向に提供している。利用にあたってはセキュリティ対策の励行やユーザの管理を厳格に行っている（備付-規程集 015）。

教職員のコンピュータ利用技術の向上には、オペレーティングシステムやセキュリティ対策ソフト等を随時更新したり、障害情報と対策も随時流したりして安心・安全に利用できる環境を提供している。新任教職員採用時や利用システムの大幅な更新時には必要情報を提供し、ICT 委員等が支援を行っている。

**〔区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。〕**

**※当該区分に係る自己点検・評価のための観点**

- (1) 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
- (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
- (3) 学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
- (4) 学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
- (5) 学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。
- (6) 学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
- (7) 学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
- (8) 学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
- (9) 必要に応じて学習成果の獲得に向けて、留学生の受入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。
- (10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方を点検している。

**<区分 基準Ⅱ-B-2 の現状>**

学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に取り組んでいる。

入学前オリエンテーションにおいて入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。平成 30 年度は 1 月 13 日に実施し、入学手続き者の 90% 以上が参加した（備付-062）。

前期オリエンテーションにおいて入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションを行っている。平成 31 年度は 3 日間をかけてオリエンテーションを実施し、学習については主として各学科・専攻の教務委員が説明を行い、学生生活については

学生委員が説明した（備付-057）。

各学期のオリエンテーションにおいて学生の学習意欲が向上するように学習の方法や科目の選択のためのガイダンスを行っている。学生の個別指導は各クラスの担任が主として行っている。1年次後期以降、各学生の単位取得状況を踏まえて卒業や単位取得をめざした説明を行っている。

学習支援のために学生便覧（提出-001）を各年度発行している。学生便覧では、履修の手続き、資格要件、オフィスアワー（備付-063）、図書館利用等を説明している。また、各学科・専攻の学習の手引きのページを設けている。本学ホームページにおいても学生向けのページを作成しており、すべての科目のシラバスを閲覧できるようにしている（備付-064）。ちょこっとノート（備付-065）を全学生に学期ごとに配布して、スケジュール管理やメモとして利用を推進している。

基礎学力が不足する学生に対して各学科・専攻とも、平素より学科会議において学生の学習状況の情報交換を行い、全教員が対応できるようにしている。必要に応じて、授業担当者は空き時間を利用して課題提出等について個別指導を実施している。学生間のピア活動として、幼児教育保育学科ではピアノ学習経験が少ない学生に対して豊富な経験をもつ学生が支援を行うようにしている。本学では再試験制度をとっており、再試験手続き後、科目担当教員が必要と判断する場合には補習の実施や課題を課すこともある。

担任や学生相談室の相談員が学習上の悩み等の相談にのり、適切な指導助言を行っている。本学の担任制は教員1名に対し学生30名程度と比較的少人数であり、学習上の細やかな支援・助言を行う体制を整えている。日常的に各学生の学業の取り組みを把握し、欠席が目立つ学生や学習意欲が見られない学生等には個別に相談にのっている。学生相談室の相談員は、これまで各学科・専攻の教員1名（幼児教育保育学科のみ学生数が多いため2名）、保健室の常勤職員（養護教諭）1名、臨床心理士の非常勤カウンセラー2名で構成していたが、平成29年度後期から学生支援員を加え、特に修学支援について強化して取り組んでいる。平成30年度は学生相談として延べ140件（実相談者数25名）、修学相談として延べ385件（実相談者数27名）の相談があった（備付-066）。

通信による教育を行う学科・専攻課程は存在しない。

進度の速い学生には学生のニーズに応えるようそれぞれの授業内での対応を工夫している。演習系の科目では追加課題を設定する等によりさらなるレベルアップを図っている。国際文化交流学科の語学の専門教育科目においては、習熟度によるクラス編成により授業を行っている場合がある。情報処理や簿記に関する科目では、国家資格等の上位の資格取得を単位認定することを定めている。成績が特に優秀な学生に対して2年次の各学期に本学の同窓会（白鳥会）から「とりたん同窓会奨励金」（図書カード）が授与されている（備付-規程集016）。この奨励金は成績評価等から各学科・専攻より選出されている。

留学生の受入れについてはすべての学科・専攻で可能である（提出-018、019）。平成30年度は2名の留学生が在籍していた。留学生が4月入学の場合は2年間、10月入学

では2年半で卒業をめざすように指導を行っている。留学生の派遣については、夏と春の年間2回の海外研修を国際交流委員会（備付-067）の主催で企画して実施している。平成30年度は夏季（5日間香港）、春季（11日間ニュージーランド）を実施した。長期の留学についての実績はない。

全学および各学科・専攻の学習成果の獲得状況は年度ごとに量的・質的データに基づいて分析され、この結果に基づいて当該年度の学習支援方策の課題を点検し、次年度の方策を決定している。これらの点検結果は年度末に学習成果部会の報告書（提出-014）としてまとめている。また、次年度の学習成果の獲得に向けた方策については例年5月に自己点検・評価運営委員会に報告している。

**[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的にしている。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
- (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
- (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
- (4) 宿舍が必要な学生に支援（学生寮、宿舍のあっせん等）を行っている。
- (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
- (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
- (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
- (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
- (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
- (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
- (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
- (12) 長期履修生を受入れる体制を整えている。
- (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

**<区分 基準Ⅱ-B-3の現状>**

学生の支援は、直接的には担任が学科・専攻内、教務課、学生課、キャリア支援部等と連携をとりながら行うが、組織的には学生支援全般を学生委員会が担当し、学生課と一体となって支援する体制をとっている。

サークル活動や体育祭、大学祭等の学友会（備付-規程集 017）の活動に対しては、教職員が助言を与えることで学生が主体的に活動できるような支援体制をとっている。

学生が憩い、ミーティングにも活用できる学生会館やホール・とりたんプラザ・学生食堂・売店等のキャンパス・アメニティは学生生活の質の向上をめざし、学生からの意見も取り入れながら充実させてきた（提出-005、006）。

遠隔地からの学生に対しては、スクールバス発着場近くに女子の学生寮（シグナス寮）を設置しており、寮運営委員会（備付-規程集 018）の助言・指導の下、両大学教職員から選出された寮長とドミトリ・アテンダントによって管理運営している（備付-規程集 019）。また希望する学生には学生課が、大学近隣のシェアハウス（男子学生のみ）、アパート、マンション等の斡旋も担当している（提出-001）。

通学の利便性のために、スクールバスによる JR 倉吉駅からの往復輸送を行っている。自家用車で通学する学生のためには 120 台を収容する学生駐車場および、20 台を収容する駐輪場を構内に完備している（備付-規程集 020、021）。

経済的な支援には、公的な奨学金制度に加え本学独自の各種奨学金制度を設けている。本学独自の奨学金制度として、給付型の「とりたん特待生奨学金」、「とりたん社会人奨学金」、「中部ふるさと奨学金」、「とりたん奨学金」、「とりたん後援会奨学金」、入学金免除型の「とりたんファミリー支援」、「とりたん同窓会支援」を設け、学生の経済的支援を行っている（提出-018、019）。

「身体」の健康管理・指導については主に保健室が、「こころ」の問題に対しては、担任、保健室、学生相談室が対応している（備付-規程集 022、備付-068、066）。希望や必要に応じ臨床心理士によるカウンセリングを受けることができる。

本学はこれまでに個人面接やアンケート、リーダーズ研修会、オフィスアワー等を活用し、学生の意見や要望をくみ取り、改善を重ねてきた（備付-069）。

留学生に対しては「日本語 A」、「日本語 B」科目を開講し（提出-010）、各種の減免制度や奨学金制度を準備している（提出-018、019）。また国際交流委員会を組織し留学生の支援を行っている（備付-規程集 023）。

社会人学生に対しては、社会人奨学金制度や単位の読み替え、長期履修の実施、専門実践教育訓練給付制度等によって支援をしている（備付-規程集 024、提出-018、019）。

障がい者の受け入れにあたっては、エレベーターや障がい者用トイレ、スロープの設置等により車椅子での受講や生活ができる施設を整備し（提出-001）、特別な教育的ニーズを持つ学生については、入学前から支援会議と特別支援教育委員会によって、必要な支援策を協議する体制を整えている（備付-規程集 025、備付-規程集 026）。

社会人学生については、4 年を限度として標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができるように体制を整えている（備付-規程集 027）。

学生の社会的活動については、グローバルセンターを中心に PR したり、説明したりすることで奨励し、より多くの学生が参加しやすくなるように支援している。また「鳥取短期大学地域貢献賞」や「とりたん同窓会奨励金」を設け学生の活動を評価している（備付-規程集 028、029）。

**[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
- (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
- (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
- (4) 学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
- (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

**<区分 基準Ⅱ-B-4 の現状>**

平成 27 年 4 月には、鳥取看護大学が設立され、キャリア支援部は、両大学の学生を支援する役割を担っている。現在は、スタッフとして鳥取看護大学担当である部長（鳥取看護大学教員）および鳥取短期大学担当の部長（鳥取短期大学教員）、課長、主任 2 名、職員 2 名で構成している。キャリア支援部は、キャリア支援委員会（備付-規程集 030）と連携して活動している。また、キャリア支援部と各学科・専攻のキャリア支援委員、担任との間で、進路活動に関して連絡会を開催し、情報共有している。キャリア支援委員会は、「キャリア支援委員会規程」にあるように各学科・専攻から 1 名以上の教員とキャリア支援課職員とで構成している。月に 1 度の委員会と、年 2 回（1 年生 1 回、2 年生 1 回）の担任連絡会を開催している。全学共通の業務はキャリア支援部が行い、学科・専攻の教育と連動する指導は各学科・専攻が、それぞれ主として指導している。各学科・専攻とも、キャリア支援委員と担任が連携しながら、学年単位で全学生を対象に行うキャリアガイダンスと学科別キャリアガイダンスや、学生・保護者・担任による進路三者懇談会（1 年次の 2 月中旬～3 月上旬実施）、担任による個々の学生に対する指導等、さまざまな進路指導を行っている。平成 29 年度からは 1 年生を対象とした就職合宿を実施している。これらの進路支援の活動は、学科会議で定期的に情報交換を行ったり、学生の進路活動をデータベース化したりして、各学科・専攻内で情報を共有している。

専用のキャリア支援室（A102）を完備して学生たちにいつでも対応できるような体制をとっている。求人情報の提供、全学生との個別面談、面接指導、履歴書等の書き方指導、各地でのフェア等参加指導、公務員模試の実施、インターンシップ特別科目の開設、公認欠席取扱い、就職受験報告書の管理、企業等への訪問、学生への連絡等を行っている。

就職に向かう以前の社会人マナーの習得や職業観の醸成を目的に、平成 27 年度から新規科目として「インターンシップ A」と「インターンシップ B」を開講している。平成 28 年度には、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）と連動し、「キャリアデザイン入門」を全学共通の教養科目に位置付けた。キャリアガイダンスを学生が在籍する 2 年間で定期的に開催し、学生に対するタイムリーな進路支援を行ってい

る。1年次では履歴書の書き方、求人情報の入手方法、就職フェア等の事前指導等である。加えて、1年生全員を対象に「キャリアステップ」を実施し、この結果を学生指導およびキャリア支援に活用している。2年次では学科別キャリアガイダンス、外部講師による指導、未内定者向けガイダンス等である。また、公務員模擬試験を年1回実施している。資格取得指導に関しては、各学科・専攻でその教育課程に基づき指導しているが、キャリア支援課では学生の資格取得状況を把握しながら対応している。全学的、あるいは学科・専攻に共通の取り組みとしては、1年次前期に全学生に配布する冊子「キャリアガイドブック」(備付-058~060)を活用して、学科・専攻ごとの業種別・職種別の決定者数、学科・専攻ごとの求人・内定の月別件数等から活動時期や職種等の助言をしている。

また、就職試験を受験した学生による受験報告書をデータベース化し、後輩の履歴書やエントリーシートの志望動機や自己PR文の指導に役立てている。さらに、就職先への訪問等を通して、各学科・専攻の卒業生の仕事ぶりについて生の声を聞き、後輩への指導に役立てている。これらの卒業生の就職状況の情報は、進路三者懇談会やキャリアガイダンスにおける進路支援の資料として活用している。

進学・留学に対しては、編入学パンフレットを作成し、活用している。4年制大学の編入学試験の資料を入手し、受験者の報告書を作成、編入指定校の情報を一覧表にする等して情報提供に努めている。本学専攻科への進学は本人の適性を考慮した受験指導を行うほか、本学出身者への学費面での優遇制度等を説明している。各学科・専攻とも、進学・留学希望者に対しては、キャリア支援部と連携しつつ、担任や「特別研究」担当教員が中心となって、個人ごとに筆記試験・小論文・面接対策等の支援を行っている。なお、国際文化交流学科については、卒業後に海外に留学したケースがある。

#### <テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の課題>

卒業時における就職状況等の情報共有・分析等を行っているものの、その後の継続・定着状況等を組織的に把握する仕組みが不十分である。

#### <テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の特記事項>

授業内容や効果的な授業方法等について、授業担当者間で検討・協議を行うとともに、FD研修会、授業公開・見学等を通して授業・教育方法の改善に努めている(備付-070)。事務職員も授業見学をすることで教育内容の理解と学生の様子の把握に努めている。

#### <基準Ⅱ 教育課程と学生支援の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証(第三者)評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計画の実行状況

(1) 3つの方針について

ディプロマ・ポリシーについては、ホームページに掲載し(提出-004)、広く学外に

表明する努力を続けている。また、学科会議等を通じて見直しており、平成 29 年度には国際文化交流学科のディプロマ・ポリシーを一部修正した。

カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーについては、各学科・専攻においてそれぞれ点検・評価を進めている。ディプロマ・ポリシーを達成できるように、専門教育科目の編成を毎年度行っており、平成 30 年度にはカリキュラムツリーの改定を通じて、専門教育科目の関連性を見直し、科目の統廃合を含めた検討を行った（提出-012）。

#### (2) 学習成果の査定について

学習成果の測定について、複数の指標を用いて総合的な理解を進めている。また、経年ごとのデータの積み上げを行ってきた。学科・専攻ごとの学習成果や査定のための分析方法や測定結果について学習成果部会等の全学的な会議において統合的に検討を進めた（備付-019）。

#### (3) 学習支援、生活支援について

学生への個別的な対応を充実させるため、各専任教員が週一回は学生と面談できるようオフィスアワーの制度を平成 26 年度に設け、曜日・時間を学期ごとに周知している（備付-063）。

学生への心理的支援については、非常勤の臨床心理士と定期的に相談できるようにしており、カウンセリングルームを用意している。主に学習に関わる学生支援員の配置も進めてきた（備付-066、068）。

女子学生寮（シグナス寮）は平成 27 年度に現在の場所に移転し、希望者全員に部屋を提供できるようになった（備付-071）。

#### (4) 進路支援について

進路支援の組織・活動として、学科・専攻とキャリア支援部で連携をとりながら進路支援を行っており、学科別ケース会議（備付-072）を開催し、相互の情報共有を図りながら学生のキャリア支援を行っている。

#### (5) 入学者の受け入れについて

入試事務については、正確を期した対応を実現するため、入試広報部にて業務工程のマニュアル（備付-051）を作成し、それに従った運用をしている。今後も継続的にマニュアルを更新して運用していく予定である。また入学前ガイダンスについては、推薦選考および A03 次までの入学手続き者を対象として 1 月に実施しているほか、平成 30 年度からは 1 月以降の試験選考および A0 方式選考の入学手続き者に対しても入学後の学びに関する情報提供、および入学前の課題を課すようにしている（備付-062）。

### (b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

#### (1) 学習成果の達成に向けた授業改善について

授業改善に向けて、本学では授業公開、ティーチング・ポートフォリオ、ティーチング・アワード等の制度を整備してきた。今後はこれらの制度の効果を点検しつつ、こうした取り組みによってさらに授業改善を進めていく（備付-070、055、備付-規程集 031）。

#### (2) 学生支援について

退学する学生は入学直後の1年前期に多い傾向が認められる。このため、入学前ガイダンスにおいて入学予定者の様子をチェックし、入学直後の前期オリエンテーション時には、クラス担任だけではなく学科専任教員全員で、学生の状況把握に努めていく。さらに、得られた情報を学科内で共有し、学生支援室、学生相談室等と連携を取りながら支援体制を強化していく。

#### (3) 進路支援について

キャリア教育に関わる教育課程については、それぞれの科目の役割を見直し、より一貫した支援ができるように、カリキュラム検討会等で教養科目と専門教育科目の編成等について検討を進める（備付-045）。また、進路支援の充実に向けて、各学科・専攻とキャリア支援部によるキャリア支援体制をより強化できるよう、支援方法についてキャリア支援委員会およびFD・SD研修会等で検討していく。

#### (4) 教員の業務分担について

募集広報に関わる業務については、効率化を図り負荷を減少させるため、教員の高校訪問回数的大幅な削減、進学説明会の改革を実施してきた。一方、負荷の均等化については、役割分担を明確にすることで対応している（備付-051）。しかし、業務の性質上、完全なる均等化は困難であるため、継続的な課題となっている。

様 式 7

基準Ⅲ

教育資源と財的資源

## 【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

## [テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

## &lt;根拠資料&gt;

## 提出資料

- 001 平成 30(2018)年度学生便覧
- 007 学校法人藤田学院ガイドブック
- 020 鳥取短期大学自己点検・評価規程

## 備付資料

- 003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
  - 042 教員一覧
  - 044 研究・教育活動計画書
  - 070 FD 活動実績
  - 073 非常勤教員一覧表[様式 21]
  - 074 ホームページ「教育情報の公開」  
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878>
  - 075 教員個人調書[様式 19]
  - 076 資格審査委員会議事録
  - 077 研究・教育活動報告書
  - 078 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理教育委員会活動記録
  - 079 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要第 73～78 号
  - 080 専門業務型裁量労働制に関する協定書
  - 081 FD 委員会議事録
  - 082 SD 活動実績
  - 083 とりたん食材まるごと活用プロジェクト資料一式
  - 084 学校法人藤田学院事務組織図
  - 085 自己啓発支援制度の創設について
  - 086 勤怠ワークフロー操作マニュアル（教員・職員）
- 備付-規程集
- 006 鳥取短期大学教員資格審査規程
  - 007 鳥取短期大学教員資格審査規程細則
  - 008 鳥取短期大学教員資格審査基準
  - 015 学校法人藤田学院における情報セキュリティポリシー
  - 031 鳥取短期大学ティーチング・アワード表彰に関する規程
  - 032 鳥取短期大学科学研究費助成事業事務取扱規程
  - 033 鳥取短期大学研究活動の不正行為への対応等に関する規程
  - 034 鳥取短期大学における研究費不正使用の通報及び調査に関する規程

- 035 鳥取短期大学個人研究費事務取扱規程
- 036 鳥取短期大学研究費管理規程
- 037 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理規程
- 038 鳥取短期大学内外研究員規程
- 039 鳥取短期大学受託研究・調査取扱規程
- 040 鳥取看護大学・鳥取短期大学就業規則
- 041 鳥取短期大学 FD 委員会規程
- 042 鳥取看護大学・鳥取短期大学 SD 委員会規程
- 043 学校法人藤田学院人事考課要領
- 044 学校法人藤田学院稟議規程
- 045 学校法人藤田学院稟議手続細則
- 046 学校法人藤田学院特定個人情報取扱規程
- 047 学校法人藤田学院内部監査実施細則
- 048 鳥取看護大学・鳥取短期大学非常勤講師就業規則
- 049 学校法人藤田学院育児・介護休業等に関する規程

[区分 基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学及び学科・専攻課程の教員組織を編制している。
- (2) 短期大学及び学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。
- (3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足しており、それを公表している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員（兼任・兼担）を配置している。
- (5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を遵守している。
- (6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。
- (7) 教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。

#### <区分 基準Ⅲ-A-1 の現状>

本学は国際文化交流学科、生活学科の情報・経営専攻、住居・デザイン専攻、食物栄養専攻および幼児教育保育学科の3学科3専攻からなっており、それぞれの学科・専攻課程の教員組織を編成している。また、教養科目と専門教育科目には非常勤講師を採用している（備付-042、073）。

各学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定められた必要な教員数を次のように充足している（備付-042）。国際文化交流学科は5名のところ6名、生活学科情

報・経営専攻、生活学科住居・デザイン専攻および生活学科食物栄養専攻ではそれぞれ4名のところ6名、5名、6名を配置し、幼児教育保育学科では10名のところ15名である。

教員の採用および昇任にあたっては「教員資格審査規程」および「教員資格審査規程細則」に基づいて審査している（備付-規程集 006～008）。この規程は短期大学設置基準の規定を充足している。また、すべての専任教員の職位は、本学ホームページ、法人ガイドにおいて公表している（備付-074、提出-007）。

専任教員と非常勤教員（本学では非常勤講師）の配置については、本学のカリキュラム・ポリシーに基づき、学生の幅広い視野と専門的実践力の育成、および地域と連携した教育方法を大切に考え、教員の専門性と科目に関する研究業績を重視した担当としている（備付-075）。それぞれの学科・専攻課程については以下の通りである。

### **国際文化交流学科**

専任教員は6名、非常勤講師は15名である。専門教育科目は交流、文化、言語を主軸分野とし、ビジネス実務やプレゼンテーションの能力育成にも力を入れるほか、平成30年度入学生より学校司書のカリキュラムを開設している。学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、各分野を専門とする教員を配置し、授業を担当している。また国際文化交流という学際的分野の学びを深めるため、専任教員の専門分野を活かして複数担当者による授業も展開している。さらに、主軸分野の教育の充実を図るため、および実務経験者による教育を行うために、非常勤講師を招いている。

### **生活学科 情報・経営専攻**

専任教員は6名、非常勤講師は5名である。専門教育課程は情報系の分野とビジネス系の分野に区分され、専任教員は、カリキュラム・ポリシーに基づいて、双方の分野にそれぞれ3名バランスよく配置している。また専任教員は全員が必修科目を担当し、それぞれが専門分野の主な授業を担当している。授業の多くを専任教員が開講しているが、特定の専門性が求められる授業や実務経験が必要とされる授業においては、学外から非常勤講師・特別講師を招き補っている。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

専任教員は5名および助手1名である。専門分野の住居とデザインのそれぞれの領域において授業を主担当する2名の専任教員を配置しており、両領域に重なる基礎分野で専任教員が1名いるほか、助手が1名所属している。これらの専任教員が多くの授業を担当しているが、授業の領域が広範囲であるため、より専門性の高い科目を担当できるよう、非常勤講師として、住居分野7名、デザイン分野9名、基礎分野1名をそれぞれ配置している。

### **生活学科 食物栄養専攻**

専任教員は6名および助手3名である。栄養士法施行規則、栄養士養成施設指導要領に基づいた、教育実績、研究業績を有する専任教員を十分な人数配置している。栄養士資格関連の非常勤講師は10名である。その他の栄養教諭、フードスペシャリスト、医療秘書実務士関連は合計6名の非常勤講師を配置している。また、非常勤講師についても、担当する授業が法令に基づく正規の授業である場合には、施行規則および指

導要領に定める資格を具備していることを審査した上で依頼している。

### 幼児教育保育学科

専任教員は15名である。幼稚園教諭二種免許状においては教職課程認定基準、指定保育士養成施設指定および運営基準に基づいた専任教員数を配置している。さらに、専門性を重視して、学外から招聘している非常勤講師は2名であり、その他にピアノレッスンを担当する講師が7名（非常勤）いる。

非常勤教員の採用は本学の教員資格審査委員会（備付-076）において審査されており、その審査は短期大学設置基準の規定を遵守している。

補助教員という職位は本学では置いていないが、実技・実習・演習系の科目を多く開講する学科・専攻については、担当教員の指導を補助し、教育効果を確実なものにするために、助手を配置している（備付-042）。生活学科住居・デザイン専攻では、専任の助手1名が個別指導の必要となる演習授業で担当教員の補助の役割を務めている。また、授業準備への援助が必要となる科目では助手が補助している。生活学科食物栄養専攻では、実験、実習等の授業において、栄養士法施行規則に基づき、その担当する教育内容に関する科目を修めて卒業した専任の助手3名（規則では2名以上が管理栄養士となっているが本学は3名とも管理栄養士）が授業補助にあたっている。幼児教育保育学科では、専任の教務職員1名が、「保育実習Ⅰ-1」、「保育実習Ⅰ-2」、「保育実習Ⅱ」、「保育実習Ⅲ」および「教育実習Ⅱ」の学外実習のための事務業務を担当している。国際文化交流学科および生活学科情報・経営専攻については助手を配置していない。

教員の採用、昇任は本学の「就業規則」、および選考に関する規程に基づいて行っている。この審査は教員資格審査委員会および教授会において行っている（備付-規程集006～008）。

**[区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]**

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。
- (2) 専任教員個々人の研究活動の状況を公開している。
- (3) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。
- (4) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。
- (5) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。
- (6) 専任教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。
- (7) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。
- (8) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
- (9) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。

- (10) FD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。
- ① 教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。
- (11) 専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。

### <区分 基準Ⅲ-A-2の現状>

専任教員の研究活動については、毎年5月に年間の研究予定を「研究・教育活動計画書」(備付-044)に記載し、実施した研究活動については、前年11月からの1年間分を10月に「研究・教育活動報告書」(備付-077)にまとめ、学科長を経由して学長へ提出することを義務づけている。これによって、各教員の研究活動に対する意識を高め、学科長および学長は年度単位で各教員の研究活動状況を把握できるようにしている。各学科・専攻の教員がカリキュラム・ポリシーに基づいて担当科目に関する研究を中心に成果をあげていることを学科長会で協議している。

専任教員の研究活動の状況について、学術委員会が毎年度のデータを収集、更新を行っている。このデータに基づいて、各教員の所属学科・専攻、職名、学位、担当授業科目、専門分野、現在の研究テーマ、主な研究業績、所属学会、主な社会活動を本学ホームページの「教育情報の公開」において公開している(備付-074)。

専任教員が科学研究費補助金や外部研究費等を獲得できるように、事務局から各教員に団体等からの募集の情報を送付している(備付-規程集032)。科学研究費補助金については教務課および総務課の職員が研修会に参加し、最新の応募情報を各教員に連絡している。平成29年度に7名、平成30年度に2名の専任教員が科学研究費補助金を受けている。また、1名の専任教員は外部研究費である鳥取県環境学術研究等振興事業費を獲得している。私立大学等改革総合支援事業タイプ5「とっとりプラットフォーム5+α」の共同研究に採択された3名の専任教員が、他連携大学の教員とともに助成金を獲得している。

研究活動が適切になされるよう、研究活動上の不正防止とその対処のために「研究活動の不正行為への対応等に関する規程」(備付-規程集033)、「研究費不正使用の通報及び調査に関する規程」(備付-規程集034)がある。研究費の適正な利用について「個人研究費事務取扱規程」(備付-規程集035)、「研究費管理規程」(備付-規程集036)を整備している。人権尊重や倫理的責任が遵守されるように「研究倫理規程」(備付-規程集037)がある。その他に「内外研究員規程」(備付-規程集038)、「受託研究・調査取扱規程」(備付-規程集039)を有し、教員の研究活動に関する規程を整えている。

研究倫理を理解し、研究活動における不正行為を防止するため、すべての専任教員を対象に鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理教育委員会が主催する研究倫理教育の会を年1回行っている。その受講者には「研究倫理教育受講証明書」を発行している(備付-078)。

研究成果を発表できるように学術委員会が編集を行う「鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要」(備付-079)を年2回発行している。また、研究成果を口頭で発表できる学術談話会を年数回実施している。

専任教員が研究を行えるようにすべての教授、准教授、助教の研究室は個室である。研究室の配置はA・C・D館に分かれており、学生便覧（提出-001）等の配置図に記載している。

専任教員の研究、研修等を行う時間を確保するため、授業や学内委員会の負担が過大にならないよう各教員の担当を各学科・専攻内で調整している。また、研究室は常に利用可能であり研究活動に利用することができる。研究を行う時間を確保するため、専任教員の服務に関しては、「就業規則」（備付-例規集 040）の第7条に基づき、平成25年度から「専門業務型裁量労働制」を適用し、毎年労使間で締結される「専門業務型裁量労働制に関する協定書」（備付-080）の中で適用対象者の裁量に研究時間の確保を委ねている。

「内外研究員規程」（備付-規程集 038）において、研究期間を3か月以内とする短期在外研究員と6か月以上になる場合の長期在外研究員を定めている。国際会議出席に関する規定はない。

FD委員会（備付-規程集 041）によって年間活動目標、活動計画が立案され（備付-081）、全教員が授業を公開し、見学コメントを参考に授業内容・方法の改善を行うとともに、FD研修会（備付-070）に参加してその成果を教育に活用している。主な研修テーマは「授業改善」「特別支援教育」「学生支援」等である。また、SD委員会（備付-規程集 042）と協働してFD研修会、SD研修会（備付-082）に教職員が参加することにより、その研修成果を教育の質の向上、学生支援の質の向上、日常業務の改善に役立てている。なお、平成29年度までは、自己点検・評価運営委員会内のFD・SD部会がこの任に当たってきた。

専任教員は学習成果の獲得が向上するよう以下のように学内の関係部署と連携している。各学科・専攻とも教育課程の見直しやシラバスの作成、学生による授業評価アンケートの実施、教室変更や用具の手配、日常の授業の段取り等で教務課と連携を図っている。学期ごとに授業評価アンケートにおいて高い評価を得た授業を表彰する制度（ティーチング・アワード賞（備付-規程集 031））を設けており、学科を超えて授業力の向上を進めている。授業評価アンケートの集計・分析については、教務課と連携し、各学科の特徴や課題を見つけ出し、学習成果向上のための検討を行っている。また、授業環境の向上のため、各学科で使用する実習・演習教室の整備、教育用備品、設備の導入・更新を総務課と連携して行っている。このほかにも、それぞれの学科・専攻では鳥取看護大学や次の部署と連携して学習成果の向上に努めている。

### **国際文化交流学科**

全学共通の図書館司書科目のほか、学科独自に学校司書の科目を開講しており、その授業では附属図書館を活用した教育を展開している。また、グローバルセンターや生活学科食物栄養専攻と連携し、毎年開催される「くらし国際交流フェスティバル」に参画している。

### **生活学科 情報・経営専攻**

情報処理室の環境整備、機器の導入・更新等で、総務課との連携を図ることが多い。

### **生活学科 住居・デザイン専攻**

設計実習室やデザイン演習室の整備のため総務課との連携が多い。また、グローバルセンターと連携して地元企業である株式会社サンセキとの墓石デザイン制作に関する協定を平成29年度に締結した（備付-003）。

### 生活学科 食物栄養専攻

他学科・専攻の教員や附属こども園と連携して研究活動を進めている。郷土料理の研究では、地域研究を行っている国際文化交流学科の教員との連携がある。平成30年1月より、「とりたん食材まるごと活用プロジェクト」（備付-083）を始動し、全学科・専攻との連携により研究を推進している。また、附属こども園と食育に関する連携をスタートし、栄養教諭免許状取得予定の学生と園児と一緒にさつまいもの苗植え、収穫、おやつ作りを行っている。

### 幼児教育保育学科

附属こども園との連携がもっとも多い。1年生全員が「教育実習Ⅰ」を、2年生の一部が「教育実習Ⅱ」を履修して、実習をしている。また、有志の学生は日々の預かり保育や長期休業中の登園児のための保育の補助、ボランティア等を行っている。さらに、後期の終了時に2年生が全園児に向けて特別研究の演技を披露している。日常的な園児との関わりを通して、保育者としての意識や知識が深まるよう配慮している。教員は、保育教諭に対する研究指導や定期的な園児への指導、課外活動の講師等によって連携を図っている。

[区分 基準Ⅲ-A-3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。]

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 事務組織の責任体制が明確である。
- (2) 事務職員は、事務をつかさどる専門的な職能を有している。
- (3) 事務職員の能力や適性を十分に発揮できる環境を整えている。
- (4) 事務関係諸規程を整備している。
- (5) 事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。
- (6) 防災対策、情報セキュリティ対策を講じている。
- (7) SD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。
  - ① 事務職員（専門的職員等を含む）は、SD活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。
- (8) 日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、改善している。
- (9) 事務職員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう教員や関係部署と連携している。

### <区分 基準Ⅲ-A-3の現状>

事務組織には、4部（総務部、教務部、入試広報部、キャリア支援部）のほか、付属機関として3つの機関（附属図書館、グローバルセンター、絆研究室・絆美術館）がある（備付-084）。それぞれの部と付属機関には部長、館長、センター長を配置している。

それぞれ業務分担表を作成し、責任体制を明確にして業務を遂行している。また、鳥取看護大学にも事務室を配置し、法人本部事務局（経理部、企画部）を置いて、両大学と附属こども園の事務を統括する体制を整えている。人材の配置という点では、事務局長と総務部長および経理部長は専任の事務職員で、入試広報部長、教務部長、キャリア支援部長は教員組織との連携を考慮し教員が併任をしている。

事務職員は、学内外の専門性を高める研修制度を積極的に多くの者が利用して能力の向上に努めている。在任中は階層別・職能別の研修制度を利用したり、採用時には関連分野の実務経験者を積極的に採用したりしている。

また、人材育成という点では、平成 28 年度から「人事考課制度」（備付-規程集 043）を導入し、事務職員の適性や能力を把握し人材育成につなげる仕組みを整えている。関連資料として「目標管理シート兼自己申告書」（備付-規程集 043）を利用し、配属先の希望も聴取するようにしている。その他、平成 29 年度から通信講座の受講支援や資格取得報奨金の支給といった自己啓発支援制度（備付-085）も導入している。

事務関係諸規程の整備という点では、総務、経理、教務、入試等所属部署にかかる基本規程を例規集に定めているほか、各部署において業務マニュアルを作成し、引継ぎや日常業務の参考としている。また、平成 28 年に「稟議規程」および「稟議手続細則」を改定し、別表「主要職務権限表」を制定し、事務の種類ごとの決裁権限者を明確にした（備付-規程集 044、045）。

事務機器等については、事務職員全員に 1 人 1 台のパソコンを設置しているほか、事務室内の主要エリアにプリンタを複数台配置し効率的な事務処理ができる体制を整えている。また、キャビネット等の備品も備わっている。

防災対策の面では、鳥取看護大学と鳥取短期大学の合同による避難訓練を毎年実施しており、平成 28 年 10 月 21 日に発生した鳥取県中部地震で人的被害がなかったことも避難訓練の成果と考えている。また、女子学生寮（シグナス寮）についても中部消防の協力を得て、火災や地震を想定した避難訓練を定期的に行っている。情報セキュリティ対策として、「情報セキュリティポリシー」（備付-規程集 015）に基づき、パスワード設定や共有情報の制限、ウイルス対策等を行っている。また、マイナンバーの導入に対応し、平成 27 年度に「特定個人情報取扱規程」（備付-規程集 046）を制定し、特定個人情報を隔離パソコンで厳正に管理・運用している。

平成 29 年度まで、「自己点検・評価規程」（提出-020）に定める FD・SD 部会の活動として SD 活動を実施し職務能力の向上に努めてきたが、活動をより明確にするため平成 30 年 4 月 1 日付けで「SD 委員会規程」（備付-規程集 042）を新たに制定した。SD 研修会（備付-082）では、これまで「リスク管理」「仕事の取り組み方とコミュニケーション」「財務諸表の見方」「防災」「マナー」「社会人基礎力としての法律知識」「働き方改革」等のテーマを取り上げ、FD・SD 合同での研修会（備付-070、082）も開催し、「学習成果」「キャリア教育」「学生支援」「SD の義務化」等を議論している。また、FD 研修会に参加することにより高等教育機関の職員としての知識をさらに深め、教育研究活動等の支援に活かしている。

日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行う仕組みとしては、平成 23 年 9

月に「内部監査実施細則」(備付-規程集 047)を制定し、事務職員による所属部署を超えた内部相互監査を年 1 回実施している。これは、事務処理の点検・評価を行い事務ミスの未然防止と業務の見直しにつなげるほか、他部署の業務理解による職員の能力向上を目的としている。この内部監査と公認会計士監査、監事監査の三様監査の連携を図り、法人のガバナンス向上に努めている。また電話対応マニュアル、対面対応マニュアルを作成して、日常的に求められる知識・技能およびマナーの向上に努めている。さらに平成 29 年度より 3 年計画でワークライフバランスをテーマに働き方改革の取り組みを開始、業務改善提案制度等の成果を通してより良い学生支援に活用しようとしている。

学習成果にかかる事務職員の関わりとしては、事務職員も年に 2 回実施される授業公開・見学に参加し、本学の教育内容・方法等の実際を学ぶとともに、学生の様子を理解することによって、より適切な学生支援ができるよう心がけている。また、教員(担任)と学生課、教務課との連携による学習支援(出席および授業態度、単位取得の状況の情報交換等)や、教務課とキャリア支援課との連携による進路支援(資格取得状況や卒業見込みの状況に関する情報交換等)といった学生の学習成果の獲得向上に努めている。

**[区分 基準Ⅲ-A-4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教職員の就業に関する諸規程を整備している。
- (2) 教職員の就業に関する諸規程を教職員に周知している。
- (3) 教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。

#### <区分 基準Ⅲ-A-4 の現状>

「就業規則」(備付-規程集 040)、定年年齢の引き上げや非常勤講師(有期雇用契約)の無期労働契約転換(備付-規程集 048)、育児休業期間の延長(備付-規程集 049)等に対応して、関連規程の整備をしている。

就業に関する諸規程は「学校法人藤田学院例規集」に掲載され、教職員はいつでもクラウド型の例規集検索システムで閲覧することができるようになっている。また、就業に関する諸規程の改定があれば、教授会で教員に周知しているほか、事務職員については部課長会で説明後、部署ごとに課員への報告を行うことで全員に周知している。また、クラウド型のグループウェア導入による「就業規則」の理解促進や手続きの簡素化を検討している。

平成 28 年度から、クラウド型の勤怠管理システム(備付-086)を導入し、出退勤管理や出張管理、時間外管理等について毎月全員の状態を確認し、適正な指導管理につなげている。

#### <テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の課題>

平成 27 年度の鳥取看護大学開学に伴い事務量が大幅に増加した。事務職員数の確保はできたが、中間管理職の養成・確保が課題となっている。

事務職員が学習成果の獲得向上に組織的に取り組むためには、組織横断的な情報共有が重要となるが、現在の教務システムは情報が部署ごとに独立しており、学生番号ごとに入学から卒業まで各種の情報を関連付けた管理・活用が不十分な点が課題である。令和 2 年度に新システムへの移行を予定している。

#### <テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の特記事項>

総務部所管データの一元管理とペーパーレス化を推進することで、記入・回覧等の作業を軽減でき、教職員を本来業務に専念できるようにしている（備付-086）。

#### [テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]

##### <根拠資料>

##### 備付資料

- 003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
- 087 学内配置図・平面図
- 088 鳥取県大学図書館等協議会会則
- 089 H30 ネットワーク構成図
- 090 倉吉商工会議所だより 平成 29 年 3 月号
- 091 新聞記事（鳥取中部地震発生に伴う倉吉市への給食管理実習棟無料貸し出し関連）
- 092 新聞記事（鳥根大学教職大学院「サテライト教室」開設関連）

##### 備付-規程集

- 014 鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館委員会規程
- 015 学校法人藤田学院における情報セキュリティポリシー
- 050 鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館資料収集・管理規程
- 051 鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館除籍細則
- 052 学校法人藤田学院経理規程
- 053 鳥取短期大学の研究費における物品等の調達に関する内規
- 054 鳥取看護大学・鳥取短期大学防災・消防計画
- 055 学校法人藤田学院における危機管理に関する規程

[区分 基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。
- (2) 適切な面積の運動場を有している。
- (3) 校舎の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。

- (4) 校地と校舎は障がい者に対応している。
- (5) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。
- (6) 通信による教育を行う学科・専攻課程を開設している場合には、添削等による指導、印刷教材等の保管・発送のための施設が整備されている。
- (7) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。
- (8) 適切な面積の図書館又は学習資源センター等を有している。
- (9) 図書館又は学習資源センター等の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数及び座席数等が適切である。
  - ① 購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。
  - ② 図書館又は学習資源センター等に参考図書、関連図書を整備している。
- (10) 適切な面積の体育館を有している。

#### <区分 基準Ⅲ-B-1 の現状>

鳥取看護大学校舎用地面積および附属こども園用地面積を除く校地の面積は 64,639.52 m<sup>2</sup>で、短期大学設置基準の規定（学生 1 人当たり 10 m<sup>2</sup>×600 人）を充足しており適正である（備付-087）。

運動場の面積は 17,125 m<sup>2</sup>で、教育研究活動に支障のない広さを有している（備付-087）。

短期大学の校舎（看護大学棟、体育館、寮、付属施設を除く）の面積は 12,880.15 m<sup>2</sup>で、短期大学設置基準の規定（8,950 m<sup>2</sup>）を充足している（備付-087）。

A 館および B・C・D 館の各校舎にはエレベーターを設置しているほか、階段用の手すり、障がい者専用のトイレおよび専用駐車場を整備している。また、各校舎へ移動する際のスロープや点字ブロックを部分的に設置している（備付-087）。

学科・専攻課程のカリキュラム・ポリシーに基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を十分確保している（備付-087）。平成 27 年度の文部科学省教職課程認定大学等実地視察でも厳正に確認された。

通信による教育を行う学科・専攻課程は開設していない。

また、授業を行うための機器・備品等も整備しており、機器・備品等の保守、修繕についても計画的に実施している。このほか学科・専攻ごとに毎年度特別研究備品を購入する予算措置を行っており、必要な機器・備品の整備に充てている。

付属図書館本館の延べ床面積は 950 m<sup>2</sup>あり、書架の間隔や閲覧機の配置は、車いすでの移動が可能ないように十分なスペースを確保している。また、座席数は 1 階 42 席、2 階 75 席、計 117 席あり、そのうち 2 階には個人スペースを 6 席設ける等、学生の利便性に配慮されるよう、施設設備を整えている（備付-087）。また、鳥取看護大学内に設置した付属図書館別館（延べ床面積 342 m<sup>2</sup>）も利用できるようにしている。

蔵書数は 76,113 冊（うち外国書 7,377 冊）（H31.3.31 時点）。学術雑誌 78 種類（うち 1 種類は外国書）（H31.3.31 時点）。視聴覚資料 980 点（H31.3.31 時点）を揃えてい

る。加えて、鳥取県立図書館および倉吉市立図書館と図書館利用の相互協力に関する協定（備付-003）を結び、学生の利用に供している。また、鳥取県大学図書館等協議会に属し（備付-088）、県内の高等教育機関の図書館とも相互連携と協力を図っている。

付属図書館が直接購入する資料の選定は、各学科・専攻を代表する教員の委員と図書館長で構成する図書館委員会の審議を経て決定している（備付-規程集 014、050）。各学科の学生たちによる選書も行っている。また、図書の廃棄については3年間所在不明となった図書について廃棄の手続きを行う。内容や装丁の古くなった図書は書架から外して書庫に移動後、図書館委員の専門的意見を参考にして保存あるいは廃棄を決定している。亡失図書と併せて平成30年度は250万円相当を廃棄処分した。雑誌の廃棄については図書館委員会の審議にかけ、学術雑誌等は関係教員に照会している（備付-規程集 051）。

学生の授業に関連する図書は、シラバス記載のテキストおよび参考図書のすべてを購入している。さらに、半期ごとに専任教員と非常勤講師に推薦図書を募り、図書館委員会で分野の偏りがないように調整の上、購入している。付属図書館に備える視聴覚教材、学生に読ませたい一般図書、キャリア支援、資格や検定に関わる図書や問題集等の購入も同様に行っている。平成19年度より全学科・専攻へ年度ごとに順次40万円の予算をつけ、重点的に資料の収集を行っている。教員の研究、教育に供する資料については、個人研究費の中から各教員が選定して購入に当たっている。これらの資料は受け入れ手続き後、各研究室で所蔵されている。

平成25年3月に完成したシグナスホールの2階には体育館（1,405㎡）、1階にはアリーナ（449㎡）、大講義室（877㎡）を備えている。鳥取看護大学と鳥取短期大学の共用施設として、授業や課外活動で活用している（備付-087）。

#### 〔区分 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等を、財務諸規程に含め整備している。
- (2) 諸規程に従い施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を維持管理している。
- (3) 火災・地震対策、防犯対策のための諸規則を整備している。
- (4) 火災・地震対策、防犯対策のための定期的な点検・訓練を行っている。
- (5) コンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。
- (6) 省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされている。

#### <区分 基準Ⅲ-B-2の現状>

「経理規程」（備付-規程集 052）の中で財務諸規程を定めており、固定資産や物品（消耗品および貯蔵品）等の会計についても規定している。

公認会計士監査では、この規程に従って処理しているかどうかの監査が行われる。特に、資産計上すべきものを修繕費としていないか、逆に修繕費を資産計上していな

いかをチェックされている。3万円以上の物品の購入は稟議書および支払伝票でチェックしている。また、科学研究費補助金で購入した備品等は、毎年、資産として計上しており、退職時には返却を受けている(備付-規程集 053)。施設の傷み、設備の故障は、直ちに診断し、修繕・更新すべきものと廃棄・償却すべきものとに区分し処理している。

火災・地震対策については、平成27年4月の鳥取看護大学開設に伴い、看護大学棟が防災管理対象建物に該当することになったため、従来の規程を全面改訂し、「防災・消防計画」(備付-規程集 054)を新たに定めている。防犯対策については、平成20年度に本法人における「危機管理に関する規程」(備付-規程集 055)を作成し、平常時の対応、緊急時の危機管理、収束時の対応に分けて対応するようにしている。

火災報知機や消火器等の防火設備を法定に従って点検、整備を行っているほか、地震対策として耐震補強工事を行っている。また、防犯対策では、通学路、正門をはじめとした学内数か所に24時間稼働の防犯カメラを設置している。鳥取看護大学と鳥取短期大学合同での学生および全教職員による火災や地震を想定した避難訓練を毎年実施しており、平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震では幸いにも人災を免れることができた。また、シグナス寮についても寮生による避難訓練を毎年実施している。

平成23年度に「情報セキュリティポリシー」(備付-規程集 015)を策定して以降、世界のセキュリティ傾向を毎年システムの改善に反映している。具体的には基幹ネットワークのゲートウェイにはJuniperのSRXでSPAMメールチェック(Kaspersky)、メールサーバではClamAVを、クライアントPCではESETと3重でマルウェア対策を、LAN Scopeで情報資産管理を、L2blockerで接続機器管理(リアルタイムモニタリング)を、ユーザとグループ管理はActive Directoryを中心に他OSともLDAP等で連動させている。教員・職員・学生・付属図書館はそれぞれ異なるVLAN内で利用している(備付-089)。それぞれで共有すべきデータは利用権限を設定した上で、ファイルの共有管理をしている。

節電対策としては、照明のLED化やパソコン等の省電力機器の利用を進めているほか、学内のエアコンのON・OFF、温度設定を事務局で集中管理している。これによりエアコンの消し忘れがなくなり、不要な電力消費を抑えている。また、エコアラームを取り付けて基準電力を超える消費が予想される場合に警告が出るようにしている。節水対策としては、トイレ等の主要な蛇口に節水コマを取り付け節水に心がけている。公用車のハイブリッド化を積極的に進めている。

### <テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の課題>

A館は改修工事をしているものの築後48年経過しているため、内装および空調・電気設備、一部の教室では講義机、椅子等の傷みが目立つようになってきており、財務状況を見ながら計画的に整備していく必要がある。また、鳥取看護大学開学による学生数の増加に対し、食堂が手狭となっており、飲食も可能な補完施設の整備を検討している。

### ＜テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の特記事項＞

給食管理実習棟は、平成 28 年 10 月 21 日に発生した鳥取県中部地震で被災した倉吉市給食センターの一部を代替する施設として使用される等、地域貢献の一助としても活用されている。また、本学体育館を倉吉総合産業高校体育館建て替え時には高校生のクラブ活動に利用できるように配慮した（備付-090、091）。

島根大学教職大学院鳥取サテライト教室として学生会館の一部を提供して、県内教員の研修に利用されている（備付-092）。

その他、県中部の立地条件を活かして各種試験会場や講演会、講習会等に頻繁に提供している。

### [テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

#### ＜根拠資料＞

##### 備付資料

093 施設更新計画

094 情報処理システム更新資料

[区分 基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービス、専門的な支援、施設設備の向上・充実を図っている。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて情報技術の向上に関するトレーニングを学生及び教職員に提供している。
- (3) 技術的資源と設備の両面において計画的に維持、整備し、適切な状態を保持している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術的資源の分配を常に見直し、活用している。
- (5) 教職員が学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業や学校運営に活用できるよう、学内のコンピュータ整備を行っている。
- (6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、学生の学習支援のために必要な学内 LAN を整備している。
- (7) 教員は、新しい情報技術などを活用して、効果的な授業を行っている。
- (8) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うコンピュータ教室、マルチメディア教室、CALL 教室等の特別教室を整備している。

#### ＜区分 基準Ⅲ-C-1 の現状＞

学科・専攻課程のカリキュラム・ポリシーに基づいて、情報処理教室を含め一般講義室においても、液晶プロジェクターまたは大型液晶モニターを設置し DVD およびブルーレイプレーヤーに対応した視聴覚機器を整備している。加えて、生活学科情報・経営専攻ではクリッカーシステムの試用を行っている。生活学科住居・デザイン専攻はドラフターの整備を進めている。生活学科食物栄養専攻において、汚染区域（検収室、下処理室）と非汚染区域（調理室、洗浄室）が明確に区分され動線も一方方向に流れるように設計された給食管理実習棟（平成 26 年度新設）を設置している。

毎年年度当初に情報システム更新内容を系統的に文書化し、具体的な操作方法を全教職員へ配信している。これに基づく学生への指導と学生用マニュアルも情報関連の授業において提供している。生活学科情報・経営専攻では必携タブレット等の授業での利用やセキュリティ対策を踏まえた利用を入学時段階で集中的に指導している。

授業に必要な教室のパソコンや共有プリンタ、共有フォルダ等の情報機器等（リース）については全学的な施設更新計画に基づいて整備している（備付-093）。

授業で使用する教育研究用備品やソフトウェアについては、各学科・専攻および部署ごとに次年度の予算要求がなされ内容を審議した上で特別予算として当該年度の 4 月に予算配分している。また高額なものについては優先度を考慮し、複数年で計画的に充実を図っている。

施設更新計画に基づき情報処理教室の更新を行うとともに、学期前の長期休暇期間中に業務委託先と ICT 委員で役割分担を決めメンテナンス方針と具体的な手順を示してメンテナンスを行っている（備付-094）。

教室 VLAN の 5 情報処理教室と学内すべてをカバーする Wi-Fi アクセスポイントを全員が利用できるようにしている。e-Learning として moodle も提供している。

教員はクリッカーや e-Learning 等の双方向の授業支援システムを利用している。

情報処理教室は 5 教室（A308、A307-A、A307-B、B302、B202）あり、学生が授業以外でも利用できるようにしている。そのほかマルチメディア教室兼 CALL 教室は 1 教室（B305）を備えている。

#### <テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題>

今後 e-Learning の活用の促進が望まれる。

#### <テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の特記事項>

在学生数に対して情報処理教室の設置パソコン台数が多く、空き時間には自由に利用可能である。

#### [テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源]

#### <根拠資料>

提出資料

- 021 活動区分資金収支計算書（学校法人全体）[書式 1]
- 022 事業活動収支計算書の概要[書式 2]
- 023 貸借対照表の概要[書式 3]
- 024 財務状況調べ[書式 4]
- 025 学法）藤田学院財務計画（平成 27 年度～5 年間）
- 026 貸借対照表
- 027 事業活動収支計算書・事業活動収支内訳表
- 備付資料
- 002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画
- 003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
- 070 FD 活動実績
- 082 SD 活動実績
- 083 とりたん食材まるごと活用プロジェクト資料一式
- 085 自己啓発支援制度の創設について
- 095 月次試算表
- 096 寄付金の募集について
- 097 S W O T 分析
- 098 外部資金獲得委員会議事録
- 099 専門実践教育訓練講座指定等通知書
- 100 鳥取短期大学社会人入学生の推移
- 備付資料-規程集
- 043 学校法人藤田学院人事考課要領
- 056 学校法人藤田学院資金の運用に関する取扱規程
- 057 鳥取看護大学・鳥取短期大学学長裁量経費規程

[区分 基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 計算書類等に基づき、財的資源を把握し、分析している。
  - ① 資金収支及び事業活動収支は、過去 3 年間にわたり均衡している。
  - ② 事業活動収支の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を把握している。
  - ③ 貸借対照表の状況が健全に推移している。
  - ④ 短期大学の財政と学校法人全体の財政の関係を把握している。
  - ⑤ 短期大学の存続を可能とする財政を維持している。
  - ⑥ 退職給与引当金等を目的どおりに引き当てている。
  - ⑦ 資産運用規程を整備するなど、資産運用が適切である。
  - ⑧ 教育研究経費は經常収入の 20%程度を超えている。
  - ⑨ 教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての資金配分が適

切である。

- ⑩ 公認会計士の監査意見への対応は適切である。
  - ⑪ 寄付金の募集及び学校債の発行は適正である。
  - ⑫ 入学定員充足率、収容定員充足率が妥当な水準である。
  - ⑬ 収容定員充足率に相応した財務体質を維持している。
- (2) 財的資源を毎年度適切に管理している。
- ① 学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定している。
  - ② 決定した事業計画と予算を速やかに関係部門に指示している。
  - ③ 年度予算を適正に執行している。
  - ④ 日常的な出納業務を円滑に実施し、経理責任者を経て理事長に報告している。
  - ⑤ 資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用は、資産等の管理台帳、資金出納簿等に適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適正に管理している。
  - ⑥ 月次試算表を毎月適時に作成し、経理責任者を経て理事長に報告している。

[注意]

基準Ⅲ-D-1 について

- (a) 日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）平成 27 年度～」の B1～D3 に該当する学校法人は、経営改善計画を策定し、自己点検・評価報告書に計画の概要を記載する。改善計画書類は提出資料ではなく備付資料とする。
- (b) 文部科学省高等教育局私学部参事官の指導を受けている場合は、その経過の概要を記述する。

<区分 基準Ⅲ-D-1 の現状>

過去 3 年間（平成 28 年度～平成 30 年度）の法人全体の資金収支および事業活動収支において、資金収支は安定的に推移しているが、事業活動収支は平成 27 年度に鳥取看護大学を開設したことに伴い、支出超過の状態となっている（提出-021～024）。短期大学部門の資金収支は安定的に推移している。事業活動収支は平成 28 年度に収容定員充足率が 90%を下回ったため、支出超過となったが、平成 29 年度および平成 30 年度では、収容定員充足率が 90%を上回り収入超過となっている（提出-021～024）。

法人全体の事業活動収支は、鳥取看護大学の完成年度である平成 30 年度までは支出超過の状態であるが、その翌年度には鳥取看護大学の補助金収入が加算できることから黒字転換する見込みである。この状況は、平成 27 年度に作成した藤田学院財務計画（平成 27 年度～平成 31 年度）に沿って進捗しており良好である（提出-025）。

貸借対照表の状況は、上述の事由により平成 30 年度までは純資産額は減少するが、令和元年度では事業活動収支は収入超過となり純資産額は増加する見込みである（提出-026）。

法人全体では、法人部門、短期大学部門、看護大学部門および附属こども園部門の 4 部門がある。部門ごとの試算表を毎月作成し、財政の内容を把握している（備付-095）。日本私立学校振興・共催事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」（提出-021～024）において、短期大学部門は「A3」に区分されることから、存続可能な正常状態である。

退職給与引当金は、期末要支給額を基にして適正に引き当てをしている（提出-026）。

資産運用においては、「資金の運用に関する取扱規程」（備付-規程集 056）を整備している。この規程に基づき適切に資産運用を行っている。また、資産運用状況は、「有価証券一覧表」を月次で作成し理事長に報告している。

短期大学部門の教育研究費比率は、過去 3 年間（平成 28 年度～平成 30 年度）において 30%を超えている（提出-021～024）。

教育研究用の施設設備および学習資源（図書等）については、下記の表の通り適切に資金配分している。

（単位：千円）

年度	施設設備	学習資源（図書等）
平成 28 年度	21, 259	3, 190
平成 29 年度	8, 239	2, 882
平成 30 年度	49, 028	2, 818

公認会計士監査は、期中監査 2 回（11 月、2 月）、決算に係る監査 2 回（4 月、5 月）の年間 4 回監査を受けている。監査に係る指導・意見については、理事長および監事に報告し適切に対応している。

寄付金の募集については、平成 29 年 3 月に被災した学生の見舞金支出および教育研究設備・施設の改修を目的とした「鳥取県中部地震被災募金」を実施した。また、平成 30 年度より教育・研究・保育に相応しい緑豊かな環境の実現を目的とした「シグナスの丘緑の募金」を開始した。いずれの募金もその目的・趣旨を明確にし、適正な活動を行っている（備付-096）。学校債は発行していない。

入学定員（総定員 300 名）充足状況は、平成 28 年度～平成 30 年度では、下記の表の通り 90%を上回っている。

年度	入学定員充足率
平成 28 年度	93. 3%
平成 29 年度	95. 7%
平成 30 年度	95. 0%

収容定員（総収容定員 600 名）充足状況は、平成 27 年度、平成 28 年度と 90%を下回ったが、平成 29 年度、平成 30 年度は 90%を上回った。

年度	収容定員充足率
平成 28 年度	87.2%
平成 29 年度	92.3%
平成 30 年度	94.5%

収容定員充足率が 90%を割込むと事業活動収支が支出超過となり不安定な状態となるが、平成 29 年度以降は事業活動収支が均衡している（提出-027）。

中期計画および中期の財務計画に基づいて、関係部署のヒアリング等を行い、年度末までに次年度の事業計画と予算を作成し、評議員会および理事会の決議を経て決定している。

決定した事業計画は期初に行う「法人教職員全体会」にて指示している。また、決定した予算については、期初に関係部署ごとに個別開示している。

年度予算は、部門ごとに毎月資金収支月報および事業活動収支月報（備付-095）を作成し、その執行状況を適正に管理している。

日常的な出納業務は経理課において円滑に処理しており、日締伝票等の帳票は毎日経理責任者の事務局長に報告している。また、現金・預金月報等の月次の帳票については、経理責任者の事務局長を経て理事長に報告している。

資産および資金（有価証券を含む）は、適正な会計処理に基づき総勘定元帳等の帳簿に記録し、安全かつ適正に管理している。また資産運用については安全性をベースに、一定の収益性も考慮しながら、堅実な運用に努めている。資産運用の基準については、「資金の運用に関する取扱規程」（備付-規程集 056）で詳細に定めており、安易な運用に走らないようガバナンスの効いた体制をとっている。

月次試算表（備付-095）は毎月作成し、経理責任者の事務局長を経て理事長に報告している。

**[区分 基準Ⅲ-D-2 日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学の将来像が明確になっている。
- (2) 短期大学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行っている。
- (3) 経営実態、財政状況に基づいて、経営（改善）計画を策定している。
  - ① 学生募集対策と学納金計画が明確である。
  - ② 人事計画が適切である。
  - ③ 施設設備の将来計画が明瞭である。
  - ④ 外部資金の獲得、遊休資産の処分等の計画を持っている。

- (4) 短期大学全体及び学科・専攻課程ごとに適切な定員管理とそれに見合う経費（人件費、施設設備費）のバランスがとれている。
- (5) 学内に対する経営情報の公開と危機意識の共有ができています。

#### <区分 基準Ⅲ-D-2の現状>

第5次中期計画（平成29年度～平成31年度）で本学のめざすべきビジョンを掲げている。具体的には、「選ばれ続ける短大としてのポジションを確立するために、安定した財務基盤の構築を前提に、『学生が大きく成長する大学』として教育の質保証を進めるとともに、地域や行政、産業界等との連携をさらに強めることで『地域の核となる大学』となることをめざしていく。」としている（備付-002）。また、中期計画の実効性を高めるべく、年2回（前期、後期）「法人教職員全体会」を開催し、計画の内容とPDCAに基づく進捗状況を説明し、全教職員の方向性を合せている。

このほか、平成27年度からSWOT分析の手法を活用して、法人、大学、学科・専攻別に強み・弱みを分析し、それぞれ具体的な戦略を立て、中期計画の進捗管理と同様に「法人教職員全体会」等で発表している（備付-097）。

第5次中期計画では、人材育成（ヒト）、施設・設備・環境整備（モノ）、経営の安定（カネ）、マネジメント体制（ガバナンス）の4つを軸に施策を展開している。また、数値目標（法人）の最重要指標として入学定員充足率100%、離籍率3%未満、進路決定率（希望者ベース）99.0%以上の3つ、財務指標として経常収支差額比率1.6%以上、人件費依存率80%以下、人件費比率55%未満、教育活動資金収支差額比率18%以上の4つを掲げている。

#### 第5次中期計画の目標値（法人）

##### <最重要指標>

・入学定員充足率	100%
・離籍率	3.0%未満
・進路決定率（希望者ベース）	99.0%以上

##### <財務指標>

・経常収支差額比率	1.6%以上
・人件費依存率	80%以下
・人件費比率	55%未満
・教育活動資金収支差額比率	18%以上

学生募集対策としては、「学生募集に関する教職員全体会」を毎年4月から5月に開催し、当該年度の募集方針と具体的な取り組みについて情報を共有し、オープンキャンパス等は全教職員で取り組む体制としている。また、定員確保を目標にしつつ、入学

予定者数に基づいて学生納付金予算を立て、次年度の予算案に反映させている。

人事計画は「人事政策方針」に基づいて運用されており、自己啓発支援制度（備付-085）や人事考課制度（備付-規程集 043）等を設けている。人材の育成を図るとともに、新規採用や適材適所への配置転換等計画的に取り組んでいる。

施設設備の将来計画については、トイレの洋式化やキャンパス環境の整備、50周年記念事業として学生会館の建替えを計画している。

外部資金の獲得については外部資金獲得委員会を中心に、補助金獲得や寄付金対策に取り組んでいる（備付-098）。遊休資産の処分等の計画はない。

学科・専攻の定員については、鳥取県立保育専門学院（倉吉市）の閉鎖による保育士養成機能の引き受けに伴い、平成26年4月から入学定員を変更した。具体的には、総定員は300名のままとし、生活学科食物栄養専攻の50名を除く4つの学科・専攻で入学定員を変更した。内訳は、国際文化交流学科を50名から40名、生活学科情報・経営専攻を40名から35名、生活学科住居・デザイン専攻を40名から30名、幼児教育保育学科を120名から145名に変更した。幼児教育保育学科の定員拡大にあたっては鳥取県との協定を締結している（備付-003）。その後、若干の定員未充足となっている学科・専攻はあるものの、ほぼ安定的に学生数を確保している。定員が未充足の学科・専攻については、原因分析を行い、学科独自の高校訪問実施等の対策を実施している。経費（人件費、施設設備費）予算については、教員数や学生数のバランスを考慮しながら、学科別に予算配分を行っている。

「法人教職員全体会」は、中期計画の進捗管理やSWOT分析の結果発表、財務情報を含む経営状況の共通理解の場として有効に機能しており、学内における危機意識の共有にも役立っている。

#### <テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源の課題>

部門別にみると本学は、過去5年間において収容定員未充足の状況が続いている。財務状況が毀損するような未充足（70%未満）の状況ではないが、事業活動収支の均衡を維持するため、定員を確保することが課題である。

#### <テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源の特記事項>

収入確保の方策として、外部資金獲得委員会を設けて補助金獲得に努め、実績も上げている（備付-098）。

#### <基準Ⅲ 教育資源と財的資源の改善状況・改善計画>

##### (a) 前回の認証（第三者）評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計画の実行状況

###### (1) 教員組織について

各学科・専攻の専門性を維持しつつ、年齢構成の適正化を図るため、若手教員を採用

してきているほか、生活学科住居・デザイン専攻や幼児教育保育学科を中心に実践現場での経験豊富な実務家教員も採用している。

(2) 専任教員の研究体制と成果について

平成 27 年度には学長裁量経費を新たに設け（備付-規程集 057）、研究面での資金的な支援体制を充実したほか、私立大学等改革総合支援事業タイプ 5「とっとりプラットフォーム 5 +  $\alpha$ 」（備付-003）のとりまとめ校として共同研究に取り組みやすい環境整備を行っている。

(3) FD・SD 活動について

先に記したように、FD・SD 活動は定着しており、教職員の意識・能力も向上しつつあると認識している（備付-070、082）。

(4) 関係部署との連携について

キャンパス内では附属こども園を実習に利用しているほか、大学全体で取り組むとりたん食材まるごと活用プロジェクト（備付-083）を通じた外部研究機関との連携等の教育研究活動にも広がりが出てきている。

(5) 専任事務職員について

鳥取看護大学の開学や時代や地域のニーズに対応した事務体制を整えてきており、経験年数の浅い事務職員が増加していることから、SD 研修（備付-082）の充実、通信講座等の自己啓発支援制度（備付-085）の創設等といった人材育成に努めている。

(6) 財的資源

学生確保が経営の根幹であるとの認識に立ち、「学生募集に関する教職員全体会」等を通じ全教職員が認識を共有し、定員確保に向け全力で取り組んでいる。近年では社会人学生の受入れ増を図るため、厚生労働省の教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）（備付-099）の利用や鳥取県産業人材育成センターとの提携による職業訓練の指定コース設置により、栄養士や保育士養成課程で一定の成果（備付-100）をあげてきている。

また、時代の要請に応じ、令和元年度から専攻科の福祉専攻を廃止し、幼児教育専攻を新設する等、学科・専攻の再編や定員見直しについては継続的な検討課題としている。

**(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画**

(1) 人的資源としての中間管理職の養成と情報共有のシステム化について

人事考課をベースとした役職の登用、研修制度の充実等に取り組む。また、法人内の情報共有を図るためのグループウェアの導入、入学から卒業までを一元的に管理できる新たな教務システムの導入を進めていく。

(2) 物的資源としての施設設備の充実と資産管理について

A 館等経年劣化に対応して施設設備の改修・修繕を定期的実施していくほか、時代に合わせた付属図書館の充実を図る。また、備品台帳の現物照合作業の定例化に向け体制を整えていく。

(3) 技術的資源としての e-Learning の活用について

県内高等教育機関との連携授業や反転学習等への活用のため、e-Learning のコンテンツ充実や環境整備を進めていく。

(4) 財的資源としての定員確保について

当面、社会人学生や外国人留学生の掘り起こし等により現定員確保に全力で取り組むほか、定員の見直しについても継続的に検討していく。また、履修証明プログラムの導入等新たな手法を取り入れ、地域のニーズに対応しつつ財源確保の一助としていく。

様 式 8

基準IV

リーダーシップとガバナンス

## 【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】

## [テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ]

## ＜根拠資料＞

## 提出資料

028 学校法人藤田学院寄附行為

## 備付資料

020 理事会議事録（平成 28～30 年度）

021 評議員会議事録（平成 28～30 年度）

098 外部資金獲得委員会議事録

101 常任理事会議事録

102 経営戦略検討委員会議事録

103 学校法人実態調査表（写し）

104 理事長の履歴書

105 経営改革計画

106 ガバナンス・コード

## 備付資料-規程集

058 学校法人藤田学院寄附行為施行規則

059 学校法人藤田学院監事監査規程

## [区分 基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。]

## ※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 理事長は、学校法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。
- ① 理事長は、建学の精神・教育理念、教育目的・目標を理解し、学校法人の発展に寄与できる者である。
  - ② 理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理している。
  - ③ 理事長は、毎会計年度終了後 2 月以内に、監事の監査を受け理事会の議決を経た決算及び事業の実績（財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書）を評議員会に報告し、その意見を求めている。
- (2) 理事長は、寄附行為の規定に基づいて理事会を開催し、学校法人の意思決定機関として適切に運営している。
- ① 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督している。
  - ② 理事会は、理事長が招集し、議長を務めている。
  - ③ 理事会は、認証評価に対する役割を果たし責任を負っている。
  - ④ 理事会は、短期大学の発展のために、学内外の必要な情報を収集している。

- ⑤ 理事会は、短期大学の運営に関する法的な責任があることを認識している。
  - ⑥ 理事会は、学校法人運営及び短期大学運営に必要な規程を整備している。
- (3) 理事は、法令及び寄附行為に基づき適切に構成されている。
- ① 理事は、学校法人の建学の精神を理解し、その法人の健全な経営について学識及び識見を有している。
  - ② 理事は、私立学校法の役員を選任の規定に基づき選任されている。
  - ③ 寄附行為に学校教育法校長及び教員の欠格事由の規定を準用している。

### <区分 基準Ⅳ-A-1の現状>

本学の理事長は、前学長であり長年理事長と学長職を兼務してきた経歴である。建学の精神・教育理念、教育目的・目標は元より、三つの方針の策定にあたっては理事長のリーダーシップの下で進めた経緯があり、教学面における識見はとても高い。

理事長は、学校法人の代表として、寄附行為に則り業務を総理している。月1回常任理事会（理事長、両大学学長、附属こども園園長、事務局長、学外理事1名、常勤監事、学外監事1名）（備付-101）を開催し、各部門の情報の確認、共有を図り、運営の方針等について協議している。加えて、経営戦略検討委員会（備付-102）、外部資金獲得委員会（備付-098）を毎月1回開催し、法人の安定的な運営に向けた方策を協議し、実施している。

毎年度5月に開催する評議員会（備付-021）においては、事前に監事の監査を受け、理事会において承認を受けた事業報告書（事業報告、財産目録、貸借対照表および収支計算書）および決算の報告を行って意見を求めている。

各理事はその責任を強く自覚し、建学の精神を理解した上で、学識および識見をもって健全な経営および大学運営にあたっている。理事会が法人の業務を決定し、理事の職務の執行を監督している。

理事会は、理事長が招集し、議長を務めている（備付-020）。

理事会は、認証評価を重要な事項と位置付け、平成17年度の第1回目受審当初よりその認識は変えていない。常に、専門的な見地からの意見を大学の経営、運営に反映させたいとする意向を強くもっている。

理事会は、大学発展のために学内外の情報を収集し、大学運営のための判断材料に資している。経営戦略検討委員会および外部資金獲得委員会が、理事長の諮問委員会として情報収集の直接的な役割を担っている。

理事会は、学校教育法および私立学校法に基づき、大学運営に責任のあることを認識している。

理事会は、「学校法人藤田学院寄附行為」（提出-028）、「寄附行為施行規則」（備付-規程集 058）および「監事監査規程」（備付-規程集 059）を整備し、これらに則って大学運営を行っている。

理事は、教学部門、事務部門、附属こども園の各責任者および学外理事3名である。

学外理事については、教育、経済および行政に識見が高く、いずれも建学の精神を十分に理解している。

理事は、「私立学校法」第 38 条（役員の選任）および「学校法人藤田学院寄附行為」第 6 条の規定により選任されている（備付-103）。

「学校法人藤田学院寄附行為」第 11 条には、学校教育法第 9 条（校長及び教員の欠格事由）の規定を準用している。

#### ＜テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップの課題＞

理事長は、学長職にあったときを含む教員時代には、授業においても、またクラブ顧問としてもよく学生と関わり、学生の視点からニーズの把握を行っていた。また、鳥取短期大学のみを運営していたときは、教職員数が 70 名前後であって密な関わりが可能であった。その後本法人が附属こども園を統合し、4 年制の鳥取看護大学を設置したため、平成 28 年 4 月以降は理事長職専任となっている。教職員数もそれまでの倍以上となり、学生、教職員のニーズや思いを把握することが、理事長の課題となってきた。

#### ＜テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップの特記事項＞

理事長は、学生や教職員との関係と併せ、地域社会との関りを大切にしている。県の教育委員を 8 年間（内 5 年間委員長）務めたほか、積極的に自治体の各種委員を務めるとともに、産業界や地域のイベントにも参画し、多くの要請に応じて各種講演活動も行ってきた。それだけに各界、各層との太いパイプを有し、それによって常に時代や地域社会の動きをキャッチして大学経営に活かしている。今後も同様の方針である（備付-104）。

また、経営改革計画（備付-105）、ガバナンス・コード（備付-106）を作成し、精力的に本法人の規律ある安定的運営に向けて努力している。

#### [テーマ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ]

##### ＜根拠資料＞

##### 備付資料

041 教授会議事録（平成 28～30 年度）

044 研究・教育活動計画書

077 研究・教育活動報告書

107 学長の個人調書[様式 19]

##### 備付資料-規程集

060 鳥取短期大学学生懲戒規程

061 鳥取短期大学学長任免規程

062 鳥取短期大学教授会規則

063 鳥取看護大学・鳥取短期大学大学協議会規程

064 鳥取短期大学教務委員会規程

065 鳥取短期大学学生委員会規程

066 鳥取看護大学・鳥取短期大学学術委員会規程

[区分 基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学長は、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。
  - ① 学長は、教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。
  - ② 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有している。
  - ③ 学長は、建学の精神に基づく教育研究を推進し、短期大学の向上・充実に向けて努力している。
  - ④ 学長は、学生に対する懲戒（退学、停学及び訓告の処分）の手續を定めている。
  - ⑤ 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督している。
  - ⑥ 学長は、学長選考規程等に基づき選任され、教学運営の職務遂行に努めている。
- (2) 学長等は、教授会を学則等の規定に基づいて開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。
  - ① 教授会を審議機関として適切に運営している。
  - ② 学長は、教授会が意見を述べる事項を教授会に周知している。
  - ③ 学長は、学生の入学、卒業、課程の修了、学位の授与及び自ら必要と定めた教育研究に関する重要事項について教授会の意見を聴取した上で決定している。
  - ④ 学長等は、教授会規程等に基づき教授会を開催し、併設大学と合同で審議する事項がある場合には、その規程を有している。
  - ⑤ 教授会の議事録を整備している。
  - ⑥ 教授会は、学習成果及び三つの方針に対する認識を共有している。
  - ⑦ 学長又は教授会の下に教育上の委員会等を規程等に基づいて設置し適切に運営している。

#### <区分 基準IV-B-1の現状>

学長は、最高責任者としてリーダーシップを発揮して大学運営に当たっている。重要事項については事前に大学協議会および学科長会等で協議した上で教授会に諮り、教授会の意見を十分に参酌した上で最終的な判断を行っている。

学長の選任にあたっては、理事長が識見や実績等を勘案して選任し、教授会の意見

を聴き理事会に諮ることになっている。

学長は、教育研究において、運営の方針等についてはそのつど常任理事会や大学協議会で協議し、学科長会をとおして各学科・専攻および各教員へ伝達指導できるようにしている。教育面では、個々の教員へは授業公開時の見学をとおしてコメントを送る等を心がけ、研究面においては、各教員へ年度ごとに「研究・教育活動計画書」（備付-044）および「研究・教育活動報告書」（備付-077）の提出を求め、活動状況を把握するとともに、必要な場合は面談する等して研究活動の活性化を促している。

学生に対する懲戒は、「学生懲戒規程」（備付-規程集 060）に基づき適切に指導を行っている。

所属職員については、SD 研修は元より FD 研修や授業公開にも参加見学して教育内容や学生の状況把握に努めるよう促し、教職員個々の教育力、支援力の向上から大学全体の教育の質の向上へつなげるよう努めている。

学長は、「学長任免規程」（備付-規程集 061）に基づき選任され、教学運営の遂行に務めている。

教授会の構成メンバーは専任の教授、准教授、助教、助手であるが、教学部門と事務部門の情報共有、職務遂行の円滑化を図ることを意図して、管理職の事務職員（事務局長、部長、次長、課長）がオブザーバーとして出席することとしている。教授会は、毎月 1 回の定例会に加え、入学者選考、卒業判定を主な議題とする会が年間 6 回程度開催される。

学長が「教授会規則」（備付-規程集 062）により議題を周知させた上で教授会を招集し、議長として教授会を運営している。

教授会は教学部門の最高審議機関として協議事項と報告事項に分けて協議している。「教授会規則」に定める入学、卒業、課程の修了および学位の授与、ならびに教育課程等の教育研究に関する重要な協議事項については、各担当が説明を行い、十分に熟議した上で、議長である学長が最終的な判断を下している。

併設の鳥取看護大学と合同で審議する事項については、「大学協議会規程」（備付-規程集 063）に基づき大学協議会で審議した上で、それぞれの教授会に諮っている。

教授会議事録（備付-041）は、所管である教務部次長が作成し、各部局長に回覧の上、学長が最終確認を行っている。

教授会では、自己点検・評価運営委員会での協議内容を定期的に報告し、学習成果の達成度を認識するとともに、三つの方針との整合性や教育改善について協議している。

教授会の下に、履修・単位認定、教育課程、時間割等の検討を主任務とする教務委員会、学生の課外活動、厚生補導等を主任務とする学生委員会、学生、教員の学術研究の推進、環境整備を主任務とする学術委員会等の委員会が設置され、規程（備付-規程集 064、065、066）に基づき適切に運営している。

#### <テーマ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップの課題>

専任教員の多くが、それぞれの教育および大学運営に関する委員会活動に献身的にあたって多忙を極め、研究活動がやや低調とならざるを得なくなっている。教育の質

を確保するためにも、専任教員の研究活動を促進させるための環境整備が学長の課題である。

また、本学を取り巻く社会環境や高校生のニーズの変化により従来の学科構成では運営が難しくなっているなか、各学科の教授内容の充実や学科再編を協議するための学長のリーダーシップが期待されている。

#### <テーマ 基準IV-B 学長のリーダーシップの特記事項>

学長は、学長就任以降も授業を担当し、学生たちと直に触れることにより必要な教育についての感度を保つように努めている。また、学内においては職位ごとに個人面接を実施し、各教員の教育・研究状況、将来計画等を把握し、学外においては、鳥取県公安委員会委員（平成30年度までの6年間）、国立大学法人鳥取大学経営協議会委員、公益財団法人鳥取県体育協会副会長等を務めて関係機関や地域社会との連携を図る等、きめ細かくかつ大所高所から大学運営のリーダーシップをとるよう努めている（備付-107）。

#### [テーマ 基準IV-C ガバナンス]

##### <根拠資料>

##### 提出資料

028 学校法人藤田学院寄附行為

##### 備付資料

020 理事会議事録（平成28～30年度）

021 評議員会議事録（平成28～30年度）

074 ホームページ「教育情報の公開」

<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878>

101 常任理事会議事録

103 学校法人実態調査表（写し）

108 藤田学院の発展のために ―監事監査ガイドライン―

109 監事監査計画

110 監事監査調書

111 ホームページ「財務情報」

<https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5931>

112 とっとりプラットフォーム5+α共同研究事業活動推進助成金採択事業

##### 備付資料-規程集

043 学校法人藤田学院人事考課要領

059 学校法人藤田学院監事監査規程

067 学校法人藤田学院経営戦略検討委員会規程

068 学校法人藤田学院外部資金獲得委員会規程

**[区分 基準Ⅳ-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査している。
- (2) 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。
- (3) 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 月以内に理事会及び評議員会に提出している。

**<区分 基準Ⅳ-C-1 の現状>**

平成 29 年度から 3 名の監事のうち 1 名を常勤としたことに伴い、「監事監査規程」を改定し、監事の義務・権限・監査項目等を明確にするとともに「監事会」を新規に設置する等、監事監査体制を強化整備している（備付-規程集 059）。また、平成 29 年 5 月には具体的な監査手順をまとめた監事監査マニュアルを作成したほか、毎年度作成する監事計画に基づき監事監査を実施している。監事は教学監査を含む業務監査および財産の状況に関する監査を行い、公認会計士監査は財産を含む会計監査を主としている。また、事務職員による内部監査は事務の相互監査と業務改善を目的として実施している。この三者による三様監査も取り入れることで、情報を共有し改善につなげている（備付-108～110）。

監事は、毎月開催する常任理事会に 1 名以上出席しているほか、理事会および評議員会に出席し、議案についてそれぞれ専門的な立場から積極的に意見を述べている（備付-101、020、021）。

監事は、監事計画に基づき適宜監査を実施し、被監査部署ごとに監事監査調書を作成しているほか、5 月の監査終了後に監査報告書および監査状況報告書を作成し、5 月の理事会および評議員会に提出し、監査の状況を報告している（備付-020、021）。

**[区分 基準Ⅳ-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員の諮問機関として適切に運営している。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 評議員会は、理事の定数の 2 倍を超える数の評議員をもって、組織している。
- (2) 評議員会は、私立学校法の評議員会の規定に従い、運営している。

**<区分 基準Ⅳ-C-2 の現状>**

現在、評議員会の定数は 17 名で、理事の定数（8 名）の 2 倍を超えており、適正である（提出-028）。

評議員会は、学校法人の業務等につき意見を述べる諮問機関として、私立学校法第 42 条に規定されている事項（予算、借入金、事業計画、寄附行為の変更等）について

理事長があらかじめ評議員の意見を聞き、理事会に反映させている（備付-021）。

**[区分 基準IV-C-3 短期大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。]**

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学校教育法施行規則の規定に基づき、教育情報を公表している。
- (2) 私立学校法の規定に基づき、財務情報を公開している。

#### <区分 基準IV-C-3 の現状>

学校教育法施行規則第 172 条に定める教育情報について、本学のホームページ等を通じて公表している（備付-074）。

また、学校法人が公共性の高い法人としての説明責任を果たすため、財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、事業報告書および監事による監査報告書を閲覧できるように備え付けているほか、本法人のホームページ等を活用して、広く情報公開している（備付-111）。

#### <テーマ 基準IV-C ガバナンスの課題>

特になし。

#### <テーマ 基準IV-C ガバナンスの特記事項>

常勤監事が配置され、年間に各学科および法人各部署の詳細な監査が行われ監事監査調書が提出されていて、改善項目については適宜検討の上、取り入れている。毎月の常任理事会での聞き取りも行われており、監査機能が充実している（備付-103、110）。

#### <基準IV リーダーシップとガバナンスの改善状況・改善計画>

**(a) 前回の認証（第三者）評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計画の実行状況**

(1) 法人経営・運営の安定化について

前回の平成 24 年度当時は、理事長が学長を兼任していた。平成 27 年度、法人内に 4 年制の鳥取看護大学を設置したこともあり、平成 28 年度より学長を新たに選任し、理事長は理事長職に専念できる体制を整えた。以降、理事長は直轄の経営戦略検討委員会（備付-規程集 067）および外部資金獲得委員会（備付-規程集 068）を設置する等し、リーダーシップを発揮して精力的に法人全体の運営に当たっている。

(2) 監事体制の強化について

平成 29 年度より常勤監事を配置し体制を強化した（備付-103）。学外監事とともに本学のみならず法人全体の各部署の監査を細部まで行って監査機能を充実させている。

**(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画**

(1) 教職員数増加に対応する理事長のガバナンスの浸透について

鳥取看護大学設置に伴って法人内の教職員数は設置前の倍以上となっているが、現在のところ学内におけるガバナンスにおいて問題や不安は感じていない。今後も、理事長の太いパイプの下にこれまで強化してきた他機関との連携をさらに深めるため、理事長自らがリーダーシップを発揮できるよう体制づくりを一層進めることにより、対外的にも学内的にも順調に運営できるものとする。

(2) 教員の研究活動促進に対する学長のリーダーシップについて

教員の多忙感を緩和するため、教員による学内業務の見直しを引き続き進める。一方、研究活動の定着を図るため、教員の人事考課（備付-規程集 043）における研究活動の比重の厳格化を図るとともに、他大学等の教員との共同研究等（備付-112）についても各教員へよびかけていく。

樣 式 9

提 出 資 料 一 覽

[様式 9] 提出資料一覧

提出資料	資料番号・資料名・該当ページ
基準 I : 建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
建学の精神・教育理念についての印刷物等	001 平成 30(2018)年度学生便覧 p. 8 002 鳥取短期大学学則 第 1 章第 1 条 003 ホームページ「理念・ごあいさつ」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5649">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5649</a> 004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a> 005 鳥取短期大学カレッジガイド 2018 p. 1 006 鳥取短期大学カレッジガイド 2019 p. 7 007 学校法人藤田学院ガイドブック p. 7 008 2019 年度事業計画書 p. 11 009 平成 30 年度事業報告書 p. 15
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	010 平成 30 年度シラバス
B 教育の効果	
学則 ■ 学則のみを印刷したもの	002 鳥取短期大学学則
教育目的・目標についての印刷物等	001 平成 30(2018)年度学生便覧 pp. 8～9 002 鳥取短期大学学則 第 1 章第 1 条 007 学校法人藤田学院ガイドブック pp. 7～10 備付-012 ホームページ「教育目的と教育目標」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5653">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5653</a>
学習成果を示した印刷物等	002 鳥取短期大学学則 第 1 章第 1 条 013 学習成果一覧 014 平成 30 年度学習成果報告書
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	011 カリキュラムマップ
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	012 カリキュラムツリー
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	015 ディプロマ・ポリシー一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	016 カリキュラム・ポリシー一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	017 アドミッション・ポリシー一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	008 2019 年度事業計画書 p. 12
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	009 平成 30 年度事業報告書 p. 15

提出資料	資料番号・資料名・該当ページ
出資料]	
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	018 2018(平成30)年度学生募集要項 p.1
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	019 2019年度学生募集要項 p.1
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	001 平成30(2018)年度学生便覧 pp.10~14
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a>
C 内部質保証	
自己点検・評価を実施するための規程	020 鳥取短期大学自己点検・評価規程
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	014 平成30年度学習成果報告書
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	001 平成30(2018)年度学生便覧 p.65
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
卒業認定・学位授与の方針に関する印刷物等	015 ティプロマ・ポリシー一覧 004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a>
教育課程編成・実施の方針に関する印刷物等	016 カリキュラム・ポリシー一覧 001 平成30(2018)年度学生便覧 p.70 002 鳥取短期大学学則 第5章第24条、第25条 012 カリキュラムツリー 004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a>
入学者受入れの方針に関する印刷物等	017 アドミッション・ポリシー一覧 018 2018(平成30)年度学生募集要項 p.1 019 2019年度学生募集要項 p.1 004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a>
シラバス ■ 平成30年度 ■ 紙媒体又は電子データで提出	010 平成30年度シラバス
学年暦 ■ 平成30年度	029 平成30(2018)年度鳥取短期大学日程表
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	011 カリキュラムマップ
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	001 平成30(2018)年度学生便覧 p.65 〃 pp.67~68

提出資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	002 鳥取短期大学学則 第5章第28条 " 第6章第36条第2項
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	013 学習成果一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	014 平成30年度学習成果報告書
B 学生支援	
学生便覧等、学習支援のための配布物	010 平成30年度シラバス 001 平成30(2018)年度学生便覧 030 オリエンテーション配布資料
短期大学案内 ■ 平成30年度入学者用及び平成31年度入学者用の2年分	005 鳥取短期大学カレッジガイド2018 006 鳥取短期大学カレッジガイド2019
募集要項・入学願書 ■ 平成30年度入学者用及び平成31年度入学者用の2年分	018 2018(平成30)年度学生募集要項 019 2019年度学生募集要項
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	002 鳥取短期大学学則 第1章第1条
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	001 平成30(2018)年度学生便覧 p.25 " p.32 " pp.51~53 " pp.167~176
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	018 2018(平成30)年度学生募集要項 p.18、24 " pp.23~24 " pp.25~27
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	019 2019年度学生募集要項 p.18、24 " pp.23~24 " pp.25~27
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	014 平成30年度学習成果報告書
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	005 鳥取短期大学カレッジガイド2018 pp.45~46
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	006 鳥取短期大学カレッジガイド2019 pp.45~46
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	004 ホームページ「3つのポリシー」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5652</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	012 カリキュラムツリー
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
A 人的資源	

提出資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	007 学校法人藤田学院ガイドブック p. 14
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	001 平成 30(2018)年度学生便覧 pp. 167～176
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	020 鳥取短期大学自己点検・評価規程
D 財的資源	
「計算書類等の概要(過去3年間)」 「活動区分資金収支計算書(学校法人全体)」[書式1]、「事業活動収支計算書の概要」[書式2]、「貸借対照表の概要(学校法人全体)」[書式3]、「財務状況調べ」[書式4]	021 活動区分資金収支計算書(学校法人全体)[書式1] 022 事業活動収支計算書の概要[書式2] 023 貸借対照表の概要[書式3] 024 財務状況調べ[書式4]
資金収支計算書・資金収支内訳表 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)計算書類(決算書)の該当部分	031 資金収支計算書・資金収支内訳表
活動区分資金収支計算書 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)計算書類(決算書)の該当部分	032 活動区分資金収支計算書
事業活動収支計算書・事業活動収支内訳表 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)計算書類(決算書)の該当部分	027 事業活動収支計算書・事業活動収支内訳表
貸借対照表 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)計算書類(決算書)の該当部分	026 貸借対照表
中・長期の財務計画	025 学法)藤田学院財務計画(平成27年度～5年間)
事業報告書 ■ 過去1年間(平成30年度)	009 平成30年度事業報告書
事業計画書/予算書 ■ 認証評価を受ける年度(平成31年度)	008 2019年度事業計画書 033 平成31年度予算書
基準IV:リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
寄附行為	028 学校法人藤田学院寄附行為
C ガバナンス	
[報告書作成マニュアル指定以外の提出資料]	028 学校法人藤田学院寄附行為 第4章第18条第2項

[注]

- 一覧表の「資料番号・資料名・該当ページ」には、提出資料に付した通し番号及び資料名を記載してください。また、ページ番号が示せるものについては、該当ページを記載してください。
- 準備できない資料（例えば、取組み自体を行っていない場合等）については、「該当なし」と記載してください。
- ウェブサイトで公表している場合、一覧表の「資料番号・資料名・該当ページ」にはURLも記載してください。
- 特に指定がなければ、自己点検・評価を行う平成30年度の資料を準備してください。ただし、認証評価を受ける平成31年度に学科改組等で大幅な変更があった場合、平成31年度のものを備付資料として準備してください。
- 「過去3年間」・「過去5年間」の指定がある場合、自己点検・評価を行う平成30年度を起点として過去3年間・過去5年間とします。
- 一覧表を提出する際、①この注意書きは削除せず、②様式9の通しページを付してください。

樣 式 10

備 付 資 料 一 覽

[様式 10] 備付資料一覧

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
基準 I : 建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
創立記念、周年誌等	118 鳥取女子短期大学十周年誌 119 鳥取女子短期大学二十周年誌 120 鳥取女子短期大学三十周年誌 121 鳥取短期大学 40 周年記念誌
地域・社会の各種団体との協定書等	003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	001 第 4 次中期計画の基本骨格 (骨太の方針)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画 p. 2
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	004 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンターだより第 3 号、第 4 号
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	005 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター年報第 2 号
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	006 平成 30 年度鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座実績報告及び資料
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	007 鳥取看護大学・鳥取短期大学高齢者向け生涯学習事業報告書 (平成 28 年度～平成 30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	008 科目等履修生・聴講生一覧 (平成 26 年度～平成 30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	009 暮らしの経済・法律講座受講生一覧 (平成 26 年度～平成 30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	010 鳥取短期大学絃美術館 20 周年・絃研究室 30 周年記念事業チラシ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	011 鳥取看護大学・鳥取短期大学ボランティア関係綴 (平成 28 年度～平成 30 年度)
B 教育の効果	
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	012 ホームページ「教育目的と教育目標」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5653">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5653</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	013 平成 30 年度 卒業生就職状況アンケート集計結果
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	014 平成 30 年度キャリア形成支援教育に関する調査雇用主アンケート集計結果
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	015 「有識者会議」議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	016 PDCA サイクル確認シート
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	017 非常勤講師連絡会資料
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	018 ホームページ「学習成果」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6993">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6993</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	019 学習成果部会の議事録（平成 28～30 年度）
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	020 理事会議事録（平成 28～30 年度）
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	021 評議員会議事録（平成 28～30 年度）
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	022 平成 30 年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成 30 年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成 30 年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録
C 内部質保証	
過去 3 年間（平成 28 年度～平成 30 年度）に行った自己点検・評価に係る報告書等	029 ホームページ「2017 年度認証評価簡易報告書」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5658">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5658</a> 023 自己点検・評価運営委員会議事録 001 第 4 次中期計画の基本骨格（骨太の方針） 002 ステップ 50～選ばれ続ける短大をめざして～第 5 次中期計画
高等学校等からの意見聴取に関する記録等	022 平成 30 年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成 30 年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成 30 年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録 015 「有識者会議」議事録
認証評価以外の外部評価についての印刷物等	024 ホームページ「平成 27 年度短期大学間相互評価 鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書 平成 28 年 3 月」 <a href="http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf">http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf</a> 025 平成 27 年度鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
教育の質保証を図るアセスメントの手法及び向上・充実のためのPDCAサイクルに関する資料	030 授業評価アンケート結果 (3年分) 026 平成30年度入学時アンケート 013 平成30年度卒業生 就職状況アンケート集計結果 014 平成30年度キャリア形成支援教育に関する調査雇用主アンケート集計結果 031 国際文化交流学科科会議事録 032 情報・経営専攻科会議事録 033 住居・デザイン専攻科会議事録 034 食物栄養専攻科会議事録 035 幼児教育保育学科科会議事録 023 自己点検・評価運営委員会議事録 001 第4次中期計画の基本骨格(骨太の方針) 002 ステップ50～選ばれ続ける短大をめざして～第5次中期計画 036 教務委員会議事録 037 学科長会議事録 019 学習成果部会の議事録(平成28～30年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	027 平成30年度卒業前アンケート
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	028 ホームページ「学生アンケート」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6223">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6223</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	038 本学の教育に関する点検評価活動
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	039 鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会資料
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	040 文部科学省大学間連携共同教育推進事業大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング最終報告書
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
単位認定状況表 [様式18] ■ 認証評価を受ける前年度の平成30年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について	113 単位認定状況表[様式18]
学習成果の獲得状況を表す量的・質的データに関する印刷物等	027 平成30年度卒業前アンケート 047 鳥取短期大学アセスメントポリシー 052 GPA分布 030 授業評価アンケート結果(3年分) 054 ホームページ「学生による授業評価アンケート」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6224">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6224</a>
幅広く深い教養を培う教養教育の	030 授業評価アンケート結果(3年分)

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
成果に関する資料	047 鳥取短期大学アセスメントポリシー 054 ホームページ「学生による授業評価アンケート」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6224">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=6224</a>
職業又は実際生活に必要な能力を育成する職業教育の成果に関する資料	046 COC+事業報告書 016 PDCA サイクル確認シート 047 鳥取短期大学アセスメントポリシー 014 平成 30 年度キャリア形成支援教育に関する調査雇用主アンケート集計結果 053 (平成 28~29 年度) 雇用主アンケート (業種別) による卒業生が備えるべき力や態度のクロス集計と各学科と全学の (平成 31 年度) 教育課程等での対応表
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	031 国際文化交流学科科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	032 情報・経営専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	033 住居・デザイン専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	034 食物栄養専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	035 幼児教育保育学科科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	019 学習成果部会の議事録 (平成 28~30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	023 自己点検・評価運営委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	036 教務委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	041 教授会議事録 (平成 28~30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	042 教員一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	043 教育課程表
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	044 研究・教育活動計画書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	015 「有識者会議」議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	045 カリキュラム検討会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	048 調査書審査 (行動点一覧)

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
備付資料]	
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	049 入学者選考委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	050 高校訪問記録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	051 学生募集マニュアル
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	022 平成 30 年度中部地区高等学校と倉吉市、鳥取看護大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学と地域の発展を推進する会との懇談会会議録／平成 30 年度東部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録／平成 30 年度西部地区高等学校校長会と鳥取看護大学・鳥取短期大学との懇談会会議録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	024 ホームページ「平成 27 年度短期大学間相互評価鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書 平成 28 年 3 月」 <a href="http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf">http://www.jaca.or.jp/assets/files/2-3_chiikisogokagakuka/sogohyoka/h28/h28_tottori_kagawa.pdf</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	025 平成 27 年度鳥取短期大学・香川短期大学相互評価報告書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	017 非常勤講師連絡会資料
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	055 ティーチング・ポートフォリオ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	038 本学の教育に関する点検評価活動
B 学生支援	
学生支援の満足度についての調査結果	030 授業評価アンケート結果 (3 年分)
就職先からの卒業生に対する評価結果	014 平成 30 年度キャリア形成支援教育に関する調査雇用主アンケート集計結果
卒業生アンケートの調査結果	013 平成 30 年度卒業生 就職状況アンケート集計結果
入学志願者に対する入学までの情報提供のための印刷物等	提出-005 鳥取短期大学カレッジガイド 2018 提出-006 鳥取短期大学カレッジガイド 2019 提出-018 2018(平成 30)年度学生募集要項 提出-019 2019 年度学生募集要項 122 各学科パンフレット 2019 123 鳥取短期大学専攻科ガイド 2019 124 オープンキャンパスチラシ 125 2019 年度専攻科学生募集要項

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
	126 鳥取短期大学平成 30・29 年度入学者選考試験問題
入学手続者に対する入学までの学習支援のための印刷物等	062 平成 30 年度鳥取短期大学入学前ガイダンス日程表
学生の履修指導（ガイダンス、オリエンテーション）等に関する資料	057 オリエンテーション日程 提出-030 オリエンテーション配布資料
学生支援のための学生の個人情報を記録する様式	128 学生原票 129 求職票 130 保健管理カード 131 保健調査票
進路一覧表等 ■ 過去 3 年間（平成 28 年度～平成 30 年度）	058 キャリアガイドブック 2018 pp. 48～49 059 キャリアガイドブック 2019 pp. 60～61 060 キャリアガイドブック 2020（8 月 6 日発行予定）
GPA 等の成績分布	052 GPA 分布
学生による授業評価票及びその評価結果	030 授業評価アンケート結果（3 年分）
社会人受入れについての印刷物等	提出-018 2018(平成 30)年度学生募集要項 p. 18 提出-019 2019 年度学生募集要項 pp. 17～18 127 社会人パンフレット
海外留学希望者に向けた印刷物等	該当なし
留学生の受入れについての印刷物等	提出-018 2018(平成 30)年度学生募集要項 pp. 25～27 提出-019 2019 年度学生募集要項 pp. 25～27
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	031 国際文化交流学科科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	032 情報・経営専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	033 住居・デザイン専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	034 食物栄養専攻科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	035 幼児教育保育学科科会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	044 研究・教育活動計画書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	055 ティーチング・ポートフォリオ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	056 学科長・委員・担任等体制一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	061 図書館委員会会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	063 オフィスアワー一覧

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	064 ホームページ「シラバス・課程表」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5902">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5902</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	065 ちょこっとノート
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	066 学生相談室活動報告
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	067 国際交流委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	068 保健室利用状況
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	069 学生委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	070 FD 活動実績
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	019 学習成果部会の議事録（平成 28～30 年度）
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	071 シグナス寮入寮者数一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	072 学科別ケース会議開催日一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	051 学生募集マニュアル
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	045 カリキュラム検討会議事録
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
A 人的資源	
専任教員の個人調書 ■ 教員個人調書 [様式 19]（平成 31 年 5 月 1 日現在） ■ 教育研究業績書 [様式 20]（過去 5 年間（平成 26 年度～平成 30 年度）	075 教員個人調書[様式 19] 115 教育研究業績書[様式 20]
非常勤教員一覧表 [様式 21]	073 非常勤教員一覧表[様式 21]
教員の研究活動について公開している印刷物等 ■ 過去 3 年間（平成 28 年度～平成 30 年度）	074 ホームページ「教育情報の公開」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878</a> 132 教員総覧 2016 133 教員総覧 2017 134 教員総覧 2018 ホームページ[教員紹介] <a href="https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5951">https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5951</a>
専任教員の年齢構成表	135 専任教員の年齢構成表

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
<p>■ 認証評価を受ける年度(平成31年5月1日現在)</p>	
<p>専任教員の研究活動状況表 [様式22]</p> <p>■ 過去5年間(平成26年度～平成30年度)</p>	116 専任教員の研究活動状況表[様式22]
<p>外部研究資金の獲得状況一覧表 [様式23]</p> <p>■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)</p>	117 外部研究資金の獲得状況一覧表[様式23]
<p>研究紀要・論文集</p> <p>■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)</p>	079 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要第73～78号 136 北東アジア文化研究第42号 137 北東アジア文化研究第43号
<p>教員以外の専任職員の一覧表(氏名、職名)</p> <p>■ 認証評価を受ける年度(平成31年5月1日現在)</p>	139 事務職員一覧表
<p>FD活動の記録</p> <p>■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)</p>	081 FD委員会議事録 070 FD活動実績
<p>SD活動の記録</p> <p>■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)</p>	082 SD活動実績 085 自己啓発支援制度の創設について
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	042 教員一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	076 資格審査委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	044 研究・教育活動計画書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	077 研究・教育活動報告書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	078 鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理教育委員会活動記録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	080 専門業務型裁量労働制に関する協定書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	083 とりたん食材まるごと活用プロジェクト資料一式
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	084 学校法人藤田学院事務組織図

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	086 勤怠ワークフロー操作マニュアル(教員・職員)
B 物的資源	
校地、校舎に関する図面 ■ 全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途(室名)を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等	087 学内配置図・平面図
図書館、学習資源センターの概要 ■ 平面図等(冊子等も可)	087 学内配置図・平面図
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	088 鳥取県大学図書館等協議会会則
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	089 H30 ネットワーク構成図
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	090 倉吉商工会議所だより 平成29年3月号
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	091 新聞記事(鳥取中部地震発生に伴う倉吉市への給食管理実習棟無料貸し出し関連)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	092 新聞記事(島根大学教職大学院「サテライト教室」開設関連)
C 技術的資源	
学内 LAN の敷設状況	093 施設更新計画 094 情報処理システム更新資料
マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図	087 学内配置図・平面図
D 財的資源	
寄付金・学校債の募集についての印刷物等	096 寄付金の募集について
財産目録及び計算書類 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)	095 月次試算表 140 財産目録及び計算書類[平成28年度] 141 財産目録及び計算書類[平成29年度] 142 財産目録及び計算書類[平成30年度]
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	002 ステップ50～選ばれ続ける短大をめざして～第5次中期計画
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	097 SWOT分析
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	085 自己啓発支援制度の創設について

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	098 外部資金獲得委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	003 鳥取短期大学・鳥取看護大学連携協定書等一覧
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	070 FD 活動実績
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	082 SD 活動実績
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	083 とりたん食材まるごと活用プロジェクト資料一式
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	099 専門実践教育訓練講座指定等通知書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	100 鳥取短期大学社会人入学生の推移
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
理事長の履歴書 ■ 認証評価を受ける年度(平成31年5月1日現在)	104 理事長の履歴書
学校法人実態調査表(写し) ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)	103 学校法人実態調査表(写し)
理事会議事録 ■ 過去3年間(平成28年度～平成30年度)	020 理事会議事録(平成28～30年度)
諸規程集	※下記に別途記述
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	101 常任理事会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	102 経営戦略検討委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	098 外部資金獲得委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	021 評議員会議事録(平成28～30年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	105 経営改革計画
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	106 ガバナンス・コード
B 学長のリーダーシップ	
学長の個人調書	107 学長の個人調書[様式19]

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教員個人調書 [様式 19] (平成 31 年 5 月 1 日現在)</li> <li>■ 専任教員として授業を担当している場合、「専任教員の個人調書」と同じく、過去 5 年間 (平成 26 年度～平成 30 年度) の教育研究業績書 [様式 20]</li> </ul>	114 学長の教育研究業績書[様式 20]
教授会議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去 3 年間 (平成 28 年度～平成 30 年度)</li> </ul>	041 教授会議事録 (平成 28～30 年度)
委員会等の議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去 1 年間 (平成 30 年度)</li> </ul>	031 国際文化交流学科科会議事録 032 情報・経営専攻科会議事録 033 住居・デザイン専攻科会議事録 034 食物栄養専攻科会議事録 035 幼児教育保育学科科会議事録 019 学習成果部会の議事録 (平成 28～30 年度) 023 自己点検・評価運営委員会議事録 036 教務委員会議事録 045 カリキュラム検討会議事録 049 入学者選考委員会議事録 067 国際交流委員会議事録 061 図書館委員会議事録 069 学生委員会議事録 138 キャリア支援委員会議事録 076 資格審査委員会議事録 081 FD 委員会議事録 037 学科長会議事録 102 経営戦略検討委員会議事録 098 外部資金獲得委員会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	044 研究・教育活動計画書
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	077 研究・教育活動報告書
C ガバナンス	
監事の監査状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去 3 年間 (平成 28 年度～平成 30 年度)</li> </ul>	108 藤田学院の発展のために—監事監査ガイドライン— 109 監事監査計画 110 監事監査調書
評議員会議事録 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去 3 年間 (平成 28 年度～平成 30 年度)</li> </ul>	021 評議員会議事録 (平成 28～30 年度)
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	101 常任理事会議事録
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	020 理事会議事録 (平成 28～30 年度)

備付資料	資料番号・資料名・該当ページ
備付資料]	
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	074 ホームページ「教育情報の公開」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878">https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=5878</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	111 ホームページ「財務情報」 <a href="https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5931">https://www.cygnus.ac.jp/fujita/index.php?view=5931</a>
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	103 学校法人実態調査表（写し）
[報告書作成マニュアル指定以外の備付資料]	112 とっとりプラットフォーム5+α共同研究事業活動推進助成金採択事業

※<諸規程集>

- 規程名は省略せず、個々の名称を全て列挙してください。
- 番号は、規程のみの通し番号としてください。
- 自己点検・評価報告書の<根拠資料>（テーマごと）には、以下のとおり記述してください。
  - ・個々の規程を記述する場合は、「備付資料-規程集」の後に、通し番号及び資料名も記述してください（例：備付資料-規程集 1 ○○委員会規程）。
  - ・基準Ⅳ（様式8）のテーマA「理事長のリーダーシップ」について、備付資料の「諸規程集」全体をあげる場合は「備付資料-規程集」と記述してください。

番号	規程名
001	鳥取短期大学科目等履修生及び聴講生細則
002	鳥取短期大学 GPA（グレードポイントアベレージ）に関する規程
003	鳥取短期大学 IR 部会に関する内規
004	鳥取短期大学カリキュラム検討会に関する規程
005	鳥取短期大学科目の履修及び定期試験の受験に関する細則
006	鳥取短期大学教員資格審査規程
007	鳥取短期大学教員資格審査規程細則
008	鳥取短期大学教員資格審査基準
009	鳥取短期大学入学者選考委員会規程
010	鳥取短期大学入学者選考委員会規程細則
011	鳥取看護大学・鳥取短期大学文書規程
012	鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館規程
013	鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館業務規程
014	鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館委員会規程
015	学校法人藤田学院における情報セキュリティポリシー
016	鳥取短期大学指定寄付奨学金規程

番号	規程名
017	鳥取看護大学・鳥取短期大学学友会規約
018	鳥取看護大学・鳥取短期大学寮運営委員会規程
019	鳥取看護大学・鳥取短期大学学寮規程
020	学校法人藤田学院構内駐車場利用規程
021	鳥取看護大学・鳥取短期大学自動車等通学規程
022	鳥取短期大学学生相談室規程
023	鳥取短期大学国際交流委員会規程
024	鳥取短期大学社会人奨学金規程
025	鳥取短期大学における障害学生等の支援に関する規程
026	鳥取短期大学特別支援教育委員会規程
027	鳥取短期大学社会人入学者の長期履修規程
028	鳥取短期大学地域貢献賞の表彰に関する規程
029	鳥取短期大学とりたん同窓会奨励金施行細則
030	鳥取看護大学・鳥取短期大学キャリア支援委員会規程
031	鳥取短期大学ティーチング・アワード表彰に関する規程
032	鳥取短期大学科学研究費助成事業事務取扱規程
033	鳥取短期大学研究活動の不正行為への対応等に関する規程
034	鳥取短期大学における研究費不正使用の通報及び調査に関する規程
035	鳥取短期大学個人研究費事務取扱規程
036	鳥取短期大学研究費管理規程
037	鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理規程
038	鳥取短期大学内外研究員規程
039	鳥取短期大学受託研究・調査取扱規程
040	鳥取看護大学・鳥取短期大学就業規則
041	鳥取短期大学FD委員会規程
042	鳥取看護大学・鳥取短期大学SD委員会規程
043	学校法人藤田学院人事考課要領
044	学校法人藤田学院稟議規程
045	学校法人藤田学院稟議手続細則
046	学校法人藤田学院特定個人情報取扱規程
047	学校法人藤田学院内部監査実施細則
048	鳥取看護大学・鳥取短期大学非常勤講師就業規則
049	学校法人藤田学院育児・介護休業等に関する規程
050	鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館資料収集・管理規程

番号	規程名
051	鳥取看護大学・鳥取短期大学附属図書館除籍細則
052	学校法人藤田学院経理規程
053	鳥取短期大学の研究費における物品等の調達に関する内規
054	鳥取看護大学・鳥取短期大学防災・消防計画
055	学校法人藤田学院における危機管理に関する規程
056	学校法人藤田学院資金の運用に関する取扱規程
057	鳥取看護大学・鳥取短期大学学長裁量経費規程
058	学校法人藤田学院寄附行為施行規則
059	学校法人藤田学院監事監査規程
060	鳥取短期大学学生懲戒規程
061	鳥取短期大学学長任免規程
062	鳥取短期大学教授会規則
063	鳥取看護大学・鳥取短期大学大学協議会規程
064	鳥取短期大学教務委員会規程
065	鳥取短期大学学生委員会規程
066	鳥取看護大学・鳥取短期大学学術委員会規程
067	学校法人藤田学院経営戦略検討委員会規程
068	学校法人藤田学院外部資金獲得委員会規程

[注]

- 一覧表の「資料番号・資料名・該当ページ」には、備付資料に付した通し番号及び資料名を記載してください。また、ページ番号が示せるものについては、該当ページを記載してください。
- 準備できない資料（例えば、取組み自体を行っていない場合等）については、「該当なし」と記載してください。
- ウェブサイトで公表している場合、一覧表の「資料番号・資料名・該当ページ」にはURLも記載してください。
- 特に指定がなければ、自己点検・評価を行う平成30年度の資料を準備してください。ただし、認証評価を受ける平成31年度に学科改組等で大幅な変更があった場合、平成31年度のものを備付資料として準備してください。
- 「過去3年間」・「過去5年間」の指定がある場合、自己点検・評価を行う平成30年度を起点として過去3年間・過去5年間とします。
- 一覧表を提出する際、①この注意書きは削除せず、②様式10の通しページを付してください。

様 式 11~17

基 礎 デ ー タ

基礎データ

鳥取短期大学

様式	資料名
11	短期大学の概要
12	学生数
13	教員以外の職員の概要
14	学生データ
15	教育課程に対応した授業科目担当者一覧
16	理事会の開催状況
17	評議員会の開催状況

- 1 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述してください。
- 2 様式12及び様式14(①～⑤)には、「長期履修生」が含まれます。
- 3 様式11～17は、「A4用紙 横向き 片面印刷」で印刷してください(このページ及び欄外注〔注〕も含む)。

様 式 11

## 短期大学の概要

短期大学の概要

様式11

(令和元年5月1日現在)

事	項	記	入	欄	備	考
短期大学	名称	鳥取短期大学				
学校本部	所在地	鳥取県倉吉市福庭854				
短期大学士課程	学科・専攻課程の名称	開設年月日	所在地			備考
	国際文化交流学科	平成12年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	生活学科 情報・経営専攻	昭和46年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	住居・デザイン専攻	昭和46年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	食物栄養専攻	昭和46年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
幼児教育保育学科	開設年月日	鳥取県倉吉市福庭854				
専攻科	専攻の名称	開設年月日	所在地			備考
	国際文化専攻	平成15年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	経営情報専攻	平成15年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	住居・デザイン専攻	平成14年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
	食物栄養専攻	平成10年4月	鳥取県倉吉市福庭854			
幼児教育専攻	平成31年4月	鳥取県倉吉市福庭854				
別科等	別科等の名称	開設年月日	所在地			備考
	—	—	—			
学生募集停止中の学科・専攻科等 該当なし						
教育研究組織						

学科・専攻課程の名称	専任教員等										非常勤 教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備 考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち教授数		助手				
							うち教授数	うち教授数					
短期大学士課程	2人	0人	0人	4人	6人	5人	2人	2人	0人	15人	11人	文学関係	
国際文化交流学科	2人	1人	0人	3人	6人	4人	2人	2人	0人	5人	16人	家政関係	
生活学科 情報・経営専攻	3人	1人	0人	1人	5人	4人	2人	2人	1人	17人	13人		
住居・デザイン専攻	4人	0人	0人	2人	6人	4人	2人	2人	3人	16人	13人		
食物栄養専攻	4人	6人	0人	5人	15人	10人	3人	3人	0人	2人	17人	教育学・保育学関係	
幼児教育保育学科	—	—	—	—	—	5人	2人	2人	—	—	—		
(大学全体の入学定員に応じた教員数)	15人	8人	0人	15人	38人	32人	13人	13人	4人	55人	15人		
計													
専攻の名称	専任教員等										非常勤 教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備 考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち教授数		助手				
							うち教授数	うち教授数					
国際文化専攻	2人	0人	0人	3人	5人	—	—	—	0人	9人	0.2人	文学関係	
経営情報専攻	2人	1人	0人	3人	6人	—	—	—	0人	0人	0人	家政関係	
住居・デザイン専攻	3人	1人	0人	1人	5人	—	—	—	1人	3人	0.4人		
食物栄養専攻	4人	0人	0人	1人	5人	—	—	—	3人	2人	0人		
幼児教育専攻	3人	4人	0人	4人	11人	—	—	—	0人	0人	0.1人	教育学・保育学関係	
計	14人	6人	0人	12人	32人	—	—	—	4人	14人	0.2人		

教員組織

施設・設備等		区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	備考
校地等	校舎敷地面積	—	—	17,760 m <sup>2</sup>	3,999 m <sup>2</sup>	10,241 m <sup>2</sup>	32,000 m <sup>2</sup>	鳥取看護大学と共用 大学基準面積 校地 6,000m <sup>2</sup> 校舎 8,950m <sup>2</sup>
	運動場用地	—	—	0 m <sup>2</sup>	17,125 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	17,125 m <sup>2</sup>	
	校地面積計	6,000 m <sup>2</sup>	—	17,760 m <sup>2</sup>	21,124 m <sup>2</sup>	10,241 m <sup>2</sup>	49,125 m <sup>2</sup>	
	その他	—	—	25,756 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	25,756 m <sup>2</sup>	
校舎等	区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計		
	校舎面積計	8,950 m <sup>2</sup>	12,003 m <sup>2</sup>	877 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	12,880 m <sup>2</sup>		
	教員・専攻等の名称	室数						
	国際文化交流学科	6室						
	生活学科	21室						
	幼児教育保育学科	15室						
	区分	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	鳥取短期大学教室等施設	16室	11室	13室	5室	1室		
	サテライトキャンパス等	—	—	—	—	—		
	図書館等の名称	面積	閲覧席数					
鳥取看護大学・鳥取短期大学 付属図書館本館	950 m <sup>2</sup>	117席						
サテライトキャンパス	—	—						
図書館等の名称	図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕	電子ジャーナル〔うち国外〕					
鳥取看護大学・鳥取短期大学 付属図書館本館	76,187〔7,377〕冊	78〔1〕種	0〔0〕種					
サテライトキャンパス	—〔 〕	—〔 〕	—〔 〕					
計	76,187〔7,377〕	78〔1〕	0〔0〕					
体育館その他の施設	体育館面積							
鳥取短期大学	1,424 m <sup>2</sup>							
—	—							

[注]

- 1 学科・専攻課程、専攻科、別科、研究所等ごとに記載してください（通信教育課程を含む）。
- 2 教養教育科目、外国語科目、保健体育科目、教職科目等を担当する独立の組織や、附属研究所、附属病院等がある場合には、「別科等」の欄に記載してください。
- 3 所在地について、2以上の校地において行う場合で当該校地にキャンパス名称があれば、当該所在地の後に「○○キャンパス」と記載してください。
- 4 教育組織の欄には、教育研究組織の欄で記載した組織単位で専任教員等及び非常勤教員の数を記入してください。また、上記2に記載した、学科教育を担当する独立の組織がある場合には、組織名は、「学科・専攻課程の名称」の欄に「その他の組織等(○○)」と記載し、専任教員等及び非常勤教員の数を記載してください。なお、その場合は、「基準数(及び「教授数」)」及び「専任教員一人あたりの在籍学生数」の欄は「一」としてください。
- 5 専任教員数の記入に際しては、休職、サバティカル制度等により一時的に短期大学を離れている場合も専任教員に算入してください。ただし、短期大学設置基準第21条における「授業を担当しない教員」は含めないでください。
- 6 「非常勤教員」の欄には、客員教員や特任教員等で専任の教員は含みません。
- 7 他の学科・専攻課程等に所属する専任の教員であって、当該学科・専攻課程等の授業科目を担当する教員（兼任）は、「非常勤教員」の欄には含めないでください。また、「専任教員等」の各欄にも含めないでください。
- 8 専任教員の基準数については、それぞれ以下に定める教員数を記載してください。
  - ・短期大学設置基準第22条別表第一イ及びロ（備考に規定する事項を含む。）
  - ・短期大学通信教育設置基準第9条別表第一（備考に規定する事項を含む。）
- 9 「専任教員1人あたりの在籍学生数」の欄には、様式2の在籍学生数/本表の専任教員数計により、算出してください。
- 10 「校舎敷地面積」、「運動場用地」の欄は、短期大学設置基準上算入できるものを含めてください。
- 11 寄宿舍その他大学の附属病院以外の附属施設（短期大学設置基準第32条を参照）用地、附属研究所用地、駐車場、大学生協用地など短期大学設置基準上「校地」に算入できない面積は「その他」の欄に記入してください。
- 12 「校舎面積計」の欄は、学校基本調査の学校施設調査票（様式第20号）における学校建物の用途別面積の「校舎」の面積の合計としてください。
- 13 校地面積、校舎面積の「専用」の欄には、当該短期大学が専用で使用する面積を記入してください。「共用」の欄には、当該短期大学が他の学校等と共用する面積を記入してください。「共用する他の学校等の専用」の欄には、当該短期大学の敷地を共用する他の学校等が専用で使用する敷地面積を記入してください。
- 14 「基準面積」の欄は、短期大学設置基準第30条の校地の面積及び第31条の校舎の面積、または短期大学通信教育設置基準第10条の校舎等の施設的面積としてください。
- 15 「教員研究室」の欄は、専任教員数に算入していない教員の研究室は記入する必要はありません。なお、複数の助教等が共同して1室で執務する場合は、教員数を室数に換算してください。

様 式 12

学 生 数

(令和元年5月1日現在)

学科・専攻課程名	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	入学定員に対する平均比率	備考
国際文化交流学科	志願者数	48	51	49	39	45		
	合格者数	45	43	45	39	43		
	入学者数	31	33	38	34	28		
	入学定員	40	40	40	40	40	82%	
	入学定員充足率	78%	83%	95%	85%	70%		
	在籍学生数	59	65	74	73	63		
	収容定員	80	80	80	80	80		
	収容定員充足率	74%	81%	93%	91%	79%		
	志願者数	43	40	50	64	59		
	合格者数	39	37	48	54	52		
生活学科 (情報・経営専攻)	入学者数	33	35	42	49	44		
	入学定員	35	35	35	35	35	116%	
	入学定員充足率	94%	100%	120%	140%	126%		
	在籍学生数	65	66	74	92	92		
	収容定員	70	70	70	70	70		
	収容定員充足率	93%	94%	106%	131%	131%		
	志願者数	22	25	34	33	38		
	合格者数	20	25	33	34	38		
	入学者数	20	23	30	30	32		
	入学定員	30	30	30	30	30	90%	
生活学科 (住居・デザイン専攻)	入学定員充足率	67%	77%	100%	100%	107%		
	在籍学生数	41	43	52	59	62		
	収容定員	60	60	60	60	60		
	収容定員充足率	68%	72%	87%	98%	103%		

学科・専攻課程名	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	入学定員に対する平均比率	備考
生活学科 (食物栄養専攻)	志願者数	58	58	52	37	48		
	合格者数	55	55	49	39	45		
	入学者数	45	50	36	35	43		
	入学定員	50	50	50	50	50	84%	
	入学定員充足率	90%	100%	72%	70%	86%		
	在籍学生数	93	94	84	72	77		
	収容定員	100	100	100	100	100		
	収容定員充足率	93%	94%	84%	72%	77%		
	志願者数	160	159	171	160	138		
	合格者数	154	150	160	147	132		
幼児教育保育学科	入学者数	130	139	141	137	122		
	入学定員	145	145	145	145	145	92%	
	入学定員充足率	90%	96%	97%	94%	84%		
	在籍学生数	269	255	270	271	251		
	収容定員	290	290	290	290	290		
	収容定員充足率	93%	88%	93%	93%	87%		
	志願者数	331	333	356	333	328		
	合格者数	313	310	335	313	310		
	入学者数	259	280	287	285	269		
	入学定員	300	300	300	300	300	92%	
学科(専攻課程)合計	入学定員充足率	86%	93%	96%	95%	90%		
	在籍学生数	527	523	554	567	545		
	収容定員	600	600	600	600	600		
	収容定員充足率	88%	87%	92%	95%	91%		

学科・専攻課程名	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	入学定員に対する平均比率	備考
専攻科	入学定員	55	55	55	55	55		
	入学者数	21	9	3	1	3		
	収容定員	65	65	65	65	65		
	在籍学生数	21	10	5	1	4		

[注]

- 1 学生を募集している学科・専攻課程、専攻科・別科等ごとに行を追加して作成してください。  
ただし、学科・専攻等を追加する場合は、直下に追加しないと集計値がずれてしまうので、注意して下さい。
- 2 昼夜開講制をとっている学科・専攻課程等については、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて記入してください。
- 3 学科・専攻課程の改組等により、新旧の学科・専攻課程が併存している場合には、新旧両方を併記し、「備考」に記載してください。
- 4 学科・専攻課程、専攻科等が完成年度に達していない場合、その旨を備考に記載してください。
- 5 募集定員が若干名の場合は、「0」と記載し、入学者数については実入学者数を記載してください。
- 6 入学定員充足率は、入学定員に対する入学者の割合、収容定員充足率は、収容定員に対する在籍学生数の割合としてください。
- 7 入学定員に対する平均比率は、過去5年分の入学定員に対する入学者の比率を平均したものが自動計算されます。
- 8 最新年度の秋入学については別途確認します。(最新年度の1年前の年度以前については秋入学も含めてください。  
なお、秋入学を含める場合は、秋学期開始日時点の情報をもとに作成してください。)
- 9 編入学の定員を設定している場合、上の表の入学定員には、編入学の定員を加えないでください。

様 式 13

教員以外の職員の概要

教員以外の職員の概要(人)

(令和元年5月1日現在)

	専任	兼任	計
事務職員	32	0	32
技術職員	0	0	0
図書館・学習資源センター等の専門事務職員	3	0	3
その他の職員	0	0	0
計	35	0	35

[注]

- 1 「その他の職員」とは、守衛、自動車運転手、作業員等の技能労務職員等を指します。
- 2 契約職員、派遣職員等は「兼任」に分類してください。

様 式 14

学 生 デ ー タ

## 学生データ

## ① 卒業者数(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	37	41	27	27	36
生活学科					
情報・経営専攻	37	35	29	31	39
住居・デザイン専攻	27	24	21	20	29
食物栄養専攻	51	42	46	42	36
幼児教育保育学科	103	137	135	113	132

## ② 退学者数(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	4	1	2	4	1
生活学科					
情報・経営専攻	7	4	3	2	4
住居・デザイン専攻	0	0	1	1	0
食物栄養専攻	2	2	4	0	2
幼児教育保育学科	12	15	10	8	8

## ③ 休学者数(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	0	3	1	1	0
生活学科					
情報・経営専攻	5	0	0	0	0
住居・デザイン専攻	0	0	0	1	0
食物栄養専攻	1	1	0	2	1
幼児教育保育学科	1	0	2	3	6

④ 就職者数(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	34	21	25	24	29
生活学科					
情報・経営専攻	34	21	30	24	37
住居・デザイン専攻	16	20	15	18	20
食物栄養専攻	39	44	40	46	32
幼児教育保育学科	111	122	110	118	126

⑤ 進学者数(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	1	4	0	1	3
生活学科					
情報・経営専攻	1	0	1	1	0
住居・デザイン専攻	3	1	2	2	3
食物栄養専攻	2	2	1	0	2
幼児教育保育学科	21	8	0	0	1

⑥ 科目等履修生(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	0	0	0	0	0
生活学科					
情報・経営専攻	0	0	0	0	0
住居・デザイン専攻	0	0	0	0	0
食物栄養専攻	0	0	0	0	0
幼児教育保育学科	1	0	0	3	2
科目等履修生	4	5	1	2	4

⑦ 長期履修生(人)

学科・専攻課程	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国際文化交流学科	1	0	0	0	0
生活学科					
情報・経営専攻	0	0	0	0	0
住居・デザイン専攻	0	0	0	0	0
食物栄養専攻	0	0	0	0	0
幼児教育保育学科	1	0	0	0	0

[注]

- 1 学科・専攻課程ごとに、認証評価を受ける前年度の平成30年度を起点とした過去5年間のデータを示してください。
- 2 ⑥及び⑦は、当該年度に在学する学生数を記入してください。

様 式 15

教育課程に対応した  
授業科目担当者一覧

教育課程に対応した授業科目担当者一覧

学科名等 国際文化交流学科

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教 養 科 目	人間学	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	日本国憲法	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	人権論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	国際関係論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻
	芸術	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	幼児教育保育学科
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	生活学科住居・デザイン専攻
	ヒトの科学	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	生活学科食物栄養専攻
	同上	非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤
	同上	非常勤講師	細田武伸	公衆衛生学	非常勤
	現代鳥取学	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	幼児教育保育学科
	同上	非常勤講師	田中 響	学校教育学	非常勤
	同上	特任教授	藤井喜臣	法学	特任教授
	現代鳥取研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	キャリアデザイン入門	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻	
手話コミュニケーション	非常勤講師	和田雅子	社会福祉	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教養科目	英語A	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	英語A	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤
	英語A	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤
	英語A	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤
	英語B	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	英語B	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤
	英語B	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤
	英語B	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤
	中国語I	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤
	中国語I	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤
	中国語II	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤
	中国語II	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤
	韓国・朝鮮語I	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤
	韓国・朝鮮語II	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤
	日本語A	教授	岡野幸夫	国語学	
	日本語B	教授	岡野幸夫	国語学	
	実践スポーツ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	幼児教育保育学科
	実践スポーツ	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻
	健康科学	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻
	専門教育科目	スタディスキル	教授	岡野幸夫	国語学
同上		教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
同上		准教授	渡邊 太	社会学	
同上		助教	板倉一枝	家政学	
同上		助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
同上		助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
プレゼンテーション基礎		非常勤講師	八百谷和子	哲学	非常勤
プレゼンテーション演習		助教	板倉一枝	家政学	
キャリアデザイン		助教	板倉一枝	家政学	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	交流とホスピタリティ	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	同上	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	幼児教育保育学科
	同上	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻
	異文化コミュニケーション	非常勤講師	笹津成一	外国語教育、異文化間コミュニケーション	非常勤
	異文化交流	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	地域社会体験	助教	板倉一枝	家政学	
	同上	准教授	渡邊 太	社会学	
	山陰地域フィールド体験学習	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	
	異文化研修	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	同上	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	歴史と現在	非常勤講師	岸本 寛	日本史	非常勤
	宗教と文化	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	日本の言葉	教授	岡野幸夫	国語学	
	英語圏の文化	非常勤講師	笹津成一	外国語教育、異文化間コミュニケーション	非常勤
	日本語表現法	教授	岡野幸夫	国語学	
	日本語口頭表現	非常勤講師	土居裕美子	日本語学	非常勤
	資格日本語演習	教授	岡野幸夫	国語学	
	基礎英語演習	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	リスニング演習	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	ライティング演習	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	資格英語演習	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤
	基礎英会話	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	実践英会話	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	ビジネス実務概論	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
情報処理演習	助教	板倉一枝	家政学		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	学校教育概論	非常勤講師	福嶋千寿子	国語国文学	非常勤
	読書と豊かな人間性	非常勤講師	倉光信一郎	教育学	非常勤
	対人心理学	非常勤講師	池谷千恵	臨床心理学	非常勤
	人間関係演習	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	地域交流	助教	板倉一枝	家政学	
	同上	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	多文化共生論	准教授	渡邊 太	社会学	
	日本の文学	教授	岡野幸夫	国語学	
	日本社会論	准教授	渡邊 太	社会学	
	日本史	非常勤講師	岸本 寛	日本史	非常勤
	英文講読	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	英語学	非常勤講師	小林昌博	異文化間教育	非常勤
	英米文学	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤
	スピーチ&ディスカッション	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	クリエイティブ・ライティング	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	子ども英語教育法	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	中国語会話	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤
	韓国・朝鮮語会話	非常勤講師	賈 惠京	教育学	非常勤
	社会生活論	助教	板倉一枝	家政学	
	ビジネス実務演習 A	非常勤講師	山脇彰子	英文学	非常勤
	ビジネス実務演習 B	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	資料作成演習	助教	板倉一枝	家政学	
	プレゼンソフト活用演習	助教	板倉一枝	家政学	
	教育心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	生徒指導論	非常勤講師	八田 学	経済学	非常勤
	教育相談	非常勤講師	吉岡裕子	教育学	非常勤
教育実習指導	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育		
教育実習	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	教職実践演習（中学校）	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	
	同上	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	学校図書館メディアの構成	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	学習指導と学校図書館	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	同上	非常勤講師	倉光信一郎	教育学	非常勤
	情報メディアの活用	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	特別研究	教授	岡野幸夫	国語学	
	特別研究	教授	川口康子	英語教育、児童英語教育	
	特別研究	准教授	渡邊 太	社会学	
	特別研究	助教	板倉一枝	家政学	
	特別研究	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	特別研究	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	
	図書館情報技術論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
	図書館情報資源概論	非常勤講師	西尾 肇	文芸	非常勤
	インタースキップA	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	特 別 科 目	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学
同上		助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
同上		教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
同上		教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
同上		准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
同上		准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
インタースキップB		教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
同上		助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	
同上		助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
同上		教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
同上		教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
同上		准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
同上		准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科

学科名等 生活学科情報・経営専攻

(平成30年度)

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教 養 科 目	人間学	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻
	日本国憲法	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
	人権論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	国際関係論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	芸術	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	幼児教育保育学科
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	生活学科住居・デザイン専攻
	ヒトの科学	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	生活学科食物栄養専攻
	同上	非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤
	同上	非常勤講師	細田武伸	公衆衛生学	非常勤
	現代鳥取学	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	幼児教育保育学科
	同上	非常勤講師	田中 響	学校教育学	非常勤
	同上	特任教授	藤井喜臣	法学	特任教授
	現代鳥取研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	キャリアデザイン入門	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻
同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論		
手話コミュニケーション	非常勤講師	和田雅子	社会福祉	非常勤	
英語A	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
英語A	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
英語A	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
英語A	非常勤講師	アイヴアン ティンブレレル	人文学	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置	
教養科目	英語B	助教	レイモンド・レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
	英語B	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤	
	中国語Ⅰ	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語Ⅰ	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	中国語Ⅱ	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語Ⅱ	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	日本語A	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	日本語B	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	実践スポーツ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	幼児教育保育学科	
	実践スポーツ	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻	
	健康科学	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻	
	専門教育科目	経済学	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
		基礎数学	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
基礎統計		准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学		
人間関係論		教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻	
コミュニケーション		非常勤講師	山脇彰子	英文学	非常勤	
ビジネス文書演習		助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論		
表計算演習		助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論		
プレゼンテーション演習		助教	板倉一枝	家政学	国際文化交流学科	
基礎演習A		教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法		
同上		教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法		
同上		准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学		
同上		助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論		
同上		助教	植木 洋	社会政策、労務管理論		
同上		助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	基礎演習B	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
	同上	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	同上	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	キャリアデザイン	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	同上	非常勤講師	三戸鉄也	システム工学	非常勤
	経営学	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	マーケティング	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	中小企業論	非常勤講師	福美秀敏	経済学	非常勤
	現代社会論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	地域経済論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	生活管理概論	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
	同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	生活と法律	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
	企業の法律	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
	基礎簿記	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	簿記Ⅰ	非常勤講師	山中三郎	法学	非常勤
	簿記Ⅱ	非常勤講師	山中三郎	法学	非常勤
	資格簿記A	非常勤講師	山中三郎	法学	非常勤
資格簿記B	非常勤講師	山中三郎	法学	非常勤	
コンピュータ会計	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策		
ビジネス実務概論	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法		
ビジネス実務実習	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法		
ビジネス実務演習A	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法		
ビジネス実務演習B	非常勤講師	山脇彰子	英文学	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	情報処理総論	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	情報処理実務	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	情報数理解	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	ネットワークの基礎	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	ウェブデザインA	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	ウェブデザインB	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	ウェブデザイン演習	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	ウェブプログラミング演習	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	プログラミング	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	データベース	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	マルチメディア演習	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	資格情報処理A	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論	
	資格情報処理B	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	資格情報処理C	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	プロジェクト演習(情報)	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	
	同上	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	
	同上	非常勤講師	三戸鉄也	システム工学	非常勤
	プロジェクト演習(ビジネス)	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	特別研究	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	
特別研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法		
特別研究	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学		
特別研究	助教	藤本直子	ウェブデザイン、東アジア文化論		
特別研究	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論		
特別研究	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
特別科目	インターンシップA	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
	インターンシップB	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科

学科名等 生活学科住居・デザイン専攻

(平成30年度)

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教 養 科 目	人間学	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	
	日本国憲法	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	人権論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	国際関係論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻
	芸術	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	幼児教育保育学科
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	ヒトの科学	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	生活学科食物栄養専攻
	同上	非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤
	同上	非常勤講師	細田武伸	公衆衛生学	非常勤
	現代鳥取学	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	幼児教育保育学科
	同上	非常勤講師	田中 響	学校教育学	非常勤
	同上	特任教授	藤井喜臣	法学	特任教授
	現代鳥取研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	キャリアデザイン入門	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	
同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻	
手話コミュニケーション	非常勤講師	和田雅子	社会福祉	非常勤	
英語A	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
英語A	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
英語A	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
英語A	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置	
教養科目	英語B	助教	レイモンド・レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
	英語B	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	アイヴァン ティンブレ	人文学	非常勤	
	中国語I	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語I	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	中国語II	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語II	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	韓国・朝鮮語I	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	韓国・朝鮮語II	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	日本語A	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	日本語B	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	実践スポーツ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	幼児教育保育学科	
	実践スポーツ	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻	
	健康科学	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻	
	専門教育科目	建築計画原論	教授	倉恒俊一	建築施工	
		建築史	助教	尾崎せい子	建築計画	
デザイン概論		教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計		
デザイン史		教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計		
コンピュータグラフィックスI		准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育		
色彩学		准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育		
カラーコーディネート		非常勤講師	小西裕美	インテリアコーディネート	非常勤	
ソフトウェア演習		教授	河村壮一郎	心理学、教育工学		
人間関係論		教授	河村壮一郎	心理学、教育工学		
建築法規論		教授	倉恒俊一	建築施工		
同上		非常勤講師	布廣智実	建築法規	非常勤	
建築計画各論		助教	尾崎せい子	建築計画		
建築構造論		教授	倉恒俊一	建築施工		
建築施工論		教授	倉恒俊一	建築施工		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	構造デザイン	非常勤講師	中治弘行	建築学	非常勤
	構造力学Ⅰ	非常勤講師	中治弘行	建築学	非常勤
	構造力学Ⅱ	非常勤講師	中治弘行	建築学	非常勤
	建築環境工学	非常勤講師	丁田勝功	建築学	非常勤
	建築設備	教授	倉恒俊一	建築施工	
	建築材料	非常勤講師	吉延匡弘	林産科学・木質工学	非常勤
	建築材料実習	教授	倉恒俊一	建築施工	
	建築設計実習Ⅰ	助教	尾崎せい子	建築計画	
	建築設計実習Ⅱ	非常勤講師	藤原賢治	建築学	非常勤
	建築設計製図	助教	尾崎せい子	建築計画	
	建築CADⅠ	助教	尾崎せい子	建築計画	
	建築CADⅡ	助教	尾崎せい子	建築計画	
	福祉住環境論	教授	倉恒俊一	建築施工	
	福祉住居と施設	非常勤講師	藤原賢治	建築学	非常勤
	インテリアデザイン	助教	尾崎せい子	建築計画	
	インテリアエレメント	教授	倉恒俊一	建築施工	
	同上	非常勤講師	亀田弘之	工業デザイン	非常勤
	パース演習	非常勤講師	奥田博之	インテリアコーディネート	非常勤
	基礎デザインⅠ	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計	
	基礎デザインⅡ	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計	
同上	非常勤講師	山折正樹	プロダクトデザイン	非常勤	
グラフィックデザイン	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育		
同上	非常勤講師	大塚健一朗	写真	非常勤	
イラストレーション	非常勤講師	寺西竜也	漫画	非常勤	
プロダクトデザインⅠ	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計		
同上	非常勤講師	亀田弘之	工業デザイン	非常勤	
プロダクトデザインⅡ	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計		
フィギュア	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計		
コンピューターグラフィックスⅡ	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	コンピューターグラフィックスⅢ	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	コンピューターグラフィックスⅣ	非常勤講師	石田英一	美術教育	非常勤
	WEBデザイン	非常勤講師	石田英一	美術教育	非常勤
	レイアウトデザイン	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計	
	DTP演習	非常勤講師	高田雪枝	グラフィックデザイン	非常勤
	造形基礎	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	造形心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	
	絵画	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	ガラス工芸	非常勤講師	大谷 治	ガラス工芸	非常勤
	染色・織物	非常勤講師	吉田公之介	紺	非常勤
	レザークラフト	非常勤講師	本池良太	レザークラフト	非常勤
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	ビジネス実務概論	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	ビジネス実務演習Ⅰ	非常勤講師	山脇彰子	英文学	非常勤
	ビジネス実務演習Ⅱ	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	学外実務実習	教授	倉恒俊一	建築施工	
	同上	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	
	同上	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計	
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	
	同上	助教	尾崎せい子	建築計画	
	特別研究	教授	倉恒俊一	建築施工	
	特別研究	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	
	特別研究	教授	清水文人	工業デザイン、商品開発、製品設計	
特別研究	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育		
特別研究	助教	尾崎せい子	建築計画		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
特 別 科 目	インターンシップA	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
	インターンシップB	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科

学科名等 生活学科食物栄養専攻

(平成30年度)

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教 養 科 目	人間学	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	日本国憲法	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	人権論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	国際関係論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻
	芸術	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	幼児教育保育学科
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	生活学科住居・デザイン専攻
	ヒトの科学	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	
	同上	非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤
	同上	非常勤講師	細田武伸	公衆衛生学	非常勤
	現代鳥取学	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	幼児教育保育学科
	同上	非常勤講師	田中 響	学校教育学	非常勤
同上	特任教授	藤井喜臣	法学	特任教授	
目	現代鳥取研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	キャリアデザイン入門	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻
	手話コミュニケーション	非常勤講師	和田雅子	社会福祉	非常勤
	英語A	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科
	英語A	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤
	英語A	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤
	英語A	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置	
教 養 科 目	英語B	助教	レイモンド・レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
	英語B	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
	英語B	非常勤講師	アイヴァン ティンブレレル	人文学	非常勤	
	中国語Ⅰ	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語Ⅰ	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	中国語Ⅱ	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤	
	中国語Ⅱ	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤	
	韓国・朝鮮語Ⅰ	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	韓国・朝鮮語Ⅱ	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤	
	日本語A	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	日本語B	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科	
	実践スポーツ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	幼児教育保育学科	
	実践スポーツ	教授	逢坂秀樹	運動生理学		
	健康科学	教授	逢坂秀樹	運動生理学		
	専 門 教 育 科 目	疫学と公衆衛生活動	非常勤講師	田中俊行	医学	非常勤
		看護・介護概論	非常勤講師	伊藤順子	看護・介護	非常勤
解剖生理学		非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤	
解剖生理学実験		非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤	
運動生理学		教授	逢坂秀樹	運動生理学		
生化学		助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
生化学実験		助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
生物有機化学		助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
食品学総論		助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
食品学各論		教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論		
食品学実験		助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
食品加工学		教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活		
食品加工学実習		教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活		
食品保健		非常勤講師	増本年男	予防医学、生理学	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	食品衛生学実験	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	
	フードシステム論	非常勤講師	藤本晴久	経済学	非常勤
	食品官能評価・鑑別演習	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	栄養学総論	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	
	ライフステージ栄養学	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
	ライフステージ栄養学実習	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	臨床栄養学概論	非常勤講師	藤井武親	医学	非常勤
	臨床栄養学各論	非常勤講師	山田恭子	食物栄養	非常勤
	同上	非常勤講師	米原千晶	食物栄養	非常勤
	同上	非常勤講師	西谷留美子	食物栄養	非常勤
	臨床栄養学実習	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	薬理と栄養	非常勤講師	小林康治	薬学	非常勤
	食生活論	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	栄養指導論	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	学校栄養教育論	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	栄養教育実習指導	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	同上	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	栄養指導論実習	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	栄養教育実習	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育	
	同上	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	栄養情報処理演習	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
公衆栄養学	教授	野津あさこ	公衆栄養学、栄養教育		
コミュニケーション論	非常勤講師	藤本百美	心理学	非常勤	
給食管理	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論		
給食管理実習Ⅰ	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論		
給食管理実習Ⅱ	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論		
給食施設実習事前事後指導	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	給食施設実習	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	調理学	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
	調理学実習Ⅰ	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
	調理学実習Ⅱ	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
	教師論	准教授	上島逸子	言語・国語教育	幼児教育保育学科
	教育原理	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	教育心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻
	教育課程論	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	同上	教授	河村壮一郎	心理学、教育工学	生活学科住居・デザイン専攻
	道徳教育論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	特別活動論	非常勤講師	八田 学	経済学	非常勤
	生徒指導論	非常勤講師	八田 学	経済学	非常勤
	教育相談	非常勤講師	八田 学	経済学	非常勤
	教職実践演習（栄養教諭）	教授	野津あきこ	公衆栄養学、栄養教育	
	同上	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	幼児教育保育学科
	情報処理演習	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
	フードスタビリティ論	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
	同上	助教	板倉一枝	家政学	国際文化交流学科
	同上	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
	フードコーディネイト論	非常勤講師	長島明子	英文学	非常勤
	同上	非常勤講師	衣笠優子	食物栄養	非常勤
	食物栄養総合演習A	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
同上	教授	野津あきこ	公衆栄養学、栄養教育		
同上	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学		
同上	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専門教育科目	食物栄養総合演習B	教授	松島文子	調理学、食品加工学、食生活	
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	非常勤講師	藤本晴久	経済学	非常勤
	同上	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	
	同上	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	
	同上	助教	板倉一枝	家政学	国際文化交流学科
	同上	非常勤講師	衣笠優子	食物栄養	非常勤
	同上	非常勤講師	石井陽三	経済学	非常勤
	同上	非常勤講師	山崎恵子	医療事務	非常勤
	同上	非常勤講師	山崎恵子	医療事務	非常勤
	同上	教授	逢坂秀樹	運動生理学	
	同上	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
特別科目	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
	同上	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
	同上	教授	羽根田真弓	音楽教育学	幼児教育保育学科
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	幼児教育保育学科

学科名等 幼児教育保育学科

(平成30年度)

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教 養 科 目	人間学	非常勤講師	荒井 優	宗教学	非常勤
	心理学	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
	日本国憲法	教授	岩井和由	憲法学、刑法、ビジネス実務法	生活学科情報・経営専攻
	人権論	非常勤講師	北村秀徳	教育学	非常勤
	国際関係論	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻
	芸術	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	同上	准教授	前田夏樹	グラフィックデザイン、デザイン教育	生活学科住居・デザイン専攻
	ヒトの科学	助教	加古大也	応用栄養学、食品化学	生活学科食物栄養専攻
	同上	非常勤講師	早川大輔	解剖学	非常勤
	同上	非常勤講師	細田武伸	公衆衛生学	非常勤
	現代鳥取学	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	同上	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	
	同上	非常勤講師	田中 響	学校教育学	非常勤
	同上	特任教授	藤井喜臣	法学	特任教授
	現代鳥取研究	教授	野津伸治	サイバーセキュリティ、数理計画法	生活学科情報・経営専攻
	同上	准教授	三沢英貴	経営工学、システム工学	生活学科情報・経営専攻
	キャリアデザイン入門	教授	河村壮一郎	心理学、教育学	生活学科住居・デザイン専攻
同上	助教	植木 洋	社会政策、労務管理論	生活学科情報・経営専攻	
手話コミュニケーション	非常勤講師	和田雅子	社会福祉	非常勤	
英語A	助教	レイモンド レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科	
英語A	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤	
英語A	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤	
英語A	非常勤講師	アイヴァン ティンブレ	人文学	非常勤	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
教養科目	英語B	助教	レイモンド・レヴィ	日本学、経済学	国際文化交流学科
	英語B	非常勤講師	岡田千陽	英文学	非常勤
	英語B	非常勤講師	大谷 拓	応用言語学	非常勤
	英語B	非常勤講師	アイヴァン ティンブレ	人文学	非常勤
	中国語I	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤
	中国語I	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤
	中国語II	非常勤講師	川口斐斐	幼児心理学	非常勤
	中国語II	非常勤講師	廖 汝幸	教育学	非常勤
	韓国・朝鮮語I	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤
	韓国・朝鮮語II	非常勤講師	鄭 然旭	日本語日本文学	非常勤
	日本語A	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	日本語B	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	実践スポーツ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	実践スポーツ	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻
	健康科学	教授	逢坂秀樹	運動生理学	生活学科食物栄養専攻
	専門教育科目	保育原理I	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論
保育原理II		助教	田川一希	進化する生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
教育原理I		助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
教育原理II		助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
児童家庭福祉		准教授	菅田理一	社会福祉学	
社会福祉		准教授	菅田理一	社会福祉学	
相談援助		准教授	井手添陽子	社会福祉、介護	
社会的養護		准教授	菅田理一	社会福祉学	
保育者論		准教授	上島逸子	言語・国語教育	
保育・教育入門		准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
同上		助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
発達心理学		准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
教育心理学		准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
幼児理解と教育相談		准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	子どもの保健Ⅰ-1	非常勤講師	小村三千代	母子看護学	非常勤
	子どもの保健Ⅰ-2	非常勤講師	小村三千代	母子看護学	非常勤
	子どもの保健Ⅱ	助教	山村裕子	母子保健、公衆衛生看護学、家族看護学	
	子どもの食と栄養	助教	古都丞美	応用栄養学、栄養教育、調理学	生活学科食物栄養専攻
	家族支援論	非常勤講師	田中 進	社会福祉	非常勤
	保育・教育課程論	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	保育内容総論	准教授	上島逸子	言語・国語教育	
	保育内容(健康)	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	保育内容(人間関係)	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
	保育内容(環境)	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	保育内容(言葉)	非常勤講師	小笠原 拓	国語教育学、教育史	非常勤
	同上	准教授	上島逸子	言語・国語教育	
	保育内容(表現)	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	子どもの音楽指導法	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	子どもの造形指導法Ⅰ	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	子どもの造形指導法Ⅱ	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	子どもの運動指導法	教授	松本典子	運動方法学(幼児体育)	
	同上	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	乳児保育1	助教	山村裕子	母子保健、公衆衛生看護学、家族看護学	
	乳児保育2	助教	山村裕子	母子保健、公衆衛生看護学、家族看護学	
	特別二一ズ保育・教育Ⅰ	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	特別二一ズ保育・教育Ⅱ	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	社会的養護内容	准教授	菅田理一	社会福祉学	
保育相談支援	准教授	井手添陽子	社会福祉、介護		
音楽1	教授	羽根田真弓	音楽教育学		
音楽2	非常勤講師	西岡千秋	声楽	非常勤	
音楽3	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学		
音楽4	教授	羽根田真弓	音楽教育学		
音楽4	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	図画工作 I	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	体育 I	教授	松本典子	運動方法学（幼児体育）	
	同上	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	国語	教授	岡野幸夫	国語学	国際文化交流学科
	児童文化 I	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	児童文化 II	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	保育実習指導 I	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	
	同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	同上	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	保育実習 I - 1	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	同上	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	保育実習 I - 2	准教授	菅田理一	社会福祉学	
	同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	保育実習指導 II	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
	同上	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	保育実習指導 III	准教授	菅田理一	社会福祉学	
	同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	保育実習 II	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
	同上	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
保育実習 III	准教授	菅田理一	社会福祉学		
同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	保育・教職実践演習（幼稚園）	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	同上	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	同上	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	同上	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	同上	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	同上	准教授	菅田理一	社会福祉学	
	同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
	同上	准教授	上島逸子	言語・国語教育	
	同上	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	同上	教授	松本典子	運動方法学（幼児体育）	
	同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	教育実習指導	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	同上	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	同上	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	教育実習Ⅰ	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	同上	准教授	上島逸子	言語・国語教育	
	教育実習Ⅱ	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	同上	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	同上	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	レクリエーション概論	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
レクリエーション指導演習 1	教授	羽根田真弓	音楽教育学		
レクリエーション指導演習 2	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学		
情報科学	非常勤講師	藤村喜久郎	情報工学	非常勤	
同上	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育		
特別研究Ⅰ	教授	羽根田真弓	音楽教育学		
特別研究Ⅰ	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学		
特別研究Ⅰ	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学		
特別研究Ⅰ	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論		
特別研究Ⅰ	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学		
特別研究Ⅰ	准教授	上島逸子	言語・国語教育		

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
専 門 教 育 科 目	特別研究 I	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	特別研究 I	助教	山村裕子	母子保健、公衆衛生看護学、家族看護学	
	特別研究 I	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	特別研究 I	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	特別研究 II	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	特別研究 II	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	
	特別研究 II	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	特別研究 II	准教授	國本真吾	特別二一ズ教育学、教育福祉論、地域教育論	
	特別研究 II	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学	
	特別研究 II	准教授	上島逸子	言語・国語教育	
	特別研究 II	助教	宮崎百合	子どもの造形教育、漆工	
	特別研究 II	助教	山村裕子	母子保健、公衆衛生看護学、家族看護学	
	特別研究 II	助教	増田圭佑	教育学、西洋教育史	
	特別研究 II	助教	田川一希	進化生態学、動物・植物間相互作用、環境教育	
	現場実習	准教授	近藤 剛	野外運動学、野外教育学、体育方法学	
	インターンシップA	教授	羽根田真弓	音楽教育学	
	同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻
	同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻
	同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻
同上	准教授	菅田理一	社会福祉学		
同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学		
インターンシップB	教授	羽根田真弓	音楽教育学		
同上	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科	
同上	助教	田村 剛	農業経済学、農業政策、地域政策	生活学科情報・経営専攻	
同上	教授	倉恒俊一	建築施工	生活学科住居・デザイン専攻	
同上	教授	亀崎幸子	給食管理、食品学各論	生活学科食物栄養専攻	
同上	准教授	菅田理一	社会福祉学		
同上	准教授	南 潮	発達心理学、臨床心理学、公衆衛生学		

学科名等 司書科目

(平成30年度)

区分	授業科目	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
司書科目	生涯学習概論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	図書館概論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	図書館制度・経営論	非常勤講師	西尾 肇	文芸	非常勤
	図書館情報技術論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	図書館サービス概論	非常勤講師	西尾 肇	文芸	非常勤
	情報サービス論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	児童サービス論	教授	齊木恭子	絵本学、幼児音楽教育学	幼児教育保育学科
	情報サービス演習	非常勤講師	西尾 肇	文芸	非常勤
	図書館情報資源概論	非常勤講師	西尾 肇	文芸	非常勤
	情報資源組織論	非常勤講師	石黒祐子	図書館情報学	非常勤
	情報資源組織演習	非常勤講師	石黒祐子	図書館情報学	非常勤
	図書館サービス特論	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科
	図書館サービス特論	非常勤講師	天野佳代子		非常勤
	図書・図書館史	助教	長岡絵里佳	図書館情報学、社会教育学	国際文化交流学科

[注]

- 「区分」には、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記入してください。
- 一つの授業科目を複数の教員が担当する場合、「授業科目」を記入の上、次行以降は「同上」とし、全ての担当教員について記入してください。
- 「教員配置」には、以下のように記載してください。
  - 当該学科所属教員は空欄としてください。
  - 他学科所属教員は「学科名」を記載してください。
  - 非常勤・併設大学所属教員は「非常勤」と記載してください。
    - （「非常勤」教員は様式21「非常勤教員一覧表」にも記載してください。）
- 全学科共通の科目群についてはタイトルを「全学科共通」等、複数学科共通の科目群等がある場合にはタイトルを「〇〇学科・〇〇学科共通科目」等とし、単独の表を作成してください。

様 式 16

理事会の開催状況

理事会の開催状況（平成28年度～平成30年度）

開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等		監事の 出席状況	
定員	現員 (a)		出席理事数 (b)	実出席率 (b/a)		意思表示 出席者数
	8	平成28年5月27日 13:00～14:25	7	87.5%	0	2/3
	8	平成28年5月27日 16:05～17:15	8	100.0%	0	3/3
	8	平成28年9月16日 13:30～15:30	8	100.0%	0	3/3
	8	平成29年1月24日 15:00～16:40	6	75.0%	0	2/3
	8	平成29年3月27日 13:30～14:00	8	100.0%	0	3/3
	8	平成29年3月27日 16:00～17:30	8	100.0%	0	3/3
	8	平成29年4月 1日 13:30～13:45	8	100.0%	0	3/3
	8	平成29年5月24日 13:00～14:25	8	100.0%	0	2/3
	8	平成29年5月24日 16:00～17:30	8	100.0%	0	2/3
	8	平成29年9月19日 13:30～16:10	8	100.0%	0	3/3
7～8	8	平成30年1月22日 15:00～16:50	8	100.0%	0	3/3
	8	平成30年3月27日 16:00～18:00	8	100.0%	0	3/3
	8	平成30年5月28日 13:00～14:25	7	87.5%	1	3/3
	8	平成30年5月28日 16:00～17:30	7	87.5%	1	3/3
	8	平成30年7月25日 13:00～14:30	8	100.0%	0	3/3
	8	平成30年9月18日 13:30～15:40	8	100.0%	0	2/3
	8	平成31年1月22日 15:00～17:00	6	75.0%	2	3/3
	8	平成31年3月26日 13:00～13:30	8	100.0%	0	3/3
	8	平成31年3月26日 15:30～17:30	8	100.0%	0	3/3

[注]

- 1 平成28年度から平成30年度までに開催した全ての理事会について記入・作成してください。
- 2 「定員」及び「現員(a)」欄には、開催日当日の人数を記入してください。
- 3 「意思表示出席者数」欄には、寄附行為に「書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす」等が規定されている場合、出席理事数(b)の外数で、該当する人数を記入してください。
- 4 「実出席率(b/a)」欄には、百分率で小数点以下第1位まで記入してください(小数点以下第2位を四捨五入)。
- 5 「監事の出席状況」欄には、「/」の右側に監事数(現員)を記入し、左側に当該理事会に出席した監事数を記入してください。

様 式 17

## 評議員会の開催状況

## 評議員会の開催状況(平成28年度～平成30年度)

開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況
定員	現員(a)		出席評議員数 (b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
17	17	平成28年5月27日 14:35～16:00	15	88.2%	2	2/3
	17	平成28年9月16日 10:30～12:10	17	100.0%	0	3/3
	17	平成29年1月24日 13:00～14:40	11	64.7%	6	2/3
	17	平成29年3月27日 14:00～15:30	17	100.0%	0	3/3
	17	平成29年5月24日 14:30～16:00	14	82.4%	3	2/3
	17	平成29年9月19日 10:30～12:20	16	94.1%	1	3/3
	17	平成30年1月22日 13:00～14:50	17	100.0%	0	3/3
	17	平成30年3月27日 14:00～16:00	16	94.1%	1	3/3
	17	平成30年5月28日 14:30～16:00	14	82.4%	2	3/3
	17	平成30年7月25日 10:30～12:00	15	88.2%	2	3/3
	17	平成30年9月18日 10:30～12:20	15	88.2%	2	3/3
	17	平成31年1月22日 13:00～14:50	14	82.4%	3	3/3
	17	平成31年3月26日 13:30～15:30	16	94.1%	0	3/3

## [注]

- 1 平成28年度から平成30年度までに開催した全ての評議員会について記入・作成してください。
- 2 「定員」及び「現員(a)」欄には、開催日当日の人数を記入してください。
- 3 「意思表示出席者数」欄には、寄附行為に「書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす」等が規定されている場合、出席評議員数(b)の外数で、該当する人数を記入してください。
- 4 「実出席率(b/a)」欄には、百分率で小数点以下第1位まで記入してください(小数点以下第2位を四捨五入)。
- 5 「監事の出席状況」欄には、「/」の右側に監事数(現員)を記入し、左側に当該評議員会に出席した監事数を記入してください。